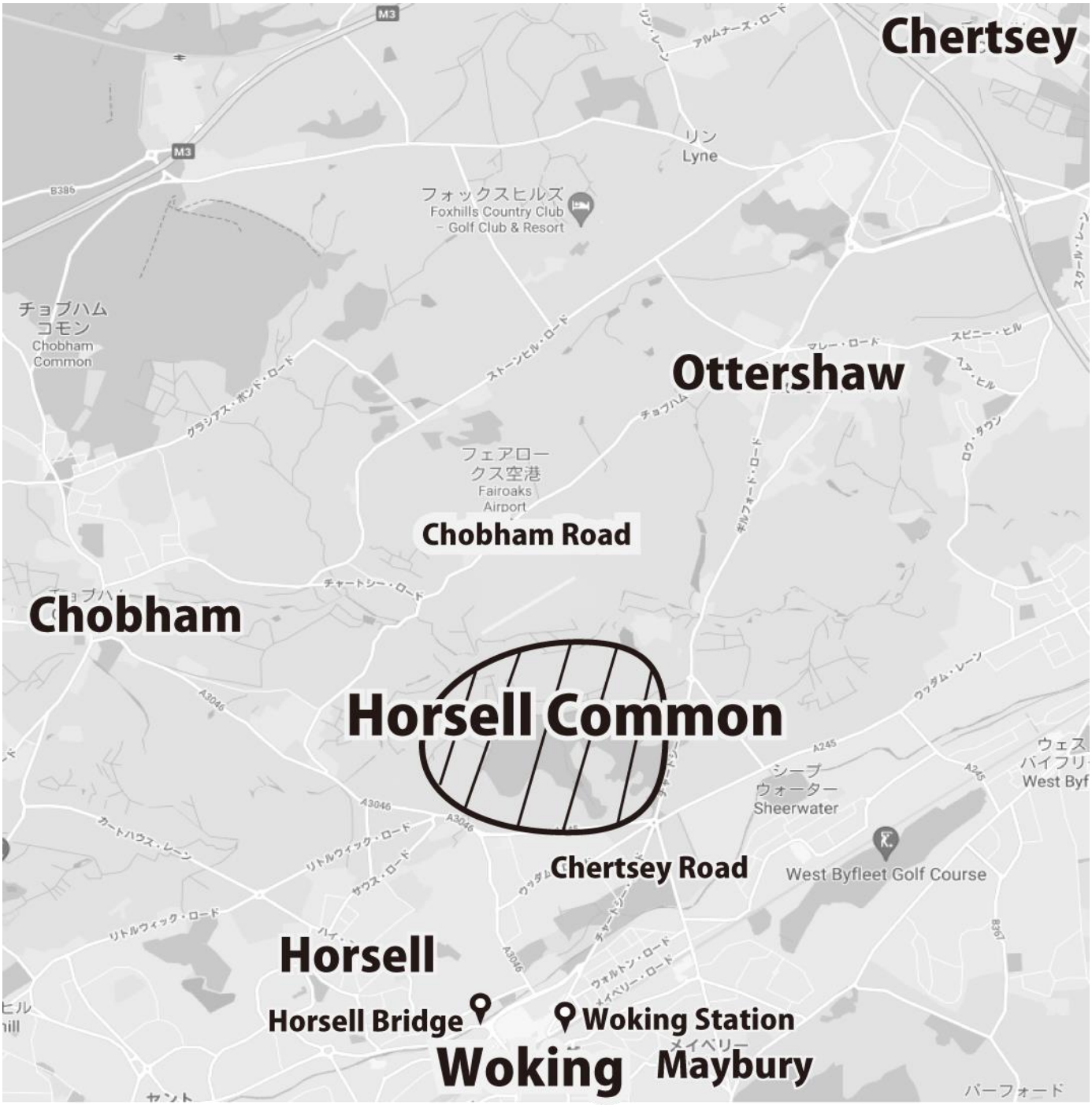
# 宇宙戦争　Book1　Chapter Ⅰ～Ⅹ　総集編
## ―Web 公開バージョン―

イギリスの地名がたくさん出てきて、よくわからない人も多いと思いますので、話に出てくる主要な地名の地図を載せておきます（地図引用：Google Map）。

＜Horsell Common 近辺＞
※火星人を乗せた円筒は Horsell Common に落下しました。




ちなみに、Woking は、だいたいロンドンの南西すぐ近くですね。火星人やってきたらゴジラが東京湾に現れるが如くロンドン壊滅確定です。

[目次へ戻る]

＜全体図＞

Chobham
Horsell Horsell Common
Woking Station
このあたり自宅
Woking
Maybury
Pyrford
Old Woking
Send
Ripley
Ottershaw
Byfleet
Addlestone
至 Chertsey
Leatherhead
1 km

[目次へ戻る]

目次（クリックで飛べます）

Book 1　Chapter 1
THE EVE OF THE WAR.

Book 1　Chapter 2
THE FALLING STAR.

Book 1　Chapter 3
ON HORSELL COMMON.

Book 1　Chapter 4
THE CYLINDER OPENS.

Book 1　Chapter 5
THE HEAT-RAY.

Book 1　Chapter 6
THE HEAT-RAY IN THE CHOBHAM ROAD.

Book 1　Chapter 7
HOW I REACHED HOME.

Book 1　Chapter 8
FRIDAY NIGHT.

Book 1　Chapter 9
THE FIGHTING BEGINS.

Book 1　Chapter 10
IN THE STORM.

[目次へ戻る]

＜記述ルール＞
第１章は例外ですが、第２章以降は、１文ごとに分けて、難しい単語はアスタリスク（*）をつけて、カッコの中に原形を記載し、**原形の**意味を記載してます。また、文法上などの解説も記載してあります。あと、1 段落ごとに訳を作っています。
・基本的にカッコは
接続詞節→【】　例：I know 【that he is smart】.
挿入語・句・節→《》　例：The man,《who I saw yesterday》, is crossing the street.
関係詞節→〔〕　例；The house 〔whose roof is red〕 is a library.
副詞句→()　例：Let me (at least) clean up.
形容詞句→〈〉　例：I don't know the man〈standing over there〉.
です。たまに間違えてるかもです。

# The War of the Worlds

H・G・Wells

## Book 1

## Ⅰ.　THE EVE OF THE WAR.

※　１章のみ特別に、主語は太字、動詞（のかたまり）は二重下線を引いてます。
※　１章はめちゃくちゃ丁寧にやってます。
＜１段落目＞
**No one** would have believed in the last years of the nineteenth century【that **this world** was being watched keenly and
19 世紀の末期のころ　以下 believed の目的語　鋭く

closely by intelligences greater than man's and yet as mortal as his own】; 【that【as **men** busied themselves about
近くで　知的生命体　①　人々の　しかし　② 死ぬ運命の　～の間　せわしく動く
man＝人々　以下も believed の目的語

their various concerns】 **they** were scrutinised and studied, perhaps almost as narrowly as **a man (with a microscope)**
様々な 関心事　調査する　念入りに　顕微鏡
they は men（人々）のこと

might scrutinise the transient creatures 〔that swarm and multiply in a drop of water〕】.
観察する　儚い(小さな)　生物　群れる　増殖する

(With infinite complacency) **men** went to and fro over this globe about their little affairs, serene in their assurance of
果てしない　独善　あちこちに　地球　平和な　確信

their empire over matter.

[目次へ戻る]

It is possible 〔**that the infusoria under the microscope do the same**〕.
考えられる　　繊毛虫類
It 形式主語。　that 以下が真の主語。

**No one** gave a thought to the older worlds of space as sources of human danger, or thought of them (only to dismiss
① ～を考える　　宇宙　原因　　② ただ～する（結果）
them は the older worlds of space

the idea (of life upon them) as impossible or improbable).
この them も同様。　起こりそうにない

It is curious **to recall some of the mental habits of those departed days.**
好奇心をそそる　思い出す　　過去の
It 形式主語。　to 以下が真の主語。

At most **terrestrial men** fancied 【there might be **other men** upon Mars, perhaps inferior to themselves and ready to
地球上の　空想する　かもしれない　≒on　① ②
以下 fancied の目的語　　themselves は「地球人自身」

welcome a missionary enterprise】.
歓迎する　伝える　事業

Yet across the gulf of space, **minds** 〔that are to our minds 【as ours are to those of the beasts 〔that perish〕】〕,
しかし　深淵　人（火星人）　この as は「～のように」　動物　滅びる
across には「向こう側」という意味もある　　ours=our minds

《intellects 〈vast and cool and unsympathetic〉》, regarded this earth with envious eyes, and slowly and surely drew
知性　非情な　① 眺める　嫉妬の　確実に ②

their plans against us.

And early in the twentieth century came **the great disillusionment.**
初期　幻滅

＜１段落目注釈＞
※would have P.P.で「～だっただろう」。No one would have believed は「誰も信じていなかっただろう」。ここで would believe とすると、現在推量になり「信じているかもしれない」という意味になってしまいます。
※greater than man's と as mortal as his own はそれぞれ一つの大きな形容詞となって intelligences にかかっているわけですね。二語以上の修飾は後置修飾となります。
※his own は「彼ら自身」となりますが、ここでの「彼」は man（人々）を指しています。
※「；」は簡単に言えば、接続詞の代わりみたいなものです。
※この作者はイギリス人なので、イギリス英語です。アメリカ英語で語尾が ize になる単語の語尾が ise になることが結構あります。

[目次へ戻る]

※give a thought≒think なわけですが、take a look とか make a call みたいに、「基本動詞+動詞の名詞形」と同じような感じなのでしょうかね。
※「dismiss…as～」で、「～だとして…を捨て去る」
※5 文目、文章全体は回想している感じで、過去形のところ、5 文目は「is」と現在形になっていますから、これは語り手にとっての「今」のことを言っているのです。departed days、過去というのは今までの文で述べてきた、人々が宇宙人や宇宙に関心を一切向けていなかったことの頃を表していて、mental habits というのはそういう人間の心の様子、思考のことを表しているのだと解釈しました。
※might は may の過去形。時制の一致です。なお、時制の一致以外で might は現在推量として使われます。may とほぼ同じ意味になります（可能性やや低め）。で、「かもしれなかった」は、「might(may) have PP」で表します。
※inferior to～ですが、「～より劣る」という意味になります。junior や senior 同様、語尾が or なので「～より」は than ではなく to です。
※ready to V で「V する用意ができている」
※「intellects vast and cool and unsympathetic」のところは付加情報的なものですね。
※And the great disillusionment came early in the twentieth century.が元の文章で、後半の「20 世紀初頭に来たよ」というのを強調したいがために、位置が入れ替わる倒置が起こっているんでしょうね。だって、倒置が起こっていないとすれば、come が他動詞として使われることになってしまいます。他動詞の場合「～のように振る舞う」という意味になり、「20 世紀初頭のように大きな幻滅が振る舞う」という謎の文章になります。ですから倒置が起こっていると考えるのが妥当でしょう。
※dis（否定）+illusionment（幻想）＝disillusionment（幻滅）という構造ですね。

＜1 段落目の訳＞
19 世紀の末期の頃、人々より優秀だが人々と同じく死ぬ運命にある知的生命体によってこの世界が鋭く、近くで観察されていたことや、人々が様々な関心事をめぐってせわしく動いている間に、顕微鏡で水の底で群れて増殖する小さな生物を観察するのとほとんど同じくらい念入りに人々が調査・研究されていたことは誰も信じていなかっただろう。
果てしない独善を持つ人々は、帝国が安泰で平和だという確信をもって地球のあちこちへ小さな事柄について調べに行った。
顕微鏡の下の繊毛虫類も、同じこと（前文の、あちらこちらへ動き回ること）をしていたと考えられる。
人間の危険の原因として古い宇宙の世界を考える人は誰もいないし、古い宇宙の世界を考えたとしても、不可能で起こりそうにないとして生命が宇宙にいるという考えを捨て去ることとなるだろう。
過去のそうした人々の思考を思い出すことは好奇心をそそられる。
せいぜい地球の人々だけが、地球人より劣っていて、（地球の文化を）伝える事業を歓迎する用意ができている他の生物が火星に住んでいるかもしれないと空想しただろう。
しかし宇宙の深淵の向こう側では、大きく冷たく非情な知性を持つ火星人が、滅びる動物へ人々が向けるように私たちの方を、この地球を嫉妬の目で眺めていて、ゆっくりと確実に私たちに対する計画を練っていた。
そして 20 世紀初頭、大きな幻滅がやってきた。

＜2 段落目＞
**The planet Mars**, 《I scarcely need remind the reader》, revolves about the sun at a mean distance of 140,000,000
ほぼ～ない　思い出させる　読者　～のまわりを回る　平均

[目次へ戻る]

miles, and **the light and heat** 〔**it receives from the sun**〕 is barely half of that 〈received by this world〉.
it は Mars　　辛うじて　that は the light and heat（that は the+単数）

**It** must be, 《if **the nebular hypothesis** has any truth》, older than our world; and 【long before **this earth** ceased to be
It=Mars　　星雲説　　しなくなる

molten】, **life upon its surface** must have begun its course.
溶かされる　its=Mars'　過程
molten は melt の過去分詞

**The fact that it is scarcely one seventh of the volume of the earth** must have accelerated its cooling to the temperature
it=Mars　7 分の 1　体積　加速する　冷却
この that は同格の that です。The fact=it is～という関係になります。

〔at which life could begin〕.

**It** has air and water and all 〔**that** is necessary for the support of animated existence〕.
It=Mars　　生き生きした　存在

＜2 段落目注釈＞
※「…Mars, I scarcely need remind the reader, revolves…」という風に、カンマが両端にありますが、カンマで挟まれたところは挿入句です。
※scarcely が否定の意味を含むから、助動詞 need が使えます（助動詞 need 肯定文は不可）。
※説明は不要でしょうが、received by this world は分詞形容詞となって that（the light and heat）にかかります。
※「読者に思い出させる必要はほぼない」と書いてますが、僕はこの事実を初めて知りました。
※星雲説というのは「太陽の周囲を回る星間物質が固まって惑星ができたという説」らしいです。
※must have P.P.で「～だったに違いない」　（≠「しなければならなかった」）

＜2 段落目の訳＞
読者に思い出させる必要はほぼないだろうが、火星という惑星は太陽のまわりを平均距離 1 億 4000 万マイル（1 マイル≒1.6 km）で回っていて、太陽から受け取る光と熱は、地球が受け取る光と熱の辛うじて半分である。
もし星雲説が何らかの真実であったとしたら、火星は私たちの世界より古いに違いないし、この地球が溶かされなくなったころよりずっと前に、火星の上で生命が進化の過程を始めていたに違いない。
火星が地球の体積のわずか 7 分の 1 であるという事実は、生命が誕生できる温度への冷却を加速させたに違いない。
火星には、空気、水、生き生きした存在（生物）の助けとなるために必要なすべてのものがあった。

＜3 段落目＞
Yet so vain is **man**, and so blinded by his vanity, that **no writer**, (up to the very end of the nineteenth century),
≒but　うぬぼれた　目がくらんだ　虚栄心　作家　～に至るまで
↑so――――――――――――――――――――――↑that だから、so… that 構文が使われているのは OK？

[目次へ戻る]

expressed any idea 【that **intelligent life** might have developed there far, or indeed at all, beyond its earthly level 】.
表現する　聡明な　超える　地球の
前置詞

Nor was it generally understood 【that 【since **Mars** is older than our earth, with scarcely a quarter of the superficial
～もない　一般には　that 以下が真の主語です。長すぎるので太字にしません。　表面の
it 形式主語（that 以下が真の主語）

area and remoter from the sun】, it necessarily follows 【that it is not only more distant from time's beginning but
より遠い（remote の比較級）　必ず　（当然)～となる　遠い
it 形式主語（that 以下真の主語）　↑not only――――――――――――↑but 構文
nearer its end】.

＜3段落目注釈＞
※「so vain is man」のところですが、本来なら「man is so vain」となります。うぬぼれているということを強調したいから、倒置が起こっているわけです。
※up to～century はカンマで両端区切られていて、補足説明ですね。
※倒置を使わないで書いたり、up to～century の補足説明を抜いたりすると、構造が見えやすいです。
Yet man is so vain and so blinded by his vanity that no writer expressed any idea
となります。so～that…です。「あまりに～なので…だ」という意味になります。
※earth+ly→earthly です。名詞に ly がつくと形容詞になります。
※Not+or→Nor で等位接続詞です。
※「Nor was it～」となっていますが、Sirius で「He is kind. So is she. （彼は優しいです。彼女もそうです。）」みたいなの、やりましたよね。これと同じで、前の文章を受けて、「Nor V S」となることで、「～もまたない」という意味になります。まあ、強調したいからじゃなくて、文法上仕方なく倒置になっているだけなんですが。

＜3段落目の訳＞
だが、人々はあまりにもうぬぼれて虚栄心に目がくらむので、聡明な生命が遠く火星で発展し、また、実に全く、地球のレベルを超すような発展をしたかもしれないという考えを、19 世紀が終わる直前に至るまで、どの作家も文章に表現しなかった。
火星は私たちの地球より古く、表面積はわずか 4 分の 1 で、太陽からより遠いので、始まりからより時間が立っているだけでなく終わりも必ずより近いことも一般には理解されることがなかった。

＜4段落目＞
The secular cooling 〔**that** must someday overtake our planet〕 has already gone far indeed with our neighbour.
永年の　寒冷化　襲う

**Its physical condition** is still largely a mystery, but **we** know now 【that (even in its equatorial region) **the midday**
自然の　大部分は　赤道付近の　真昼の

**temperature** barely approaches that of our coldest winter】.
気温　that＝the midday temperature

[目次へ戻る]

**Its air** is much more attenuated than ours, **its oceans** have shrunk 【until **they** cover but a third of its surface】,
① 希薄な ② 小さくなる ～を除いて（前置詞）

and 【as **its slow seasons** change】 **huge snowcaps** gather and melt about either pole and periodically inundate
～につれて ③ 冠雪 ～の近くに 北・南極 定期的に 水浸しにする
(1) (2)

its temperate zones.
温暖な

**That last stage of exhaustion**, 〔which (to us) is still incredibly remote〕, has become a present-day problem for the
枯渇 我々にとって 信じられないほど

inhabitants of Mars.
住人

**The immediate pressure of necessity** has brightened their intellects, enlarged their powers, and hardened their hearts.
圧力 必要性 ①有望にする ② 増やす ③ 非情になる

And looking across space with instruments, and intelligences 《such as **we** have scarcely dreamed of》, **they** see, (at

its nearest distance only 35,000,000 of miles sunward of them), a morning star of hope, our own warmer planet, green
太陽に向かって

with vegetation and grey with water, with a cloudy atmosphere eloquent of fertility, with glimpses through its drifting
草木 大気 ～をよく表している 肥沃 一見 さまよう

cloud wisps of broad stretches of populous country and narrow, navy-crowded seas.
巻雲（すじ雲） 広がり 人口の多い

＜４段落目注釈＞
※enlarge というのがありますが、enrich（豊かにする）みたいに、en がくっつくと動詞になることがあります。
※glimpses through…というのがありますが、「さまよう巻雲を通した一見」みたいにするとおかしいので、ちょっと意訳してます。

＜４段落目の訳＞
我々の惑星をいつか襲うに違いない永年の寒冷化は実に遠い我々の隣人にすでに到来していた。
火星の自然の状況は大部分がまだ謎であるが、私たちは今、火星の赤道付近の地域でさえ、真昼の気温が私たちの最も寒い冬の真昼の気温に辛うじて届くくらいであることを知っている。
火星の大気は我々の惑星よりさらに希薄で、海は表面の３分の１を除き覆われるまで小さくなり、ゆっくりとした季節が変わるにつれて、巨大な冠雪はどちらかの極に集まって溶けて、定期的に温暖な地域を水浸しにする。
我々にとってまだ信じられないほど遠い未来の、海や資源などが枯渇する最後の段階は火星の住人にとって、現在の問題となっていた。
その即時の必要性の圧力は火星の知的生命体の未来を明るくし、力を増やし、心を非情にした。

[目次へ戻る]

そして、道具を使い、我々がほとんど夢にも見ないような知性で彼らが宇宙の向こう側を見たとき、太陽に向かって（地球と）最短の距離がたった 3500 万マイルである彼らは、希望の朝の星、我々自身の暖かい星、草木の緑と水の灰色を見た。その星は肥沃さをよく表す曇りの大気に覆われ、人口の多い国と狭く艦隊が群れる海の大きな広がりの上に巻雲がさまよっていた。

＜5段落目＞

And **we men**, 《the creatures 〔**who** inhabit this earth〕》, must be (to them) at least as alien and lowly as are **the**
住む　異質な　卑しい

**monkeys and** lemurs to us.
キツネザル

**The** intellectual **side of man** already admits 【that **life** is an incessant struggle for existence】, and **it** would seem 【that
知識のある　絶え間ない　争い　存在

**this** too is the belief of the minds upon Mars 】.
信念

**Their world** is far gone in its cooling and **this world** is still crowded with life, but crowded only with 〔what **they** regard
深く進んでいる　①　②　みなす

as inferior animals〕.

**To carry warfare sunward** is, (indeed), their only escape from the destruction 〔**that**, (generation after generation),
戦争行為　脱出　破壊　世代

creeps upon them〕.
忍び寄る

＜5段落目注釈＞

※「as are the monkeys and lemurs」というのは、倒置が起こっています。「as the monkeys and lemurs are 」が元の文章で、主語が前にひょっこり出てきて倒置になっています。as と than の後の倒置はたまにあるようです。

※it seems that S V ≒S seems to V = S が V であるように思われる

※what 節で、「～のもの」「～のこと」という意味になります。

＜5段落目の訳＞

そして、地球に住む生物である私たち人々は、彼ら（火星人）にとって、少なくとも、私たちにとってのサルとキツネザル同様、異質で卑しいに違いない。

知識のある側の人は、生命は存在をめぐる絶え間ない争いであり、このことも火星の人々の信念であるように思われるということを既に認めていた。

彼らの世界は冷却が深く進み、この世界はまだ生命であふれていたが、この世界は彼らが劣った動物としてみなす

[目次へ戻る]

ものだけであふれていた。
太陽の方へ（＝地球へ）戦争をもってくることは、実に、彼らに対して世代から世代へと忍び寄る唯一の破壊からの脱出であった。

＜６段落目＞　※これだけちょっと別でやったのでスタイルがおかしいですけど。
And 【before **we** judge of* them too harshly*】, **we** must remember 〔what ruthless* and utter* destruction* 〔**our own species*** has wrought*〕, not only upon animals, 《such as the vanished bison and the dodo》, but upon* its inferior* races*〕.

- judge of 〔代名詞〕→〔代名詞〕について断定する　harshly→厳しく　ruthless→無慈悲な　utter→徹底的な　destruction→破壊　species→種　wrought（work の過去分詞形。ただし特定の場合にしか使わないし、やや古い）　upon≒on　vanished（vanish）→消える　inferior→劣った　race→人種・種族

※ destruction は名詞で、our own species も名詞、has wrought が動詞だから、「名詞+名詞+動詞」になっていることも踏まえると、our own species の前に、関係代名詞 which（that）が省略されているんだなということがわかります。

※ upon があるのは、「destruction upon～」という感じに繋がっているからだと思います。で、分かりづらいですが not only A but <also> B の構文が使われているのが見えますね。「A だけでなく B も」という意味ですね。

**The Tasmanians,** 《in spite of their human likeness》, were entirely swept out of existence in a war of extermination 〈waged by European immigrants〉, in the space of fifty years.

- Tasmanian→タスマニア人　likeness→類似　entirely→完全に　existence→存在　extermination→絶滅　waged（wage）→行う　immigrant→移民

Are **we** such apostles of mercy as to complain 【if **the Martians** warred in the same spirit】?

- apostle→主唱者、擁護者　mercy→慈悲　complain→不平を言う　Martian→火星人

※ 「such A as to V」で、「V するほどの A」という意味です。

※ ちなみに Apostle には、キリストの 12 使徒という意味もあります。

＜６段落目の訳＞
侵略してくる火星人を厳しく悪だと断定する前に、私たちは私たち自身の種が、バイソンやドードーなどの動物だけでなく劣った人種に対しても行った、無慈悲で徹底的な破壊のことを思い出さなくてはならない。
タスマニア人は我々白人との人間としての類似にもかかわらず、ヨーロッパからの移民により行われた戦争で 50 年の間に存在が完全に一掃された。
もし火星人が、私たちがその他の種に対して行ったのと同じ精神で戦争を仕掛けてきたとして、私たちは不平を漏らせるほど慈悲的な行為をしていただろうか？

＜７段落目＞
**The Martians** seem to have calculated their descent with amazing subtlety—**their mathematical learning** is evidently
①　計算する　下降　繊細さ　数学の　明らかに

[目次へ戻る]

far in excess of ours—and to have carried out their preparations with a well-nigh perfect unanimity.
～を超過した　②　実行する　準備　ほとんど　満場一致

Had our instruments permitted it, we might have seen the gathering trouble far back in the nineteenth century.
許す　厄介事

Men (like Schiaparelli) watched the red planet—it is odd, by-the-bye, 【that (for countless centuries) Mars has been
①　異常な　ついでながら　無数の
it＝the red planet (=Mars)

the star of war】—but failed to interpret the fluctuating appearances of the markings〔they mapped so well〕.
②　解釈する　変動する　外見　模様　地図に表す
fail to V：「～に失敗する」

All that time the Martians must have been getting ready.
その間ずっと

＜7段落目注釈＞
※あ、この文の主な時制は seem とありますから現在形で、過去を振り返って書いているので、have calculated は大過去を表すのでしょう。seem to have P.P. とか 助動詞 have P.P.とかは、（過去）完了の意味にも大過去の意味にもとれますからね。
※なんか文頭に Had が出てきて謎極まりないですが、元の文章は
If our instrument had permitted it, we might have seen the gathering trouble …
という形でして、「If + S + had + P.P. + S + 助動詞過去形 + have + P.P.」という、「仮定法過去完了」と呼ばれる構造をしています。「もし～だったら～だったのに」という意味です。仮定法は現実に起こったことに反することを言っています。現実に反する仮の想い、反実仮想です。古文の「まし」と似たような感じです。
仮定法については詳しい説明は省きますが、仮定法において、If が省略されて動詞が前に出てきてしまうという倒置が発生する場合があります。
※Schiaparelli（スキャパレリ）は、火星の研究で有名なイタリアの学者。彼が火星の表面に線上の模様を発見したと発表したところ、英語に翻訳される際にその模様が canal（運河）と訳されてしまい、火星に人工的なものがある、というデマが広がることになってしまったそうです。
※All that time → その間ずっと　All time → 前代未聞の　All the time → 過去何回も

＜7段落目の訳＞
火星人は驚くべき繊細さで地球への下降を計算し ―彼らの数学の学識は明らかに私たちをはるかに超過していた―そしてほとんど完璧な火星人全員の一致で、準備を実行したように思える。
もし私たちの計器（の能力が）許したのならば、19世紀に遠く後方で集まる厄介事を見られたかもしれないのに。スキャパレリのような人がその赤い星を観察したが ―それは異常で、ついでながら、無数の世紀の間、火星は戦争の星であった― だが、彼らは地図にしっかり表したはずの模様の外見が変動することの解釈ができなかった。
その間ずっと、火星人は用意をしていたに違いない。

＜8段落目＞
(During the opposition of 1894) a great light was seen on the illuminated part of the disk, first at the Lick Observatory,
惑星の衝　照らされた　観測所

[目次へ戻る]

then by Perrotin of Nice, and then by other observers.
観測者

**English readers** heard of it first (in the issue of Nature 〈dated August 2〉).
印刷物 （日付）の

I am inclined to think 【that **this blaze** may have been the casting of the huge gun, in the vast pit 〈sunk into their
～したい気になる 炎 鋳造 穴

planet〉, 〔from which their shots were fired at us〕】.

**Peculiar markings**, 《as yet unexplained》, were seen near the site of that outbreak during the next two oppositions.
妙な 模様 まだ 発生
that outbreak は大砲が放たれたことを指す

＜８段落目注釈＞
※「衝」は、太陽―地球―火星となるときです。太陽と火星が「反対」だから oppose（反対する）の系列の言葉である opposition なんですね。

＜８段落目の訳＞
1894 年の衝の間、大きな光が（火星で）円盤の照らされた部分に見られた。最初はリック観測所で、そのあとニース（フランスの町）のペロタンによって、そしてそのあと、他の観測者によって。
イングランドの読者は初めて、８月２日のネイチャー（科学雑誌でネイチャー誌があるでしょ）でそれを知った。
私はこの炎が、私たちに向けて射撃が放たれた、彼らの星の中に沈む広大な穴の中での、巨大な大砲の鋳造であるかもしれないと考えたい気になる。（たぶん、イメージとしては、火星に巨大な穴があって（掘られて）、その中ででっかい大砲を作って、その大砲で地球へ射撃したんだと思います）
まだ説明できない妙な模様が、次の２つの衝の間に大砲が放たれた場所近くで見られた。

＜９段落目＞
The storm burst upon us six years ago now.
騒動 突然起こる

【As **Mars** approached opposition】, **Lavelle of Java** set the wires of the astronomical exchange 〈palpitating with the
～のとき 到達する 電報 天文学の やりとり ドキドキする

amazing intelligence of a huge outbreak of incandescent gas upon the planet〉.
高温で光る

**It** had occurred towards midnight of the twelfth; and **the spectroscope**, 《to which **he** had at once resorted》, indicated
起こる 直前 20 日 分光器 頼る 示す
※resort to O で「O に頼る」

[目次へ戻る]

a mass of flaming gas,《chiefly hydrogen》, 〈moving with an enormous velocity towards this earth〉.
かたまり　主に　水素　非常に大きい　速度
moving 以下、分詞形容詞で gas を修飾。

**This jet of fire** had become invisible about a quarter past twelve.
噴出　見えない

**He** compared it to a colossal puff of flame 〈suddenly and violently squirted out of the planet〉, "as flaming gases
たとえる　巨大な 一吹き　猛烈に　噴出する
「compare〜to…」で「〜を…にたとえる」

rushed out of a gun."
飛び出す

＜９段落目注釈＞
※palpitating からピリオドまで、ジャワ（インドネシアのジャワ島のこと）のラヴェルについて、分詞構文になるわけですね。
※twelve を序数（ordinal）にすると twelfth になるんでしたよね。あと、ninth に e はナインス。
※in（否定）+visible（見える）=invisible です。~~invisible air!~~

＜９段落目の訳＞
その騒動は今から 6 年前私たちに突然起こった。
火星が衝に到達したとき、ジャワのラヴェルは、火星の高温で光るガスの巨大な発生の驚くほどの情報にドキドキしながら、天文学のやりとりの電報を打った。
それ（ガスの発生）は 20 日の夜 12 時の直前に起こった。そして彼がすぐに頼った分光器は、この地球に向かって非常に大きい速度で動いている主に水素の燃えるガスのかたまりを示した。
この炎の噴射は 12 時 15 分ごろには見えなくなった。
彼はそれを突然猛烈に火星の外に噴出された巨大な炎の一吹きにたとえた。大砲の外に飛び出した炎のガスとして。

＜10 段落目＞
A singularly appropriate phrase 〔**it** proved〕.
特に　適切な　言い回し　証明する

Yet (the next day) there was **nothing of this** in the papers (except a little note in the Daily Telegraph), and **the**
しかし　新聞　除いて　短い文章

**world** went in ignorance of one of the gravest dangers 〔**that** ever threatened the human race〕.
無知　最も重大な（grave 最上級）　脅かす　種

[目次へ戻る]

I might not have heard of the eruption at all 【had I not met Ogilvy, the well-known astronomer, at Ottershaw】.
爆発　　天文学者

He was immensely excited at the news, and (in the excess of his feelings) invited me up to take a turn with him that
①　とても　　過剰　　②
「invite O to V」→O に V するよう勧める

night in a scrutiny of the red planet.
調査

＜10 段落目注釈＞
※ 1 文目、SV の構造はないですけどね。
※had が文頭に来てて倒置されてて、助動詞過去形 might が見えますので、あ、仮定法過去完了だなぁとわかります。If 省略のパターンです。

＜10 段落目の訳＞
（前段落の as flaming gases rushed out of a gun を受けて）炎の噴射を証明する特に適切な言い回しだった。
しかしその次の日、日刊テレグラフ紙の小さな短い記事を除いてはこのことについて何も新聞に載っていなくて、そして、世界は今までに人間の種を脅かす最も重大な危機の一つに無知であった。
私はよく知られた天文学者であるオギルビーとオターショウ（イギリスの地名）で会わなければ、その爆発を全く耳にしなかったかもしれない。
彼はとてもその知らせに興奮していて、感情が過剰な中、あの夜、その赤い星の調査を自分と一緒にするように私を誘った。

＜11 段落目＞
In spite of all 〔that has happened since〕, I still remember that vigil very distinctly: the black and silent observatory,
にもかかわらず　　徹夜　　明確に　　観測所
「:」（セミコロン）は内容の説明をします。

the shadowed lantern 〈throwing a feeble glow upon the floor in the corner〉, the steady ticking of the clockwork of
影で覆われた ランタン　　弱い　光　　一定の チクタク音　ゼンマイ時計

the telescope, the little slit in the roof—an oblong profundity with the stardust streaked across it.
望遠鏡　　細長い隙間　　長方形の　深淵　　星くず　　筋をつける

Ogilvy moved about, invisible but audible.
動き回る　　聞こえる

（Looking through the telescope）, one saw a circle of deep blue and the little round planet 〈swimming in the field〉.
分詞構文　　ここでは「私」　　視野

[目次へ戻る]

**It** seemed such a little thing, so bright and small and still, faintly marked with transverse stripes, and slightly flattened
動かない 微かに 印をつける 横切る しま わずかに へこます
from the perfect round.

But so little **it** was, so silvery warm—a pin's head of light!
銀のような ピンの

**It** was as if it quivered, but really **this** was the telescope 〔vibrating with the activity of the clockwork〕 [that kept the
震える 震動する
as if：あたかも～するように

planet in view].

＜11 段落目注釈＞
~~※streaked は受身の意味になると、筋をつけられた星くずという謎の意味になるので、完子の意味だと思います。間違ってるかもしれないですけど。~~9/9 追記：愚かな者。with O C で付帯状況だろうがい。

＜11 段落目の訳＞
以来いろいろなことが起こったことにもかかわらず、私はまだあの徹夜をとても明確に覚えている。黒く静かな観測所、角の床に弱い光を投げかける、影で覆われたランタン、望遠鏡のゼンマイ時計の一定のチクタク音、屋根の小さな細長い隙間 ―長方形の深淵に隙間を横切って筋をつけた星くずが見えた。
オギルビーは動き回った。見えなかったがその音は聞こえた。
望遠鏡を通して見ると、私は深い青の円と視野の中を泳いでいる小さな丸い惑星を見た。
それは小さな物のようで、とても光り輝き小さく動かず、かすかに横切る縞で印をつけられていて、わずかに完璧な丸からへこまされていた。
でもそれはとても小さく、銀のように暖かかった。ピンの頭の光みたいだった！~~（※ほんと何言ってるのかわからないので誰か教えてください）~~9/9 追記：単に星のことを言ってるだけでは…
それ（惑星）はあたかも震えているようだったが、本当は、これ（震え）は、惑星を視野に捕らえ続けている、ゼンマイ時計の活動とともに振動する望遠鏡であった。

＜12 段落目＞
【As I watched】, **the planet** seemed to grow larger and smaller and to advance and recede, but **that** was simply 【that
① ② 進む 退く 単に
**my eye** was tired】.

Forty millions of miles **it** was from us—more than forty millions of miles of void.
宇宙空間

**Few people** realise the immensity of vacancy 〔in which **the dust of the material universe** swims〕.
無限の 空間 塵 物質の 宇宙

[目次へ戻る]

＜12 段落目注釈＞
※「Few, Little, No」みたいな否定語が文頭に来たときは、「～ない」を文末に持っていくと訳しやすいですね。

＜12 段落目の訳＞
私が見ている間、その惑星は大きくなったり小さくなったり、進んだり退いたりするように見えたが、そう見えたのは単に私の目が疲れているだけだった。
それは私たちから 4000 万マイルにあった。虚空は 4000 万マイル以上あった。
ほとんどの人々は、物質宇宙の塵が泳ぐ無限の空間をはっきりと理解していなかった。

＜13 段落目＞
Near it in the field,《I remember》, were **three faint points of light**, **three** telescopic **stars infinitely remote**, and all
望遠鏡で見える
around **it** was the unfathomable darkness of empty space.
未解明の

**You** know 〔how **that blackness** looks on a frosty starlight night〕.
冷たい

（In a telescope） **it** seems far profounder.
より深遠な（profound 比較級。ただし more profound が普通）

And invisible to me 【because **it** was so remote and small】, (flying swiftly and steadily (towards me) (across that
素早く　着々と

incredible distance)), (drawing nearer every minute by so many thousands of miles), came **the Thing** 〔they were
信じられない　（徐々に）動く

sending us〕, **the Thing** 〔that was to bring so much struggle and calamity and death to the earth〕.
厄介事　大惨事

**I** never dreamed of it then 【as I watched】; **no one on earth** dreamed of that unerring missile.
間違わない

＜13 段落目注釈＞
※１文目、倒置。
※was to bring で、「be to V」構文が使われていますが、ここでは「～することになっている」という運命の意味のようです。
※flying と drawing のところは、カンマがあるので、分詞構文で大丈夫だと思います。「～しながら」です。

＜13 段落目の訳＞
視野の中のその（惑星の）近くには、私は覚えているが、３つのかすかな光の点と、無限の遠くにある、望遠鏡で見える３つの星があり、そしてその周りのすべてには何もない宇宙の未解明の闇があった。
あなたは冷たい星明りの夜、どんな風に闇が見えるか知っている。
だけど、望遠鏡では、闇はより深遠なものに見える。

[目次へ戻る]

そしてそれはとても遠く小さかったために私にとっては信じられなかったが、彼ら（火星人）が私たちに送ってきて、多くの厄介事と大惨事と死を地球に持ってくることになる「モノ」は、素早く着々と私のところに信じられないほどの距離を通り飛んできて、一分で何千マイルも地球へ動いてきていた。
私は見ている間、それ（「モノ」が大災害を起こすこと）を夢にも見ていなかった。そして地球の誰もその正確なミサイルのことを夢にも思わなかった。

＜14 段落目＞
That night, too, there **was** another jetting out of gas from the distant planet. **I** saw it.

A reddish flash at the edge, the slightest projection of the outline 【just as the chronometer struck midnight】; and
赤い　閃光　最もかすかな　投影　輪郭　クロノメーター
slight 最上級

(at that) **I** told Ogilvy and **he** took my place.
~~～のままで（これ以上はしない）~~ 9/9 追記：at that time みたいな感じかも

**The night** was warm and **I** was thirsty, and **I** went stretching my legs clumsily and feeling my way in the darkness, to
①のばす　ぎこちなく　② 手探りしながら進む

the little table〔where **the siphon** stood〕,【while **Ogilvy** exclaimed at the streamer of gas〔**that** came out towards
ソーダサイフォン　流れ

us〕】.

＜14 段落目注釈＞
※ソーダサイフォンって炭酸水が作れるらしいですね。まあ siphon にはサイフォン管とかの意味もあるんですけど、机の上に置けるのはこのソーダサイフォンしかないなぁと思ってそう訳しました。

＜14 段落目の訳＞
あの夜もそうだった。遠い惑星からもう一つのガスの噴出があった。私はそれを見た。
クロノメーター（高精度時計）が深夜 12 時を指すちょうどのころに、赤い閃光が火星の淵に、そして、最もかすかな輪郭の投影が見えた。私はオギルビーに伝えただけであり、彼は私の場所に移った。
その夜は暖かく、私はのどが渇いて、ぎこちなく足を延ばして、闇の中を手探りしながら進んで、私たちの方へ来たガスの流れに対してオギルビーが叫んでいる間に、ソーダサイフォンが立っている小さなテーブルまで行った。

＜15 段落目＞
That night **another invisible missile** started on its way to the earth from Mars, just a second or so (under twenty-four
～かそこら（の値）

hours) (after the first one).

**I** remember〔how **I** sat on the table there in the blackness, with patches of green and crimson〈swimming before my
暗闇　斑点　深紅　以下、分詞形容詞

[目次へ戻る]

eyes〉〕.

I wished I had a light to smoke by, little suspecting the meaning of the minute gleam 〔I had seen〕 and all 〔that it
疑う ① かすかな光 ②

would presently bring me〕.
すぐに もたらす

Ogilvy watched till one, and then gave it up; and we lit the lantern and walked over to his house.
火をつける（light 過去形）

Down below in the darkness were Ottershaw and Chertsey and all their hundreds of people, sleeping in peace.

＜15 段落目注釈＞
※just a second 以下ってどうなってるんですかね。
※最後の文、倒置があります。

＜15 段落目の訳＞
あの夜、もう一つの不可視のミサイルが、最初のから 24 時間経ってから 1 秒かそこらで、火星から地球に向けて飛行を始めた。
私は目の前で泳いでいた深紅と緑の斑点を見ながら暗闇の中でそこのテーブルにどんな風に座ったか覚えている。
私は前に見た非常に小さなかすかな光と、まもなく私にもたらす全てのものの意味をほとんど疑わないまま、煙草を吸うための光を欲した。
オギルビーは 1 時まで観察していた。そしてあきらめて、私たちはランタンに火を灯し、彼の家へ歩いた。
オターショウとチャーツィーとそれらの町の何百人もの人々は、暗闇のずっと下で平和に眠っていた。

＜16 段落目＞
He was full of speculation that night about the condition of Mars, and scoffed at the vulgar idea of its having inhabitants
① 思いを巡らすこと ② 嘲笑する 無教養な 住人

〔who were signalling us〕.
信号を送る

His idea was 【that meteorites might be falling in a heavy shower upon the planet】, or 【that a huge volcanic explosion
隕石 にわか雨 火山の 爆発

was in progress】.
進行中で

He pointed out to me 〔how unlikely it was 【that organic evolution had taken the same direction in the two adjacent
指摘する ありそうにない 自然の 進化 道筋 隣の

planets】〕.

[目次へ戻る]

“The chances against anything manlike on Mars are a million to one,” he said.
可能性　都合の悪い　人のような　極めて低い

＜16 段落目注釈＞
※同格の of ね。of は前置詞だから It has inhabitants を言いたいときにはまず has を動名詞にしなきゃいけないから having inhabitants となり、 having の主語を言いたいときは所有格にして its となり、its having inhabitants になるわけですね。

＜16 段落目の訳＞
彼はあの夜、火星の状態について思いを巡らすことでいっぱいで、そして、それ（ミサイル）が、我々に信号を送っている住人を乗せているという無教養な考えを嘲笑した。
彼の考えは、隕石が惑星（火星）の上に激しいにわか雨のように落ちているかもしれないということか、巨大な火山の爆発が進行中であるかということだった。
彼は私に、どんなにそれ（ミサイルに住人が乗っていること）があり得ず、自然の進化は隣の惑星では同じ道筋をたどってきたということを指摘した。
「火星にいる人のような何かが都合の悪い可能性は極めて低い」と彼は言った。

＜17 段落目＞
**Hundreds of observers** saw the flame that night and the night after about midnight, and again the night after; and so
観測者　炎

for ten nights, a flame each night.

〔Why the shots ceased after the tenth〕 **no one (on earth)** has attempted to explain.
終わる

**It** may be the gases of the firing 〈caused the Martians inconvenience〉.
射撃　もたらす　不都合

Dense clouds of smoke or dust, visible through a powerful telescope on earth as little grey, fluctuating patches, spread
密集した　変動する　斑点　①

through the clearness of the planet’s atmosphere and obscured its more familiar features.
清澄さ　大気　②覆う　特徴

＜17 段落目の訳＞
何百人もの観測者がその炎を、その夜もその後の夜 12 時ごろにも、そしてそのあとにも、10 夜の間も、それぞれの夜に炎を見た。
地球の誰も、なぜ射撃が 10 日目以降終わったのか説明しようと試みていない。（※現在形）
それ（射撃をやめたわけ）は火星人に不都合をもたらした射撃によるガスであるかもしれない。
地球の強力な望遠鏡を通して見える、ほぼ灰色ではないような、塵や煙の密集した雲の変動する斑点はその惑星（火星）の大気の清澄さを通して広がり、より知られている火星の特徴を覆っていった。

[目次へ戻る]

＜18 段落目＞

Even **the daily papers** woke up to the disturbances at last, and **popular notes** appeared here, there, and everywhere
気づく　騒動

concerning the volcanoes upon Mars.

**The** seriocomic periodical **Punch**, 《I remember》, made a happy use of it (in the political cartoon).
まじめで滑稽な　雑誌　政治の　漫画

And, all unsuspected, **those missiles** 〔**the Martians** had fired at us〕 drew earthward, rushing now at a pace of many
予想外の　地球へ　速度

miles a second (through the empty gulf of space), hour by hour and day by day, nearer and nearer.
深淵

**It** seems (to me) now almost incredibly wonderful 【that, (with that swift fate hanging over us), **men** could go about
信じられないほど　即座の 運命　のしかかる　動き回る

their petty concerns as they did】.
些細な　関心事

**I** remember 〔how jubilant **Markham** was at securing a new photograph of the planet for the illustrated paper 〔he
歓喜に満ちた　（苦労して）手に入れる　挿絵がついた
secure A for B = secure B A で「B に A を手に入れる」

edited in those days〕〕.
編集責任者を務める

**People (in these latter times)** scarcely realise the abundance and enterprise of our nineteenth-century papers.
近頃の　はっきり理解する　豊富　積極性

For my own part, **I** was much occupied in learning to ride the bicycle, and busy upon a series of papers discussing the
私自身としては　①～に夢中な　～を身につける　②　シリーズもの

probable developments of moral ideas 【as **civilisation** progressed】.
ありそうな　進展　倫理的な　文明　進歩する

＜18 段落目注釈＞

~~※all unsuspected がうまく文法分析できませんでしたごめんなさい。~~ 9/9 追記：ふつーに挿入節です

※It seems … that ～（～が…であるように思える）ですね。

※how 以下の部分ですけど、もともとは、「Markham was jubilant at securing…」という形であって、「どんなに～か」というのを言いたいから how jubilant が前に出てきて、I remember とくっついて間接疑問文の形になっているわけです。9/9 追記：まあそれでもいいですけど、関係詞 how 以下が名詞節ですよね。

[目次へ戻る]

※busy Ving「V することで忙しい」が使われていますね。

＜18 段落目の訳＞
日刊の新聞でさえも最後にはその騒動に気づいて、火星の火山に関する、人気の（短い）記事がここ、そこ、そしてあちこちに現れた。
私は覚えているが、まじめで滑稽な雑誌である「パンチ」紙は、政治の漫画にそのことを楽しく利用した。
そして全く予想外のことに、火星人が私たちに撃ったそれらのミサイルは、宇宙の真空の深淵を通って、1 時間 1 時間、1 日 1 日、ますます近くへ、1 秒にものすごいマイルの速度で、地球へ駆けて進んでいた。
私には今、私たちにのしかかる即座の運命の中、いつもやっていたような些細な関心事に人々が動き回ることができたというようなことにほとんど信じられないほど驚く。
私は、マーカムが、当時彼が編集責任者を務めていた挿絵付きの新聞に載せるためにその惑星（火星）の新しい写真を苦労して手に入れ、彼がどんなに歓喜に満ちていたかを覚えている。
近頃の人々は私たちの 19 世紀の新聞の（内容の）豊富さと積極性をほとんど理解していない。（※「昔は良かった」というのは「宇宙戦争」が書かれた 1898 年にも通じるんですね）
私自身としては、自転車に乗ることを身に着けるのにとても夢中で、また、新聞のシリーズものについて、文明が進歩するにつれての倫理的な考えのありそうな発展を議論するのに忙しかった。

＜19 段落目＞
One night (**the first missile** then could scarcely have been 10,000,000 miles away) **I** went for a walk with my wife.
かろうじて　go for a walk「散歩に行く」

**It** was starlight and **I** explained the Signs of the Zodiac to her, and pointed out Mars, a bright dot of light 〈creeping
星明り　①　黄道十二宮　②　点

zenithward〉, 〔towards which **so many telescopes** were pointed〕.
天頂の方へ

**It** was a warm night. Coming home, **a party of excursionists (from Chertsey or Isleworth)** passed us singing and playing
一行　周遊旅行者

music.

There were **lights** in the upper windows of the houses 【as the people went to bed】.
上の

(From the railway station in the distance) came **the sound of shunting trains**, 《ringing and rumbling》, 〈softened
鉄道　遠方の　引き込み線に入れる　ガタガタ音を立てて進む　やわらぐ

almost into melody by the distance〉.

**My wife** pointed out to me the brightness of the red, green, and yellow signal lights 〈hanging in a framework against
骨組み

the sky〉.

[目次へ戻る]

It seemed so safe and tranquil.
穏やかな

＜19 段落目注釈＞
※explain A to B「B に A について説明する」。about いらないですね。
※黄道十二宮というのは、黄道帯を 12 等分して、それぞれに星座を配したものらしいです。まあ、ここでは、黄道 12 星座のこととほぼ同じ感じ。
※「ward」をつけると「～の方向へ」（toward）の意味をくっつけるらしいですね。
※ringing と rumbling が邪魔ですが、soften は the sound にかかっているわけですね。

＜19 段落目の訳＞
ある夜（そのときの最初のミサイルは辛うじて 1000 万マイル離れていただろう）、私は妻と散歩に出かけた。
星明りの夜であった。私は妻に黄道十二宮について説明し、とても多くの望遠鏡が、天頂の方へ進んでいく光の輝く点、火星に向けられていた。
暖かい夜であった。家に帰る途中、チャーツィーやアイズルワースからの周遊旅行者の一行が、歌ったり演奏したりしながら私たちのそばを通り過ぎていった。
人々が就寝するとき、家の上の窓には光が灯っていた。
距離によってやわらぎ、ほとんどメロディーになった、ガタガタ音を立てて音を響かせる引き込み線に入っていく電車の音が遠方の鉄道の駅から聞こえてきた。
私の妻は空に向かって伸びる骨組みの中につるされた赤、緑、黄色の信号の光の輝きを私に指し示してくれた。
それはとても安全で、穏やかなように思えた。

# II. THE FALLING STAR.

＜第 1 段落＞
Then came the night of the first falling star.

It was seen early in the morning, 《rushing over Winchester eastward》, a line of flame 〈high in the atmosphere〉.
※ high in the atmosphere（大気の中の高いところ）が形容詞句で 2 語以上ですから後置修飾です。

Hundreds must have seen it, and taken it for* an ordinary* falling star*.
・ take A for B→A を B だと思う　ordinary→普通の　falling star→流れ星
※ Hundreds=Hundreds of people(何百人もの人々)。あと、「must have 過去分詞」で「～に違いない」です。

Albin described it as* leaving a greenish* streak* 〈behind it〉〔that glowed for some seconds〕.
・ described (describe) O as C→O が C だと言う　greenish→緑の　streak→筋

Denning, 《our greatest authority* on meteorites*》, stated* 【that the height* 〈of its first appearance〉 was about ninety or one hundred miles】.
・ authority→権威者　meteorites (meteorite)→隕石　stated (state)→はっきり述べる　height→高さ

[目次へ戻る]

It seemed to him 【that it fell to earth about one hundred miles east of him】.

＜第１段落　訳＞
そして最初の流れ星の夜が来た。それは早朝に見られ、大気の高いところの炎の線となってウィンチェスターの東へ駆けて行った。何百人もの人々がそれを見て、普通の流れ星だと思ったに違いない。アルビンはそれが、それの後ろで数秒間光る緑の筋を残していったと言った。我々の最も偉大な隕石についての権威者であるデニングはその最初の外見の高さはだいたい 90〜100 マイルであると述べた。彼にとってそれは 100 マイルほど東に、地球に落ちていくように見えた。

＜第２段落＞
I was at home at that hour and writing in my study*; and 【although* my French windows face* towards Ottershaw and the blind was up (for* I loved in those days to look up at the night sky)】, I saw nothing of it.

- study→書斎　although=though=にもかかわらず　face→面する　for(≒because)→というのは〜だからだ

※ for から始まるカッコは原文からついていました。

Yet this strangest of all things 〔that ever came to earth from outer* space〕 must have fallen 【while I was sitting there】, visible to me 【had I only looked up as it passed】.

- outer→外の

※ まず、最上級のとき that 使うことが通例です。あと、後ろの visible to me 以下ですが、had I only looked… という形で倒置されるのは仮定法過去完了以外に僕は知らないので、visible to me の前に It would have been みたいなのがあって省略されたのかなぁと推測します。間違ってるかもしれません。

Some of those 〔who saw its flight〕 say 【it travelled with a hissing* sound.】

- hissing→蒸気などがたてる「シュー」という音

I myself heard nothing of that.

Many people (in Berkshire, Surrey, and Middlesex) must have seen the fall of it, and, 《at most》, have thought 【that another meteorite had descended*】.

- descended (descend)→降りる

※ and は have seen と have thought をつないでいます。

No one seems to have troubled* to look for the fallen mass that night.

- troubled (trouble)→わずらわせる

＜第２段落　訳＞
私はその時間に家にいて書斎で執筆していて、フランス窓がオターショウに向かって面していてブラインドが上がっていた（私はそのころ夜空を見上げるのが好きだったからだ）のにもかかわらず、私はそれを全く見なかった。今までに地球の外からやってきたすべてのものの中で最も奇妙なものが私がそこに座っていたときに落ちていったに違いなく、もし通り過ぎているときに見上げていさえすれば見えただろうに。その飛行を見た何人かの人は、シューという音を立てて飛んでいたと言う。私自身は何も聞こえなかった。バークシャー、サリー、ミドルセックスの多くの人々はそれの落下を見て、少なくとも、もう一つの隕石が落ちてきたと思ったに違いない。その夜、誰も落ちた塊を探すのに手をわずらわせたようには見えなかった。

[目次へ戻る]

＜第３段落＞

But (very early in the morning) poor Ogilvy, 《who had seen the shooting star and who was persuaded* 【that a meteorite lay somewhere on the common* between Horsell, Ottershaw, and Woking】》, rose early with the idea of finding it.

- be persuaded→確信する　common→（荒れ地の）公有地

Find it he did, 《soon after dawn》, and not far from the sand-pits*.

- sand-pits→砂採取場

※ Find it he did の意味は「彼がそれを見つけた」という感じでわかりますが、文法がどうしてもよくわかりませんでした。ごめんなさい。

An enormous hole had been made by the impact* of the projectile*, and the sand and gravel* had been flung* violently* in every direction* over the heath*, (forming heaps* visible a mile and a half away).

- impact→衝撃　projectile→発射体　gravel→砂利　flung(fling)→投げつける　violently→荒々しく　direction→方向　heath→ヒースの咲く荒野　heaps (heap)→山

The heather* was on fire eastward, and a thin blue smoke rose against* the dawn.

- heather=heath　against→背景として

＜第３段落　訳＞

だが、とても早い朝に、流れ星を見て、ホーセルとオターショウとウォーキングの間の公有地のどこかに隕石が横たわっていると確信したかわいそうなオグルビーはそれを見つけるという考えを持って早く起きた。彼は夜明けのすぐ後、 砂採取場から遠くはないところでそれを見つけた。巨大な穴が発射体の衝撃によって作られていて、ヒースの咲く荒野に砂と砂利が荒々しくすべての方向に散乱して 1.5 マイル離れたところからも見える丘を形成していた。ヒースの丘は東の方へ向かって燃えていて薄い青の煙が夜明けを背景として上っていた。

＜第４段落＞

The Thing itself lay almost entirely buried* in sand, amidst* the scattered* splinters* of a fir tree* 〔it had shivered* to fragments* in its descent〕.

- buried(bury)→埋める　amidst→の真ん中　scattered→点在する　splinters (splinter)→かけら　fir tree→モミの木　shivered (shiver)→砕く　fragments (fragment)→破片

※ bury は発音上 berry（ラズベリーなどのベリー）と同じです。

The uncovered part had the appearance of a huge cylinder*, (caked* over and its outline softened by a thick scaly* dun-coloured* incrustation*).

- cylinder→円筒　caked→こびりつく　scaly→うろこ状の　dun-coloured→焦げ茶色の　incrustation→外殻

※ caked 以下、分詞構文でしょう。caked over というのが１つ目、its outline softened by a thick…というのが２つ目だと思います。

It had a diameter* of about thirty yards*.

- diameter→直径　yards (yard)→ヤード（1 ヤード＝0.9144m）

[目次へ戻る]

He approached the mass, 《surprised at the size and more so at the shape》, 【since most meteorites are rounded* more or less* completely】.

・ rounded (round)→丸くする　more or less→多かれ少なかれ

※ more so とありますが、so は surprised を指します。

It was, however, still so hot from its flight through the air as to forbid* his near approach.

・ forbid→許さない

※ so～as to V =～enough to V = so～that SV=「V するほど～」「とても～なので V する」です。

A stirring* noise within its cylinder he ascribed* to the unequal* cooling of its surface; 【for at that time it had not occurred* to him 【that it might be hollow*】】.

・ stirring (stir) →揺れ動く　ascribed (ascribe)→～によって生じたものとみなす　unequal→むらのある
it occurred that～→～という考えが浮かぶ　hollow→空洞

※ 倒置です。今回は He ascribed a strring… to the unequal…というのが元の文章で、SVO が OSV になっています。

＜第 4 段落　訳＞

「モノ」自体は、「モノ」が落下で砕いて破片にしたモミの木の欠片が点在する真ん中にほぼ完全に砂に埋まって横たわっていた。覆われていない部分は巨大な円筒の外見をしていて、厚くてうろこ状で焦げ茶色の外殻がこびりつき、外形が柔らかくなっていた。それは直径が 30 ヤードほどあった。彼はそのかたまりに近づき、ほとんどの隕石は多かれ少なかれ完全に丸くされているので、大きさに驚いたが形状にもっと驚いた。しかしながらそれは大気を通って飛行してきてまだとても熱かったので、彼の接近を許さなかった。彼はそのときそれが空洞だという考えが浮かんでいなかったので円筒の中の揺れ動く雑音が表面のむらのある冷却で生じたものとみなした。

＜第 5 段落＞

He remained standing at the edge of the pit 〔that the Thing had made for itself〕,《staring at its strange appearance》, 《astonished chiefly* at its unusual shape and colour》, and 《dimly* perceiving* (even then) some evidence* of design* in its arrival*》.

・ chiefly→まず第一に　dimly→かすかに　perceiving (perceive)→気づく　evidence→理由　design→意図
arrival→到着

※ 分詞構文 3 発です。「staring…」と「astonished…」と「dimly perceiving…」です。

The early morning was wonderfully still*, and the sun, 《just clearing* the pine trees towards Weybridge》, was already warm.

・ still→平和な　clearing (clear)→通り越す

He did not remember hearing any birds that morning, there was certainly no breeze* stirring, and the only sounds were the faint movements* from within the cindery* cylinder.

・ breeze→そよ風　movements→動き　cindery→燃えがらの

※ remember Ving→V したことを覚えている　remember to V→V することを覚えている　基本的に不定詞は未来傾向です。

He was all alone on the common.

[目次へ戻る]

＜第５段落　訳＞
彼は「モノ」が作った穴の淵に立ったままで、「モノ」の奇妙な外見をじっと見つめ、第一にその奇妙な形状と色に驚き、その時でさえかすかに到着の意図の理由に気が付いていた。早朝は信じられないほど平和で、ちょうどウェーブリッジの松の木の向こうから登ってきた太陽は既に暖かかった。彼はその朝、鳥が歌っていたことを覚えていなくて、全くそよ風は吹いておらず、唯一の音は燃えがらの円筒の中からのかすかな動きだけだった。彼は公有地で一人ぼっちだった。

＜第６段落＞
Then suddenly he noticed with a start* 【that some of the grey clinker*, 《the ashy* incrustation 〔that covered the meteorite〕》, was falling off the circular* edge of the end】.

- start→はっとすること　clinker→焼塊（燃焼後の灰）　ashy→灰まみれの　circular→丸い

It was dropping off in flakes* and raining down upon the sand.

- flakes (flake)→一片

A large piece suddenly came off* and fell with a sharp noise 〔that brought his heart into his mouth〕.

- came off (come off)→はがれる

＜第６段落　訳＞
その時突然彼は、隕石を覆っていた灰まみれの外殻で、いくらかの灰色の焼けかすであるのが丸い縁の端から落ちていくというハッとすることに気づいた。それはかけらとなって落ち、砂の上に降り落ちた。大きなかけらが突然はがれ、心臓が口に入るかのような鋭い音を立てて落ちた。

＜第７段落＞
For a minute he scarcely realised what this meant, and, 《although the heat was excessive*》, he clambered* down into the pit 〈close to the bulk*〉 to see the Thing more clearly.

- excessive→過度な　clambered (clamber)→よじ登る　bulk→巨大なもの

He fancied (even then) 【that the cooling of the body might account* for this】, but 〔what disturbed* that idea〕 was the fact 【that the ash was falling only from the end of the cylinder】.

- account→原因となる　disturbed (disturb)→妨げる

＜第７段落　訳＞
一分間、彼はほとんどこの意味に気づいておらず、熱が過剰なのにもかかわらず、彼は巨大な物体の穴の中に、その「モノ」をもっと明確に見るために下りていった。彼はその時でさえ、本体の冷却はこれの原因となっているかもしれないということを想像していたが、その考えを妨げたのは、灰が円筒の端からのみ落ちているという事実であった。

＜第８段落＞
And then he perceived 【that, 《very slowly》, the circular top of the cylinder was rotating on* its body】.

- rotating on (rotate on)→～を中心に回転する

[目次へ戻る]

It was such a gradual* movement that he discovered it only through noticing 【that a black mark 〔that had been near him five minutes ago 〕was now at the other side of the circumference*】.

・ gradual→徐々の　circumference→周囲

※ such A that SV 構文が見えます。とても A なので V するという意味です。

(Even then) he scarcely understood what this indicated*, 【until he heard a muffled* grating* sound and saw the black mark jerk* forward an inch* or so】.

・ indicated (indicate)→示す　muffled (muffle) →はっきり聞こえない　grating→耳ざわりな　jerk→ぐいと動く、急に動く　inch→インチ（1 インチ＝2.54cm）

※ see 知覚動詞です。see O V で「O が V するのを見る」という感じです。

Then the thing came upon* him in a flash*.

・ came upon (come upon)→襲う　in a flash→一瞬

The cylinder was artificial*—hollow—with an end 〔that screwed* out〕!

・ artificial→人工の　screwed (screw)→ねじって締める

Something within the cylinder was unscrewing* the top!

・ unscrewing (unscrew)→蓋をねじって外す

“Good heavens*!” said Ogilvy. “There’s a man in it—men in it! Half roasted* to death! Trying to escape!”

・ Good heavens！→驚いた！　roasted (roast)→焼く

＜第 8 段落　訳＞

そしてその時、彼はとてもゆっくりと本体を中心に円筒の上の方が回転しているのに気づいた。それはとてもゆっくりとした動きだったので彼は、5 分前に近くにあった黒い印が周の反対側にあることに気づくことを通してでしかそれを発見できなかった。その時でさえ、はっきり聞こえず耳ざわりな音を聞き黒い印が 1 インチかそこら急に動くことを見るまでは、彼はほとんどこれが何を示しているのか理解していなかった。そして瞬時に彼をある考えが襲った。「その円筒は人工のもので、空洞で、ねじって締める先端がある！」「何か円筒の中にいるものがてっぺんの蓋をねじって外している！」というものである。「驚いた！」とオグルビーは言った。「中に人がいるー人々がいる！　半分焼かれて死にかけているんだ！　逃げようとしているんだ！」

＜第 9 段落＞

At once, 《with a quick mental* leap*》, he linked the Thing with the flash upon Mars.

・ mental→観念的な　leap→飛躍

＜第 9 段落　訳＞

すぐに、素早い観念の飛躍とともに、彼はこの「モノ」を火星の炎と結び付けた。

＜第 10 段落＞

The thought of the confined* creature was so dreadful* to him that he forgot the heat and went forward to the cylinder

[目次へ戻る]

to help turn*.

- confined (confine)→閉じ込める　dreadful→恐ろしい　turn→回すこと

※ 毎度おなじみ so〜that SV 構文です。

But luckily the dull* radiation* arrested* him 【before he could burn* his hands on the still-glowing metal】.

- dull→鈍い　radiation→放射　arrested (arrest)→注意を引く　burn→やけどする

At that he stood irresolute* for a moment, 《then turned》, 《scrambled* out of the pit》, and set off* running wildly* into Woking.

- irresolute→ぐずぐずした、ためらって　scrambled (scramble)→這い上がる　sef off→出発する　wildly→やみくもに

The time then must have been somewhere about six o'clock.

He met a waggoner* and tried to make him understand, but the tale 〔he told〕 and his appearance were so wild*—his hat had fallen off in the pit—that the man simply drove on*.

- waggoner→荷馬車の御者　wild→荒っぽい　drove on (drive on)→車を走らせ続けた

※ make は使役動詞です。そして、 例の so〜that SV も登場です。

He was equally* unsuccessful with the potman* 〔who was just unlocking the doors of the public-house* by Horsell Bridge〕.

- equally→同様に　portman→飲み屋の店員　public-house→パブ（イギリスの大衆酒場）（ハリーポッターにも出てきた）

The fellow* thought 【he was a lunatic* at large】 and made an unsuccessful attempt to shut him into the taproom*.

- fellow→男　lunatic→気がふれた　taproom→酒場

※ 当時、狂気は月の満ち欠けによって発生すると考えられていたそうです。~~ルナティックレッドアイズ！~~

※ ちなみに lunatic を形容詞で使うなら限定用法のみです。叙述用法（He is lunatic.）はダメです。

That sobered* him a little; and 【when he saw Henderson, 《the London journalist》, in his garden】, he called over the palings* and made himself understood*.

- sobered (sober)→真面目にする　palings (paling)→柵　made himself understood (make oneself understood)→自分の考えを理解してもらう

"Henderson," he called, "you saw that shooting star last night?"

"Well?" said Henderson.

"It's out* on Horsell Common now."

- out→現れて

"Good Lord!*" said Henderson. "Fallen meteorite! That's good."

- Good Lord=Good heaven=驚いた！

[目次へ戻る]

But it’s something more than a meteorite.

It’s a cylinder—an artificial cylinder, man!

※ 「man」は「お前さん」みたいに呼びかけ的なものだと思います。

And there’s something inside.”

Henderson stood up with his spade* in his hand.

・ spade→シャベル

“What’s that?” he said. He was deaf* in one ear.

・ deaf→耳が聞こえない

※ 目が見えない→blind　話せない→mute

＜第 10 段落　訳＞

閉じ込められた生き物がいるという考えはとても恐ろしかったので、オグルビーは熱を忘れ、ふたを回すことを助けるために円筒の方へ進んだ。でも幸運なことに、まだ光っている金属の上で彼の手がやけどをする前に鈍い熱の放射が彼の注意を引いた。彼は少しの間ためらっていたが、その後向きを変え、穴から這い上がり、やみくもにウォーキングへ走り出した。そのときの時刻はだいたい 6 時ごろだったに違いない。彼は荷馬車の御者に会い、彼を理解させようとしたが、彼が語る話と外見はとても荒っぽかったのでー彼の帽子は穴に落ちてしまっていたー男はただ車を走らせ続けた。彼はホーセル橋のそばのパブのドアをちょうど締めようとしていた飲み屋の店員に対しても同様に失敗した。その男は、彼が非常に気がふれていると思い、酒場の中に閉じ込めようとい うう まくいかない試みをした。そのことはオグルビーを少し真面目にし、ロンドンのジャーナリストであるヘンダーソンに彼の庭で会ったとき、柵越えに彼を呼び、自分の考えを理解してもらおうとした。

「ヘンダーソン」と彼は呼んだ。「流れ星を昨夜見たのかい？」

「え？」とヘンダーソンは言った。

「今、ホーセル公有地に現れているんだ」

「驚いた！」とヘンダーソンは言った。「落ちた隕石か！それはいい！」

「でも隕石以上のものだ。円筒ー人工の円筒だってよ、お前さん！そして何かが中にいるんだ」

ヘンダーソンは手にシャベルをとって立ち上がった。

「それって何かい？」と彼は言った。彼は片方の耳が聞こえない。

＜第 11 段落＞

Ogilvy told him all 〔that he had seen〕.

※ speak, talk, say, tell の中で、後ろに人が取れるのは tell のみです。speak, talk, say はすべて to などの前置詞がいります。

Henderson was (a minute or so) taking it in*.

・ taking in (take in)→受け入れる

Then he dropped his spade, 《snatched* up his jacket》, and came out into the road.

・ snatched (snatch)→ひったくる

The two men hurried back at once to the common, and found the cylinder still lying in the same position.

[目次へ戻る]

※ find 知覚動詞で、find O Ving「O が V しているのを見つける」が使われています。

But now the sounds inside had ceased, and a thin circle of bright metal showed* between the top and the body of the cylinder.

- showed (show)→現れる

Air was either entering or escaping at the rim* with a thin, sizzling* sound.

- rim→へり　sizzling (sizzle)→シューシューという

＜第 11 段落　訳＞
オグルビーはヘンダーソンに見たものすべてを話した。ヘンダーソンは 1 分かそこらで受け入れていた。そして彼はシャベルを落とし、ジャケットをとって道に出た。2 人は急いですぐに公有地に戻り、円筒がまだ同じ位置に横たわっているのを見つけた。だが、その中の音はなくなっていて、輝く金属の薄い円が円筒の本体と上部の間に現れていた。薄いシューシューという音を立てて、空気がへりのあたりで入るか出ていくかしていた。

＜第 12 段落＞
They listened, 《rapped on* the scaly burnt* metal with a stick*》, and, 《meeting with no response》, they both concluded* 【the man or men inside must be insensible* or dead】.

- rapped on (rap on)→トントンとたたく　burnt (burn)→燃える　stick→棒　concluded (conclude)→断定する　insensible→意識がない

※ イギリス英語では learn-learnt-learnt など、多少不規則活用もアメリカ英語と異なります。

＜第 12 段落　訳＞
棒で、うろこ状の燃える金属をトントンとたたいた後、彼らは耳を傾けて、返答がなかったので、彼らは両方とも、中にいる人もしくは人々は意識がないか死んでいると断定した。

＜第 13 段落＞
Of course the two were quite unable to* do anything.

- were unable to (be unable to)→～できない

They shouted consolation* and promises, and went off* back to the town again to get help.

- consolation→慰め　went off (go off)→立ち去る

One* can imagine them, (covered with sand, excited and disordered*),(running up the little street in the bright sunlight 【just as the shop folks were taking down their shutters* and people were opening their bedroom windows】).

- one→我々　disordered →心身の調子が乱れた　shutters (shutter)→シャッター

※ この one は話し手も含むようです。

Henderson went into the railway station at once, in order to* telegraph* the news to London.

- in order to→～するために　telegraph→電報を打つ

The newspaper articles* had prepared men's minds* for the reception* of the idea.

[目次へ戻る]

・ articles→記事　minds→注意　reception→受け入れ

＜第 13 段落　訳＞
もちろん 2 人はまったく何もできなかった。彼らは慰めと約束を叫び、再び助けを得るために町に戻り立ち去った。我々は、砂まみれになり、興奮して、心身の調子が乱れ、店の人々がシャッターを下ろして寝室の窓を開けているちょうどそのときに輝く陽光の中、小さい通りを走っていった彼らを想像することができる。ヘンダーソンは知らせの電報をロンドンに打つためにすぐに鉄道の駅に入った（※ヘンダーソンはジャーナリスト）。その新聞記事はその考えを受け入れるために人々の注意の準備をした。

＜第 14 段落＞
By eight o'clock a number of* boys and unemployed* men had already started for the common to see the "dead men from Mars."

・ a number of→たくさんの～　unemployed→雇われていない
※ なお、「the number of～」は「～の数」という意味で、a と the では全然意味が違っちゃいます。あと、unemployed でなぜか思い出してしまったのですが、ニート（NEET）＝not in education, employment or training　です。

That was the form*〔the story* took〕.

・ form→表現形式　story→記事
※ that というのは"dead man from Mars"のことでしょう。

I heard of it first from my newspaper boy about a quarter to nine when I went out to get my Daily Chronicle*.

・ Daily Chronicle→デイリー・クロニクル紙（当時発行されていたイギリスの新聞）
※ daily→日々の　dairy→酪農　diary→日記　です。あと、chronicle は「年代史」という意味もあります。

I was naturally* startled*, and lost no time* in going out and across the Ottershaw bridge to the sand-pits.

・ naturally→自然に　was startled (be startled)→びっくりした　lose time in (lose time in)→時間を浪費する

＜第 14 段落　訳＞
８時までにたくさんの少年と無職の人がすでに公有地の方へ「火星からの死んだ人々」を見に出発していた。その言葉が、記事がとった表現形式だった。私は最初に新聞少年から、8 時 45 分ごろにデイリークロニクル紙を取りに外に出たときに、それを聞いた。私は自然にびっくりし、時間を全く浪費せずに外に出て砂採取場のところへオターショウ橋を渡って行った。

## III.　ON HORSELL COMMON.

＜第 1 段落＞
I found a little crowd of perhaps twenty people surrounding* the huge hole〔in which the cylinder lay〕.

・ surrounding (surround)→囲む
※ find O Ving が使われています。

I have already described the appearance of that colossal* bulk*, embedded* in the ground.

[目次へ戻る]

・ colossal→巨大な　bulk→巨大な物体　embedded (embed)→埋める
※ I have already described 「すでに説明した」とは、この物語中で前述したということでしょう。

The turf* and gravel* (about* it) seemed charred as if by a sudden explosion*.
・ turf→芝生　gravel→砂利　about→～のあたりに　charred (char)→黒焦げにする　explosion→爆発

(No doubt*) its impact had caused a flash* of fire.
・ no doubt→間違いなく　flash→きらめき

Henderson and Ogilvy were not there.

I think 【they perceived*【that nothing was to be done for the present*】, and had gone away to breakfast at Henderson's house】.
・ perceived (perceive)→悟る　for the present→さしあたり
※ was to be done は be to V の「可能」用法でしょう。
※ and は perceived と had をつないでます。

＜第１段落　訳＞
私はその円筒が横たわっている巨大な穴を囲むだいたい 20 人くらいの小さな集まりを見つけた。
地面に埋められたあの巨大な物体の外見については既に説明した。
その円筒のあたりの芝生と砂利は、まるで突然の爆発で黒焦げにされたように見えた。
間違いなく、その（円筒の着陸の）衝撃が炎のきらめきを引き起こしたのだ。
ヘンダーソンとオグルビーはそこにいなかった。
彼らはさしあたり何もできることはないと悟り、ヘンダーソンの家で朝食を食べに行ったのだろうと私は思う。

＜第２段落＞
There were four or five boys sitting on the edge of the Pit, 《with their feet dangling*》, and amusing themselves* —until I stopped them—by throwing stones at the giant* mass.
・ dangling (dangle)→ぶら下げる　amusing themselves (amuse oneself)→楽しむ　giant→巨大な
※ 《》内の with は付帯状況を表すものです。with O C で付帯状況を表せます。

【After I had spoken to them about it】, they began playing at "touch*" in and out of the group of bystanders*.
・ touch→触ること＝鬼ごっこ？　bystanders (bystander)→見物人

＜第２段落　訳＞
その穴のへりには４、５人の男の子が足をぶら下げながら座っていて、私が止めるまで、その巨大な物体に石を投げて遊んでいた。
そのことを彼らに私が言った後、彼らは見物人の集まりの中や外で鬼ごっこを始めた。

＜第３段落＞
(Among these) were a couple of cyclists, a jobbing* gardener* 〔I employed* sometimes〕, a girl 〈carrying a baby〉, Gregg the butcher* and his little boy, and two or three loafers* and golf caddies 〔who were accustomed to hang about* the railway station〕.
・ jobbing (job)→手間仕事をする（手間賃をもらって仕事をする）　gardener→庭師　employed (employ)→

[目次へ戻る]

雇う　butcher→肉屋　loafer→浮浪者　hang about→～のあたりをうろうろする

※ be accustomed to Ving で「V することに慣れている」で、to V ではないとふつう習いますけど、なぜか to V となっています。おかしいなと思って少し「accustomed to hang」の形で全文一致検索してみたら、一応出てきたので to V の形を使わないこともないということなのでしょう。

※ 第１文型（SV）倒置です。本来は、a couple 以下最後までが主語で、S were among these となりますが、あまりにも主語が長すぎるので副詞句と動詞を前に送って、倒置になってます。

There was very little talking.

Few of the common* people in England had anything but* the vaguest* astronomical* ideas in those days*.

・ common→一般の　but→～を除いて　vaguest（vague)→あいまいな　astronomical→天文の　in those days →当時

Most of them were staring quietly at the big table like end of the cylinder,〔which was still【as Ogilvy and Henderson had left it】〕.

※ like がどこにかかっているのかですが、「円筒の底のような大きなテーブル」ではなくて「大きなテーブルのような円筒の底」という方が間違いなく良い気がします。

I fancy【the popular* expectation* of a heap of charred* corpses* was disappointed at this inanimate* bulk】.

・ popular→人々の　expectation→予想　charred（char)→黒焦げにする　corpses（corpse)→死体　inanimate →無生物の

Some went away while I was there, and other people came.

※ 「some ～, other～」で「～の人もいれば～の人もいる」と訳すことがあります。

I clambered into the pit and fancied【I heard a faint movement under my feet】.

・ clambered（clamber)→よじ登る（伝い降りる）

※ and は clambered と fancied をつないでいます。

The top had certainly ceased to rotate.

＜第３段落　訳＞

サイクリストのカップル、私もときどき雇う手間仕事をする庭師、赤ちゃんを抱えている女の子、肉屋のグレッグと彼の小さい子、そして２、３の浮浪者と、鉄道の駅のあたりをうろうろすることが習慣であるゴルフキャディの人たちがまわりにいた。

ほとんど会話はなかった。

イングランドの一般のほとんどの人々はその当時、あいまいな天文の考えを除いては何も持っていなかった。

彼らのほとんどは静かに大きなテーブルのような円筒の底を見つめていて、それはオグルビーとヘンダーソンが去ったときのままだった。

黒焦げにされた死体の山という人々の予想が、この生命のない物体で失望になったと私は空想する。

私がいる間に去っていった人もいるし、来た人もいた。

私は穴に降り、足の下でかすかな動きが聞こえたと思った。

円筒の上部は確実に回転を止めていた。

[目次へ戻る]

＜第 4 段落＞

It was 【only when I got thus* close to it】【that the strangeness of this object was at all evident* to me】.

・ thus→このように　evident→明白な

※ thus を除けば got close to it「それの近くに行く」です。

※ it 形式主語で that 以下が真の主語ととらえました。

(At the first glance) it was really no more exciting than* an overturned* carriage* or a tree 〈blown across the road〉.

・ no more ～ than… →…と同様に～ではない　overturned (overturn)→ひっくり返す　carriage→四輪馬車

Not so much so, indeed.

※ 最初の so は very と似たような感じで「とても」で、2 番目の so は前の内容を指しています。この「so」は「そう」で訳せます。

It looked like a rusty* gas float*.

・ rusty→さびた、さび色の　float→浮き

※ アメリカに「ラストベルト」ってありますが、産業が終わりに差し掛かっているからと言って「Last Belt」ではなく、「さびついた」という意味の Rust Belt です。rusty はそれの派生語です。

It required* a certain* amount* of scientific* education {to perceive 【that the grey scale* of the Thing was no common* oxide*】, 【that the yellowish-white metal 〔that gleamed* in the crack* between the lid and the cylinder〕 had an unfamiliar* hue*】}.

・ required (require)→必要とする　certain→ある程度の　amount→量　scientific→科学的な　scale→スケール（薄い酸化膜）　common→共通の　oxide→酸化物　gleamed (gleam)→輝く　crack→割れ目　unfamiliar→見慣れない　hue→色合い

※ it―to の形式主語です。to perceive 以下が主語になります。

“Extra-terrestrial*” had no meaning for most of the onlookers*.

・extra-terrestrial→地球のものを超えた　onlookers (onlooker)→見物人

※ E.T.って映画あるじゃないですか。あれ、Extra-Terrestrial の短縮で E.T.という題名です。

＜第 4 段落　訳＞

この物体の奇妙さは私にとって全く明白なものであるということはこのようにそれの近くに行ったときのみ（においてわかった）。

最初に見たとき、ひっくり返された四輪馬車や道を横切って風に吹かれた木と同様にあまり面白いものではなかった。

でも実はあまりそうではなかった。

それはさびた浮きに似ていた。

「モノ」の灰色のスケールには地球と共通の酸化物が入っていないこと、ふたと円筒の間の割れ目で輝く黄色みがかった白い金属は見慣れない色合いをしていることを理解するには、ある程度の量の科学的な教育が必要とされた。

「地球のものを超えている」ということはほとんどの見物人にとって意味がないことだった。

＜第 5 段落＞

[目次へ戻る]

(At that time) it was quite clear in my own mind 【that the Thing had come from the planet Mars】, but I judged it improbable* 【that it contained* any living creature】.

- ・ improbable→本当らしくない　contained (contain)→含む
- ※ contain に er をつけた container が「コンテナ」です。
- ※ it—that 形式主語です。that the Thing の that 節が最初の it になります。また、2 回目の it（I judged it）も内容的にはその後の that 節を言っています。

I thought 【the unscrewing* might be automatic*】.

- ・ unscrewing (unscrew)→ふたを回してゆるめる　automatic→自動の

In spite of Ogilvy, I still believed 【that there were men in Mars】.

My mind ran fancifully* on* the possibilities of its containing manuscript*, on the difficulties in translation 〔that might arise*〕, 【whether we should find coins and models in it, and so forth*】.

- ・ fancifully→空想的に　on≒about　manuscript→写本（書いたもの）　arise→生じる　and so forth→～など
- ※ rise→上る　raise→上げる　arise→生じる　です。

Yet it was a little too large for assurance* on this idea.

- ・ assurance→確信

I felt an impatience* to see it opened.
impatience→じれったさ

- ※ see O V「O が V するのを見る」です。

About eleven, 《as nothing seemed happening》, I walked back, 《full of such thought》, to my home in Maybury. But I found it difficult to get to work upon* my abstract* investigations*.

- ・ get to work upon(on)→～の仕事に取り掛かる　abstract→難解な　investigations (investigation)→研究
- ※ find it 形容詞 to V で「V することが形容詞だとわかる」です。

＜第 5 段落　訳＞
そのとき、「モノ」が火星から来たということが考えの中で全く明確になったが、私はそれに何か生きているものが入っているというのは本当らしくないと断定した。
私はふたを緩めていることは自動だろうと考えた。
オグルビーの意見（第 1 章で「火星人なんていない」と言った）にもかかわらず、私はまだ火星に人がいると信じていた。
私たちが硬貨やメダルなどをその中で発見するかどうか、私の考えは、何か書いたものが円筒に入っている可能性や、生じる翻訳上の難しさについて空想的に回り始めた。
でもそれはこの考えにおいて確信するのには少し大きすぎるものだった。
私は円筒が開くのを見たいというじれったさを感じた。
11 時頃、何も起こっているようには見えないとき、私はそんな考えでいっぱいになりながら、メイブリーの家へと歩いて戻った。
でも私は難解な研究の仕事に取り掛かることが難しいとわかった。

＜第 6 段落＞

[目次へ戻る]

(In the afternoon) the appearance of the common* had altered* very much.

- common→共有地　altered (alter)→変わる

The early editions of the evening papers had startled* London with enormous* headlines*:
“A MESSAGE RECEIVED FROM MARS.”
“REMARKABLE* STORY FROM WOKING,”
and so forth.

- startled (startle)→びっくりさせる　enormous→巨大な　headlines (headline)→見出し　remarkable→驚くべき

In addition*, Ogilvy’s wire* to the Astronomical Exchange had roused* every observatory* in the three kingdoms.

- in addition→さらに　wire→電報　roused (rouse)→鼓舞する　observatory→観測所

※ three kingdoms ですけど、イギリスは４つの王国がありますので、この３つの王国というのは、グレートブリテン島の３つの王国（England、Scotland、Wales）かなぁと思います。それか、Wales を除いた３王国（Ireland が加わる）（イギリスの国旗は各王国の国旗を組み合わせたものだが、Wales の要素はない）か。

＜第６段落　訳＞
午後、その共有地（円筒が落ちたところ）の様子はかなり変化していた。
夕刊の早版はロンドンを巨大な見出しでびっくりさせたー「火星から受け取ったメッセージ」「ウォーキングからの驚くべき話」。
さらに、天文学の（情報の）交換会に向けて打ったオグルビーの電報は３つの王国のすべての観測所を鼓舞した。

＜第７段落　訳＞
There were half a dozen flys* or more from the Woking station 〈standing in the road by the sand-pits*〉, a basket-chaise* from Chobham, and a rather* lordly* carriage*.

- flys (fly)→貸し馬車　sand-pits→砂採取場　basket-chaise→ほろ付きの馬車　rather→少々　lordly→豪華な　carriage→四輪馬車

※ さすが英国。馬車の表現が多彩なことで。

Besides* that, there was quite a heap of* bicycles.

- besides→その上　a heap of→たくさんの

※ besides→その上　beside→そばで

In addition, a large number of people must have walked, 《in spite of the heat of the day》, from Woking and Chertsey, so that there was altogether* quite a considerable* crowd*—one or two gaily* dressed ladies among the others.

- altogether→まったく　considerable→かなりの　crowd→群衆　gaily→華やかに

※ ～so that…で「…のために～」（目的）もしくは「～なので…」（結果）。ここでは結果の方。

＜第７段落　訳＞
砂採取場のそばの道の、ウォーキング駅からの６台かそれ以上の貸し馬車、チョブハムからのほろ付きの馬車、そして少々豪華な四輪馬車もあった。
その上、全くたくさんの自転車もあった。
さらに、とても多くの人々が暑い日にもかかわらずウォーキングやチャーツィーから歩いてきたに違いないので、まったくかなりの群衆がいたー１、２人の華やかな服をまとったレディもその中にいた。

[目次へ戻る]

＜第８段落＞
It was glaringly* hot, not a cloud in the sky nor* a breath of wind, and the only shadow was that of the few scattered* pine trees*.

・ glaringly→ギラギラした　nor→～もない　scattered →散在する　pine trees (pine tree)→松の木

The burning heather had been extinguished*, but the level* ground (towards Ottershaw) was blackened* as far as* one could see, and still giving off* vertical* streamers of smoke.

・ extinguished (extinguish)→消す　level→平らな　blackened (blacken)→黒くする　as far as→～の限り遠く　giving off (give off)→放出する　vertical→垂直な

※ heather はヘザーという植物です。heath（ヒース）や heather などが生えている、イギリスの平坦な荒れ地を、これもまた heath と言うらしいです。どうやら、農業も牧畜もできないので、物語では忌まわしい場所のイメージで使われることが多いようです。

※ and は blackened と giving off をつないでるわけです。

An enterprising* sweet-stuff* dealer* in the Chobham Road had sent up his son with a barrow-load* of green apples and ginger* beer.

・ enterprising→積極的な　sweet-stuff→甘いもの＝お菓子　dealer→商人　barrow-load→手押し車の荷　ginger→ジンジャー（ショウガ）

＜第８段落　訳＞
ギラギラした暑さで、空には雲一つなく風の一吹きもなかった。そして唯一の影は、散在する松の木の影だった。
燃えているヘザーはすでに姿を消していたが、オターショウの方の平らな地面は見える限り遠く黒くなっていて、まだ垂直な煙の一筋を放出していた。
チョブハム道路の積極的なお菓子売りの商人はジンジャービールと青りんごを手押し車の荷として息子を派遣した。

＜第９段落＞
(Going to the edge of the pit), I found 【it occupied by a group of about half a dozen men—Henderson, Ogilvy, and a tall, fair-haired* man 〔that I afterwards* learned was Stent〕, 《the Astronomer Royal》, with several workmen* 〈wielding* spades and pickaxes*〉】.

・ fair-haired→金髪の　afterwards→後で　workmen (workman)→作業人　wielding (wield)→使う　pickaxes (pickaxe)→十字鍬

※found it occupied は find O 過去分詞で「O が過去分詞であるのを見つける」みたいな感じです。

Stent was giving directions* in a clear, high-pitched* voice.

・ directions (direction)→指揮　high-pitched→ハイピッチな

He was standing on the cylinder, 〔which was now evidently* much cooler〕; his face was crimson* and streaming with* perspiration*, and something seemed to have irritated him.

・ evidently→明らかに　crimson→紅い　streaming with (stream with)→～を流す　perspiration→汗

＜第９段落　訳＞
穴のへりに行くと、私はそこが６人ほどのグループで占領されているのを見つけたーヘンダーソン、オグルビー、そして何人かのシャベルや十字鍬を使っている作業人を従え、後で（名前を）ステントだと知った、王室天文官の

[目次へ戻る]

背の高い金髪の男だ。
ステントは明瞭なハイピッチな声で指揮を執っていた。
彼は既に明らかにかなり冷たくなっていた円筒の上に立っていて、彼の顔は紅く、汗を流していて、何かが彼をイライラさせているように思えた。

＜第 10 段落＞
A large portion* of the cylinder had been uncovered, though its lower end was still embedded.

- portion→部分

【As soon as Ogilvy saw me among the staring crowd on the edge of the pit】 he called to me to come down, and asked me if I would mind going over to see Lord* Hilton, the lord* of the manor*.

- Lord～→～卿　lord→領主　manor→領地
- ※ 間接話法です。「He asked me if I would mind going over to see…」は、もともと「He said to me “Would you mind going over to see…」で、would you mind…で頼みごとをしているわけです。

＜第 10 段落　訳＞
下の末端の方はまだ埋められていたが、円筒の大部分は表れていた。
オグルビーが、穴のふちの見ていた群衆の中で私を見つけるとすぐに、彼は下りてくるように私を呼び、そして、その土地の領主のヒルトン卿に会いに行ってくれないかと私に言った。

＜第 11 段落＞
The growing crowd, 《he said》, was becoming a serious impediment* to their excavations*, especially the boys.

- impediment→障害　excavations (excavation)→掘り出すこと

They wanted a light* railing* put up*, and help to keep the people back.

- light→簡単な　railing→柵　put up→建てる(ここでは過去分詞)
- ※ 「want O C」で「O が C であることを望む」別に C は過去分詞でもいいわけです。
- ※ and は a light と help（名詞）をつないでます。

He told me 【that a faint stirring* was occasionally* still audible within the case】, but 【that the workmen had failed to unscrew the top, 【as it afforded* no grip to them】】.

- stirring→わずかな動き　occasionally→時々　afforded (afford)→余裕がある

The case appeared to be* enormously* thick, and it was possible 【that the faint sounds 〔we heard〕 represented* a noisy tumult* in the interior*】.

- appeared to be (appear to be)→～のように見える　enormously→非常に　represented (represent)→示す　tumult→騒ぎ　interior→中の
- ※ it―that の形式主語です。that 以下が真の主語。

＜第 11 段落　訳＞
大きくなっている群衆、特に少年たちは掘り出すことの深刻な障害となっていると彼は言った。
彼らは簡単な柵を建てられることを望み、そして人々を下がらせるための助けを欲した。
かすかなわずかな動きがまだ時々容器の中で聞こえるが、握る（場所の）余裕がなかったので、作業人が上部のふたを回して緩めることには失敗した、と彼は私に言った。

[目次へ戻る]

容器は非常に厚いように見え、そして私たちが聞いたかすかな音は中の騒ぎを示している（壁が厚いのでかすかな音しか聞こえない）ことがありそうだった。

＜第 12 段落＞
I was very glad to do as he asked, and so become one of the privileged* spectators* within the contemplated* enclosure*.

- privileged→特権のある　spectators（spectator)→見物人　contemplated（contemplate)→じっと見つめる enclosure→柵で囲まれたところ

※ and so become の so は「I was very glad to」を指しているのでしょう。

I failed to find Lord Hilton at his house, but I was told 【he was expected from London by the six o'clock train from Waterloo】; and 【as it was then about a quarter past five】, I went home, had some tea, and walked up to the station to waylay* him.

- waylay→待ち構えて呼び止める

＜第 12 段落　訳＞
彼が私に（ヒルトン卿に会いに行ってくれと）頼んでくれたのでとてもうれしく、そして見つめられた、柵で囲まれたところの中の（中に入れる）特権のある見物人の一人になれたこともうれしかった。
私は彼の家でヒルトン卿に会うことには失敗したが、彼はウォータールーからの 6 時の電車でロンドンから（戻る）と思われていると語られて、そして、5 時 15 分ごろだったが、家に帰って、お茶を飲んで、彼を待ち構えて呼び止めるために駅へ歩いて向かった。

# Ⅳ.　THE CYLINDER OPENS.

＜第 1 段落＞
(When I returned to the common) the sun was setting.

Scattered* groups were hurrying from the direction of Woking, and one or two persons were returning.

- scattered →まばらな

The crowd about the pit had increased, and stood out* black against* the lemon yellow of the sky—a couple of hundred people, perhaps.

- stood out (stand out)→目立つ　against→背景にして

There were raised voices, and some sort of struggle* appeared to be going on* about the pit.

- struggle→争い　going on (go on)→起こる

Strange imaginings passed through my mind.

【As I drew* nearer】 I heard Stent's voice: "Keep back! Keep back!"

- drew (draw)→近づく

A boy came running towards me. "It's a-movin'," he said to me 【as he passed】; "a-screwin' and a-screwin' out. I

[目次へ戻る]

don’t like it. I’m a-goin’ ’ome, I am.”

※　movin’=moving, a-screwin’=unscrewing, goin’=going, ‘ome=home でしょう。

I went on* to the crowd.

・　went on (go on)→進み続ける

There were really, 《I should think*》, two or three hundred people〈elbowing* and jostling* one another*〉, (the one or two ladies there being by no means* the least active).

・　I should think→私は～だと思うよ（should で控えめになる）　elbowing (elbow)→ひじで押し分けて進む　jostling (jostle)→押しのける　one another→お互いに　by no means→決して～ではない

※　the one 以下分詞構文でしょう。

“He’s fallen in the pit!” cried some one.

※　この He’s は He is ではなく He has の短縮です。

“Keep back!” said several*.

・　several→数人

The crowd swayed* a little, and I elbowed my way* through.

・　swayed (sway)→揺れる　elbowed my way (elbow one’s way)→ひじで押し分け進む

Every one seemed greatly* excited.

・　greatly→大いに

I heard a peculiar* humming* sound from the pit.

・　peculiar→妙な　humming→ブンブンいう

“I say!*” said Ogilvy; “help keep these idiots* back. We don’t know what’s in the confounded* thing, you know!”

・　I say→おい（呼びかけの言葉）　idiots (idiot)→馬鹿　confounded →忌々しい

※　help <to> V で「手伝う」「役立つ」です。

I saw a young man, 《a shop assistant in Woking I believe he was》, standing on the cylinder and trying to scramble* out of the hole again.

・　scramble→はい出る

The crowd had pushed him in.

※　had pushed で大過去で前文の trying to scramble out of the hole（穴からはい上がろうとしている）より前なので、この２文では、店員の男が群衆に落とされて、その後はい上がろうとしていているということです。

＜第１段落＞

共有地に戻ったとき、太陽は沈んでいるところだった。

ウォーキングの方から、まばらな集団が急いで来ていて、１、２人が戻っていった。

（円筒の落ちた）穴の周りの集団は増加して、（集団の人々の影の）黒さが、空のレモンイエローを背景に目立ったーたぶん 200 人くらいいただろう

[目次へ戻る]

声が上げられ、いくつかの争いが穴の周りで起こっているように見えた。
奇妙な想像が頭の中をかけめぐった。
より近くに行くと、ステントの声を聞いた。「下がれ！　下がれ！」と。
少年が私の方へ走ってきた。「動いてる」彼は私に、通り過ぎながら言った。「（ふたが）回ってて、回って外れようとしてる。いやだよ。家に帰るよ」。
私は群衆の方へ進み続けた。
私は思うが、実に 2、300 人もの人々が、お互いにひじで押し分け進み、押しのけ合っていて、１、２人のそこのレディも決して最小限の動きではなかった（彼女らも同じようだった）。
「彼が穴から落っこちたわ！」誰かが泣いた。
数人が「下がれ！」と言った。
群衆は少し揺れ、私はひじで押し分けて進んでいった。
みんな大いに興奮しているようだった。
穴からの妙なブンブンいう音を聞いた。
「おい！」オグルビーは言った。「この馬鹿どもを下がらせるのを手伝えっ！　俺たちはこの忌々しいものに何が入ってるか知らないんだから」
ウォーキングで店員をしていたと思うが、円筒の上に立ち、また穴の外にはい出ようとする若い男を私は見た。
群衆が彼を落としたのだ。

＜第２段落＞
The end of the cylinder was being screwed out from within.

Nearly two feet of shining screw projected*.
- projected (project)→突出する

Somebody blundered* against me, and I narrowly* missed* being pitched* onto the top of the screw.
- blundered (blunder)→つまずく　narrowly→辛うじて　missed (miss)→避ける　pitched (pitch)→倒れる

I turned, and 【as I did so】 the screw must have come out*, 【for the lid of the cylinder fell upon the gravel* with a ringing concussion*】.
- come out→抜ける　gravel→砂利　concussion→振動
- ※ for は理由を述べる接続詞で「というのは～だからだ」ですが、because ほど強くはなく、and に近い意味だそうです。

I stuck my elbow* into the person behind me, and turned my head towards the Thing again.
- elbow→ひじ

(For a moment) that circular cavity* seemed perfectly black.
- circular→円形の　cavity→空洞

I had the sunset in my eyes.

＜第２段落　訳＞
円筒の末端は内部から回されていた。
だいたい２フィートの輝いているねじが突出していた。

[目次へ戻る]

誰かが私の方につまずいたが、辛うじてねじの先端に倒されることは避けられた。
私は振り返り、そしてそうしたときに、ねじは抜けたに違いない、というのも、円筒のふたが振動音をとともに砂利の上に落ちたのだ。
私は後ろの人にひじを突き出し、再び「モノ」の方に頭を向けた。
ちょっとの間、その円形の空洞はほとんど真っ黒に見えた。
私の眼には日没が写っていた（円形の空洞が真っ黒に見えたのは、夕日を見ていたから）。

＜第３段落＞
I think everyone expected to see a man emerge*—possibly* something a little unlike us terrestrial* men, but in all* essentials* a man.

- emerge→現れる　possibly→ひょっとしたら　terrestrial→地球の　in all→全体で　essentials (essential)→本質の要素

※see ＯＶ「Ｏが Ｖするのを見る」

I know I did.

※　did=expected

But, looking, I presently* saw something stirring* within the shadow: greyish billowy* movements, one above another, and then two luminous* disks—like eyes.

- presently→やがて　stirring (stir)→動く　billowy→大きくうねる　luminous→光る

※　one above another が辞書にもネットにも載ってませんでしたが、誰か知ってたら教えてください。

Then something resembling* a little grey snake, 《about the thickness of a walking stick》, coiled* up out of the writhing* middle, and wriggled* in the air towards me—and then another.

- resembling (resemble)→似ている　coiled (coil)→とぐろを巻く　writhing (writhe)→のたうち回る　wriggle→身をよじる

＜第３段落　訳＞
みんな、人が現れるのを期待したと思うーひょっとしたら、少し私たち地球の人に似ていない、でも全体の本質の要素は地球の人であるという何かが。
私もそう期待したのだ。
でも、見ると、やがて、何か影の中で動いている、灰色の大きくうねる動き（触手）、そしてその後２つの光る円盤を見たー目のような。
そして何か、歩く杖の太さくらいの、小さい灰色の蛇に似ている触手が、のたうち回っていた真ん中から、とぐろを巻いて出てきて、私に向かって空気中で身をよじらせたーそして次々とその触手が出てきた。

＜第４段落＞
A sudden chill* came over me.

- chill→悪寒

There was a loud shriek* from a woman behind.

- shriek→金切り声

I half turned, 《keeping my eyes fixed upon the cylinder still, 〔from which other tentacles* were now projecting*〕》,

[目次へ戻る]

and began pushing my way back from the edge of the pit.

- tentacles (tentacle)→触手　projecting (project)→突き出る

I saw astonishment giving place to horror* on the faces of the people about me.

- horror→恐怖

I heard inarticulate* exclamations* on all sides.

- inarticulate→不明瞭な　exclamation→絶叫

There was a general* movement backwards*.

- general→様々な　backwards→後方の

I saw the shopman struggling* still on the edge of the pit.

- struggling→奮闘する

I found myself alone, and saw the people (on the other side of the pit) running off, Stent among them.

I looked again at the cylinder, and ungovernable* terror gripped me.

- ungovernable→抑制できない

I stood petrified* and staring.

- petrified (petrify)→硬直する

A big greyish rounded bulk, 《the size, 《perhaps》, of a bear》, was rising slowly and painfully* out of the cylinder.

- painfully→苦しげに

【As it bulged up and caught the light*】, it glistened* like wet leather.

- bulged (bulge)→突き出る　caught the light (catch the light)→光を受ける　glistened (glisten)→きらめく

＜第４段落　訳＞
突然の悪寒が私を襲った。
後ろの女性からのうるさい金切り声が上がった。
私は、他の触手が突き出ている円筒の方に目を固定したまま、半分ふりむいて、そして、穴のへりから道を押し分けて下がり始めた。
私はまわりの人々の顔の驚きが恐怖へと変わっていくのを見た。
不明瞭な絶叫をあらゆる方から聞いた。
さまざまな動きが後方で起こった。
私はその店員（さっき突き落とされた店員）がまだ穴のふちで奮闘しているのを見た。
私は自分自身が一人であることに気づき、ステントを含む穴の反対側の人々が走って離れていくのを見た。
再び円筒を見て、抑制できない恐怖が私をとらえた。
硬直し、見つめて立っていた。
たぶん大きさがクマほどの、灰色の丸い大きな物体がゆっくりと、苦しげに円筒から上がってきた。
それは突き出て太陽の光を受けると、ぬれた革のようにきらめいた。

[目次へ戻る]

＜第５段落＞
Two large dark-coloured eyes were regarding* me steadfastly*.

- regarding (regard)→じっと見る　steadfastly→しっかりと

The mass〔that framed them〕,《the head of the thing》, was rounded, and had,《one might say》, a face.

- framed (frame)→枠で囲む

There was a mouth under the eyes, the lipless* brim〔of which quivered* and panted*〕, and dropped saliva*.

- lipless→唇がない　brim→へり　quivered (quiver)→震える　panted (pant)→あえぐ　saliva→唾液

The whole creature heaved* and pulsated* convulsively*.

- heaved (heave)→あえぐ　pulsated (pulsate)→震える　convulsively→発作的に

A lank* tentacular* appendage* gripped the edge of the cylinder, another swayed* in the air.

- lank→ひょろ長い　tentacular→触手のある　appendage→付属器官　swayed (sway)→揺らぐ

＜第５段落　訳＞
２つの大きな暗い色の眼がしっかりと私を見ていた。
それらの眼を囲んでいる物体、そのモノの頭は、丸く、誰かが言ったが、顔があった。
眼の下には口、震えてあえいでいる唇がないへり、そして垂らされた唾液があった。
その生き物の全身は発作的にあえぎ、震えた。
ひょろ長い触手のある１つの付属器官は円筒のふちをつかみ、他のは空気中で揺らいでいた。

＜第６段落＞
Those〔who have never seen a living Martian〕can scarcely imagine the strange horror of its appearance.

The peculiar* V-shaped* mouth with its pointed upper lip, the absence* of brow* ridges*, the absence of a chin* beneath* the wedgelike* lower lip, the incessant* quivering* of this mouth, the Gorgon* groups of tentacles, the tumultuous* breathing of the lungs* in a strange atmosphere, the evident heaviness and painfulness of movement due to* the greater gravitational* energy of the earth—above all*, the extraordinary* intensity* of the immense* eyes—were at once* vital*, intense, inhuman*, crippled* and monstrous.

- peculiar→みょんな　V-shaped→V 字状の　absence→欠乏　brow→額　ridges (ridge)→隆起　chin→あご　beneath→～の下に　wedgelike→くさびのような　incessant→絶え間ない　quivering (quiver)→震える　Gorgon→ゴルゴン（頭にヘビが付いてる怪物）　tumultuous→騒がしい　lungs (lung)→肺　due to≒because of≒on account of≒owing to≒「～のために」　gravitational→重力の　above all→とりわけ　extraordinary→異常な　intensity→強烈さ　immense→巨大な　at once→同時に　vital→力強い　inhuman→非人間的　crippled→不自由な体の　monstrous→恐るべき

There was something fungoid* in the oily brown skin, something in the clumsy* deliberation* of the tedious* movements unspeakably* nasty*.

- fungoid→菌性の　clumsy→ぎこちない　deliberation→慎重さ　tedious→長ったらしい　unspeakably→言いようのないほど　nasty→不快な

[目次へ戻る]

Even at this first encounter*, this first glimpse, I was overcome with* disgust* and dread*.

- encounter→遭遇　overcome (overcome) with→～に圧倒される　disgust→嫌気　dread→恐れる

＜第 6 段落　訳＞
（現代の）生きた火星人を見たことない人たちはその外見の奇妙な恐怖をほとんど想像できないだろう。
上に向けられた唇があるその妙な V 字状の口、額の隆起の欠如、くさびのような下唇の下のあごの欠如、絶え間ないこの口の震え、ゴルゴンのような触手の集まり、慣れない大気の中での肺の騒がしい呼吸、地球のより強い重力のエネルギーによる動きの明らかな重さと痛みーとりわけ、巨大な眼の異常な強烈さー これらは、同時に力強く、強烈で、非人間的で、不自由な体で、恐るべきものだった。
油のような茶色の皮膚の菌性の何か、言いようのないほど不快な長ったらしい動きのぎこちない慎重さの何かがあった。
最初の遭遇のときでさえ、一見して、私は嫌気に圧倒されて恐れた。

＜第 7 段落＞
Suddenly the monster vanished*.
vanished (vanish)→消滅する

It had toppled* over the brim of the cylinder and fallen into the pit, with a thud* like the fall of a great mass of leather.

- toppled (topple)→倒れる　thud→ドシーン
- ※　and は toppled と fallen をつないでます。

I heard it give a peculiar thick cry*, and forthwith* another of these creatures appeared darkly* in the deep shadow of the aperture*.

- cry→叫び声　forthwith→直ちに　darkly→ひそかに　aperture→穴
- ※　hear 知覚動詞。

＜第 7 段落　訳＞
突然、そのモンスターは消滅した。
それは革の大きな物体の落下のようなドシーンという音を立てて、円筒のふちから倒れ、穴に落っこちた。
私はそれが奇妙な太い叫び声をあげ、そして直ちにその他のこれらの生物が穴の深い闇の中にひそかに現れた。

＜第 8 段落＞
I turned and, 《running madly*》, made* for the first group of trees, perhaps a hundred yards away; but I ran slantingly* and stumbling*, for I could not avert* my face from these things.
madly→気が狂ったように　made (make)→～に進む　slantingly→斜めに　stumbling (stumble)→つまずく　avert→背ける

＜第 8 段落　訳＞
気が狂ったように走りながら、私は振り向き、おそらく 100 ヤード（≒90m）離れていた最初の木の集まりの方へ進んだが、私は斜めに、つまずき走った、というのも、私はこれらのモノから顔を背けられなかったからだ。

＜第 9 段落＞

[目次へ戻る]

There, 《among some young pine trees and furze* bushes*》, I stopped, 《panting*》, and waited further developments*.

- furze→ハリエニシダ　bushes（bush）→茂み　panting（pant）→激しく動悸する　developments（development）→進展

The common round* the sand-pits was dotted with* people, (standing like myself in a half-fascinated terror),(staring at these creatures, or rather at the heaped gravel at the edge of the pit 〔in which they lay〕).

- round→～の周りの　was (be) dotted with→～が点在する

※ or は at these creatures と at the heaped gravel をつないでいます。rather は副詞なので無視です。

And then, (with a renewed* horror), I saw a round, black object bobbing* up and down on the edge of the pit.

- renewed (renew)→復活する　bobbing (bob)→揺れる

It was the head of the shopman 〔who had fallen in〕, but showing as a little black object against the hot western sun.

Now he got his shoulder and knee up, and again he seemed to slip back 【until only his head was visible】.

Suddenly he vanished, and I could have fancied 【a faint shriek* had reached me】.

- shriek→金切り声

I had a momentary* impulse* 〈to go back and help him〉 〔that my fears overruled*〕.

- momentary→一瞬の　impulse→衝動　overruled (overrule)→却下する

＜第 9 段落　訳＞
いくつかの若い松の木とハリエニシダの茂みの中で心臓が激しく動悸しながら私は立ち止まり、さらなる進展を待った。
砂採取場の周りの共有地には、私のように半分恐怖に魅了されて立っていたり、これらの生物や、むしろそれらが横たわっている穴のふちの砂利の山を見つめたりしている人々が点在していた。
そしてその後、復活した恐怖とともに、私は丸く、黒いものが穴のふちで上下に揺れているのを見た。
それは落下したその店員の頭だったが、暑い西日を背景とした黒い小さなものとして現れていた。
今、彼は肩とひざを上げ、そして頭だけが見えるようになるまで再び滑り落ちたように見えた。
突然彼は消滅して、そしてかすかな金切り声が私に届いたように思える。
私は恐怖が却下したが、戻って彼を助けるという一瞬の衝動にかられた。

＜第 10 段落＞
Everything was then quite invisible, hidden by the deep pit and the heap of sand 〔that the fall of the cylinder had made〕.

Anyone 〈coming along the road from Chobham or Woking〉 would have been amazed* at the sight*—a dwindling* multitude* of perhaps a hundred people or more (standing in a great irregular* circle, in ditches*, behind bushes, behind gates and hedges*), (saying little to one another and that in short), (excited shouts), (and staring), (staring hard at a few heaps of sand).

- amazed (amaze)→びっくりさせる　sight→光景　dwindling (dwindle)→次第に減少する　multitude→群衆　irregular→不揃いの　ditches (ditch)→溝　hedges (hedge)→生垣

[目次へ戻る]

The barrow* of ginger beer stood, a queer* derelict*, black against the burning sky, and in the sand-pits was a row* of deserted* vehicles* with their horses feeding out of nosebags* or pawing* the ground.

- barrow→商人の手押し車　queer→変な　derelict→放置された　row→列　deserted (desert)→見捨てる　vehicles (vehicle)→乗り物　nosebags (nosebag)→飼い葉袋　pawing (paw)→ひづめで打つ

※ and は文をつないでいて、後半の文（in the sand-pits…）では倒置があります。第 1 文型の倒置です。

＜第 10 段落　訳＞
その時、すべてが全く見えず、円筒の落下が作り出した深い穴と砂の山によって隠されていた。
チョブハムやウォーキングからの道に沿って来た人は誰でもその光景に驚いただろうーおそらく 100 人かそれ以上の次第に減少する群衆が、大きな不揃いの円になって、溝の中、茂みの背後、門や生垣の後ろに立っていて、お互いにほとんどしゃべらずしかも短いもので、叫びに興奮し、そして少しの砂の山を熱心に見つめていた。
ジンジャービールを積んだ商人の手押し車は、変に放置され、燃える空を背景に黒くたたずんでいて、そして砂採取場には、飼い葉袋の外で食べ物を食べていたり、ひづめで地面を打っていたりする馬と、見捨てられた乗り物の列があった。

# V.　THE HEAT-RAY.

＜第 1 段落＞
(After the glimpse 〔I had had of the Martians 〈emerging* from the cylinder 〔in which they had come to the earth from their planet〕〉〕), a kind of fascination* paralysed* my actions.

- emerging (emerge)→現れる　fascination→魅惑　paralysed (paralyse)→麻痺させる

I remained standing knee-deep* in the heather, (staring at the mound* 〔that hid them〕).

- knee-deep→膝まで沈んで　mound→山

I was a battleground of fear and curiosity.

＜第 1 段落　訳＞
地球へやって来た円筒の中から現れた火星人たちを一見した後、一種の魅惑が行動を麻痺させた。
彼らを隠している山を見つめ、私はヘザーの野原に膝まで沈んで立ち続けた。
私は恐怖と好奇心の戦場にいた。

＜第 2 段落＞
I did not dare to* go back towards the pit, but I felt a passionate* longing* to peer* into it.

- dare to→あえて～する　passionate→情熱的な　longing (long)→切望する　peer→じっと見る

I began walking, 《therefore》, 《in a big curve*》, seeking some point of vantage* and continually* looking at the sand-heaps 〔that hid these new-comers to our earth〕.

- curve→カーブ　vantage→有利な　continually→絶えず

Once a leash* of thin black whips*, 《like the arms of an octopus》, flashed* across the sunset and was immediately withdrawn*, and afterwards a thin rod* rose up, 《joint* by joint》, bearing* (at its apex*) a circular disk 〔that spun*

[目次へ戻る]

with a wobbling* motion〕.

- leash→綱　whips (whip)→むち　flashed (flash)→現れる　withdrawn (withdraw)→引っ込める　rod→棒　joint→関節　bearing (bear)→身につける　apex→頂点　spun(spin)→回転する　wobbling (wobble)→ふらつく

※ 最初の and は flashed と was をつないでます。

※ APEX とかいうゲームがなんかあるみたいですけど、「頂点」という意味です。なお綴りは違いますが fortnight は「2 週間」という意味になっております（名詞）。I've been playing Fortnite for a fortnight. なんてね。

What could be going on* there?

- going (go) on→起こる

＜第 2 段落　訳＞

私は穴の方へあえて戻らなかったが、中をじっと見たいという情熱的な切望を感じた。
私は歩き始め、そのために、大きなカーブで、（火星人を見るのに）有利な地点を探し、我々の地球へのこれらの新たな来訪者を隠している砂の山を絶えず見続けた。
一度、タコの腕のような細く黒いムチの綱が夕日を横切って現れ、即座に引っ込められて、そしてその後、細い棒が上がってきて、関節ごとに、その頂点に、ふらつく動きをしながら回転する丸い円盤がついていた。
そこで何が起きたのだろう？

＜第 2 段落＞

Most of the spectators* had gathered in one or two groups—one a little crowd towards Woking, the other a knot* of people in the direction of Chobham.

- spectators (spectator)→見物人　knot→集団

Evidently* they shared* my mental conflict*.

- evidently→明らかに　shared (share)→（考えを）共通して持つ　conflict→葛藤

There were few near me.

One man 〔I approached—he was, 《I perceived》, a neighbour of mine, 【though I did not know his name】—and accosted*〕.

- accosted (accost)→近寄って声をかける

But it was scarcely a time for articulate* conversation. "What ugly brutes*!" he said. "Good God! What ugly brutes!"

- articulate→明瞭に表現する　brutes (brute)→けだもの

He repeated this over and over again.

"Did you see a man in the pit?" I said; but he made no answer to that.

We became silent, and stood watching for a time side by side*, (deriving*, 《I fancy》, a certain comfort* in one another's company*).

[目次へ戻る]

- side by side→並んで　deriving (derive)→得る　comfort→心地よさ　company→付き合い

Then I shifted* my position to a little knoll*〔that gave me the advantage* of a yard or more of elevation〕and【when I looked for him presently】he was walking towards Woking.

- shifted (shift)→変える　knoll→小山　advantage→有利さ

＜第２段落　訳＞
ほとんどの見物人は１、２つの集団となって集まっていた。１つはウォーキングの方の小さな群衆、もう１つはチョブハムの方向の集団だった。
明らかに彼らも私の心の葛藤と同じものを持っていた。
私の近くにいる人はほとんどいなかった。
私が近づいて声をかけた男―彼は、私は気づいたが、名前は知らないけれど、近所の人だったー
でも、ほとんど明瞭な会話の時間はなかった。「なんて醜いけだものだ！」彼は言った。「神よ、神よ！なんて醜いけだものだ！」
彼はこのことを何度も何度も繰り返した。
「穴の中の男を見たかい？」と私は言ったが、彼はそれに対して何も答えなかった。
私たちは静かになり、私は今思うが、お互いの付き合いの確かな心地よさを得て、一時、二人並んで眺めて立っていた。
そして私は、１ヤード以上標高が高いという（見晴らしの）有利さをもたらす小さな山に位置を変え、彼をすぐに探したとき、彼はウォーキングの方へ歩いていた。

＜第３段落＞
The sunset faded to twilight【before anything further happened】.

The crowd far away on the left,《towards Woking》, seemed to grow, and I heard now a faint murmur* from it.

- murmur→かすかな人声

The little knot of people towards Chobham dispersed*.

- dispersed (disperse)→散らばる

There was scarcely an intimation* of movement from the pit.

- intimation→暗示

＜第３段落　訳＞
さらなることが起きる前に、夕日は沈み黄昏時になった。
ウォーキングの方の左の遠くの群衆は大きくなっているように見え、私はそのとき、かすかな人声をそこから聞いた。
小さな人々の集団はチョブハムの方へ散らばっていった。
穴からの動きの暗示はほとんどなかった。

＜第４段落＞
It was this,《as much as anything*》,〔that gave people courage〕, and I suppose the new arrivals from Woking also helped to restore* confidence*.

- as much as anything→何よりも　restore→回復する　confidence→信用、確信

[目次へ戻る]

※　文頭の it はたぶん that gave people courage かなぁと思います。
※　help はいろいろ意味があってややこしいですが、ここでは「～するのに役立つ」という意味です。

At any rate*, 【as the dusk* came on a slow】, intermittent* movement upon the sand-pits began, a movement 〔that seemed to gather* force as the stillness* of the evening about the cylinder〕 remained unbroken*.

- at any rate→とにかく　dusk→夕闇　intermittent→断続的な　gather→増す　stillness→静寂　unbroken→途切れない

Vertical black figures* in twos and threes* would advance, stop, watch, and advance again, (spreading out* 【as they did so in a thin irregular* crescent* 〔that promised* to enclose* the pit in its attenuated* horns*〕】.

- figures (figure)→人影　in twos and threes→ちらほら　spreading (spread) out→散らばる　irregular→乱れた　crescent→三日月形　promised (promise)→しそうである　enclose→囲む　attenuated (attenuate)→細くする　horns (horn)→一端

※　なんかどうも意味がよくわからなかったです。すみません。

I, too, on my side began to move towards the pit.

＜第 4 段落　訳＞
人々に勇気を与えたのは何よりもこのこと（穴に動きがなかったこと）で、そして私は、ウォーキングからの新しく到着した者もその確信を回復するのに役に立ったのだと思う。
とにかく、夕闇がゆっくり訪れるにつれて、砂採取場での断続的な人の動きが始まり、円筒の周りで夕方の静寂のごとく勢力が増すように思えた動きは途切れなかった。
ちらほら、垂直な黒い人影が、進んだり、止まったり、眺めたり、そしてまた進んだりするようで、細い一端の穴を囲みそうになる細く乱れた三日月形の中で彼らがそうしている間、散らばっていた（ごめんなさいよくわかりません）。
私の側も、穴に向かって動き始めた。

＜第 5 段落＞
Then I saw some cabmen* and others had walked boldly* into the sand-pits, and heard the clatter* of hoofs* and the gride* of wheels.

- cabmen (cabman)→タクシーの運転手　boldly→勇気をもって　clatter→カタカタ言う音　hoofs (hoof)→足　gride→軋み

※　some cabmen and others が had walked するのを saw したということです。

I saw a lad* trundling off* the barrow* of apples.

- lad→少年　trundling off (trundle off)→ゴロゴロと音を立てて押していく　barrow→手押し車

And then, 《within thirty yards of the pit》, (advancing from the direction of Horsell), I noted* a little black knot* of men, the foremost* of whom was waving a white flag.

- noted (note)→注意を払う　knot→集団　foremost→先頭の

※　最後ですが、非制限用法で、 I noted a little black knot of men and the foremost of them was waving a white flag.がもともとで、関係詞として接続するときに、of の後ろだから whom という形になったのです。

＜第 5 段落　訳＞

[目次へ戻る]

その後、私は何人かのタクシー運転手とそのほかの人々が勇気をもって砂採取場へ歩いていったのを見て、そして車輪の軋みと足のカタカタいう音が聞こえた。
私は少年がリンゴの手押し車をゴロゴロと音を立てて押していくのを見た。
そしてその後、穴から 30 ヤードの中で、私は、ホーセルの方向から進んできた、小さな男の黒い集団に注意を払ったが、彼らの先頭の人は白い旗を振っていた。

＜第 6 段落＞
This was the Deputation*.

- deputation→代表団

There had been a hasty* consultation*, and 【since the Martians were evidently*, 《in spite of their repulsive* forms》, intelligent creatures】, it had been resolved* to show* them, (by approaching them with signals), 【that we too were intelligent】.

- hasty→急がれた　consultation→会議　evidently→明らかに　repulsive→大変いやな　resolved (resolve)→決議する　show O that SV→O に SV であることを示す

※　後半部 it―to の形式主語です。to show 以下が真の主語です。

＜第 6 段落　訳＞
これは代表団だった。
急いでなされた会議があり、そして火星人が大変嫌な形状にもかかわらず明らかに知性のある生き物だったので、合図とともに近づいて私たちもまた知性を持っていることを彼らに示そうということが決議された。

＜第 7 段落＞
Flutter*, flutter, went the flag, first to the right, then to the left.

- flutter→はためく

It was too far for me to recognise anyone there, but afterwards* I learned 【that Ogilvy, Stent, and Henderson were with others in this attempt* at communication】.

- afterwards→後で　attempt→試み

※　too―to

This little group had in its advance 〈dragged* inward*〉, so to speak*, the circumference* of the now almost complete circle of people, and a number of dim* black figures* followed it at discreet* distances.

- dragged (drag)→引きずる　so to speak→言わば　circumference→周囲　dim→ぼやけた　figures (figure)→姿　discreet→慎重な

＜第 7 段落　訳＞
はためく、はためく、旗が、まず右に、そして左に。
遠すぎて私がそこの誰かを認識することはできなかったが、後で私は、オグルビー、ステント、ヘンダーソンが他の人たちと一緒に火星人とのコミュニケーションをとろうという試みをしていたことを知った。
この小さい集団は中に引きずられていっていて、いわば、その時ほとんど完全に円となっていた人の周囲で、そして多くのぼやけた黒い姿が慎重な距離でそれを追いかけていた。

[目次へ戻る]

＜第 8 段落＞
Suddenly there was a flash of light, and a quantity* of luminous* greenish smoke came out of the pit in three distinct* puffs*, 〔which drove up, one after the other, straight into the still* air〕.

- quantity→多数　luminous→光を発する　distinct→はっきりわかる　puffs (puff)→一吹きの煙　still→風のない

＜第 8 段落　訳＞
突然閃光が走って、そして 3 つの異なる筋となって光を発する多数の緑の煙が穴から出てきたが、それらは次々と、まっすぐに風のない空中へと上がっていった。

＜第 9 段落＞
This smoke (or flame, 《perhaps》, would be the better word for it) was so bright that the deep blue sky overhead* and the hazy* stretches* of brown common towards Chertsey, 《set with* black pine trees》, seemed to darken abruptly* as these puffs arose*, and to remain the darker after their dispersal*.

- overhead→頭上の　hazy→かすんだ　stretches (stretch)→一続き　be set with→囲まれる（本文では過去分詞）　abruptly→急に　arose (arise)→立ち現れる　dispersal→解散

※ so…that 構文です。
※ (or flame…)のカッコはもともとありました。

(At the same time) a faint hissing* sound became audible.

- hissing→シューという音

＜第 9 段落　訳＞
この煙（それかたぶん「炎」がそれを表すのに適切なことばだろう）はとても明るかったので、頭上の深い青の空と黒い松の木で囲まれたかすんだチャーツィーの方の茶色の共有地の一続きは、これらの煙が立ち現れるにつれて急に黒くなっていき、彼らの解散の後ますます暗くなっていくように見えた。
そのとき、かすかなシューという音が聞こえるようになった。

＜第 10 段落＞
(Beyond* the pit) stood the little wedge* of people with the white flag at its apex*), 〈arrested by these phenomena*〉, a little knot of small vertical* black shapes upon the black ground.

- beyond→向こうに　wedge→くさび形（V 字形）の　apex→頂点　phenomena→現象　vertical→垂直の

※ 倒置ですね。第一文型です。
※ phenomena は複数形 phenomenon なんですって。

【As the green smoke arose】, their faces flashed out pallid* green, and faded again 【as it vanished】.

- pallid→青白い

Then slowly the hissing passed into* a humming, into a long, loud, droning* noise.

- passed into (pass into)→変化する　droning (drone)→ブーン

Slowly a humped* shape rose out of the pit, and the ghost* of a beam* of light seemed to flicker* out from it.

- humped→こぶのある　ghost→わずかな影　beam→ビーム　flicker→ちらつく

[目次へ戻る]

＜第 10 段落　訳＞
穴の向こうに、これらの現象にとらわれた、地面の上の小さな垂直の黒い形の集まりである、小さなくさび形の白い旗と人々が立っていた。
緑の煙が立ち上ると、彼らの顔は青白い緑に照らし出され、そして光が消えるとまた顔の光も衰えていった。
そしてゆっくりと、シューという音は長く、うるさく、ブーンという音に変わっていいった。
ゆっくりと、こぶのある物体が穴の外に上がってきて、そして光のビームのわずかな影がそこからちらつくように見えた。

＜第 11 段落＞
Forthwith* flashes of actual flame, 《a bright glare* leaping* from one to another》, sprang* from the scattered* group of men.

- forthwith→すぐに　glare→まぶしい光　leaping (leap)→跳ぶ　sprang (spring)→姿を現す　scattered (scatter)→散る

It was as if some invisible jet impinged upon* them and flashed into white flame.

- impinged upon (impinge upon)→当たる

※ as if 構文があります。主節が現在形でも過去形でも as if 節が主節と同じ時制⇒過去形で、主節より前の時制⇒過去完了形　ですね

※ and は impinged と flashed をつないでいます。

It was as if each man were suddenly and momentarily* turned to fire.

- momentarily→瞬間的に

＜第 11 段落　訳＞
すぐに、あちらからこちらに跳ぶ、輝くまぶしい光である、現実の炎の一閃が散っていた人々の集団から現れた。
それはあたかも見えないジェットが彼らに当たり、白い光となりきらめくようであった。
それはあたかもそれぞれの人が突然、瞬間的に炎へ変わったようだった。

＜第 12 段落＞
Then, 《by the light of their own destruction*》, I saw them staggering* and falling*, and their supporters turning to run.

- destruction→破壊　staggering (stagger)→よろめく　falling (fall)→倒れる

＜第 12 段落　訳＞
そして、彼らの破壊の光によって、彼らがよろめいて倒れ、そして彼らを支える人が走り出したのを私は見た。

＜第 13 段落＞
I stood staring, not as yet* realising 【that this was death 〈leaping from man to man in that little distant crowd〉】.

- as yet→まだ

All I felt was 【that it was something very strange】.

[目次へ戻る]

※ all SV で「SV する唯一のこと、もの」らしいです。all が代名詞で、「that SV」の関係詞があるだけなんですけどね。まあ、「SV するすべて」でも意味がわからないことはないですけど。というか僕、今まで「SV するすべて」で訳してしまってた気がするので直しといてください。

An almost noiseless* and blinding* flash of light, and a man fell headlong* and lay still; and 【as the unseen shaft* of heat passed over them】, pine trees burst into* fire, and every dry furze* bush* became (with one dull* thud*) a mass of flames.

- noiseless→静かな　blinding→まばゆいばかりの　headlong→真っ逆さまに　shaft→光線　burst into (burst into)→突然～しだす　　furze→ハリエニシダ　bush→やぶ　dull→鈍い　thud→ドンという音

※ became with one dull thud a math of flames の文法分析がこれで合ってるのかは確証がないですが。

And (far away towards Knaphill) I saw the flashes of trees and hedges* and wooden buildings suddenly set alight*.

- hedges (hedge)→生垣　set alight (set O alight)→O に火をつける

※ あの I saw buildings set alight で set 過去分詞。

＜第 13 段落＞
私は見つめて立っていて、まだ、これが、あの小さな遠い集団の中で人から人へ跳ぶ死であることに気づいていなかった。
私が感じた唯一のことは、何か奇妙であるということだった。
ほぼ静かでまばゆいばかりの光の一閃がきらめき、一人が真っ逆さまに落っこちてそのまま横たわっていた。
そして見えない熱の光線が彼らの上を過ぎたとき、松の木は突然炎に包まれ、そしてすべての乾燥したハリエニシダは鈍いドンとした音とともに炎のかたまりになった。
そして遠く離れたナップヒルの方に、私は木と生垣の炎と、突然火をつけられた木の家を見た。

＜第 14 段落＞
It was sweeping* round* swiftly* and steadily*, this flaming death, this invisible, inevitable* sword of heat.

- sweeping (sweep)→一掃する　round→あちこちに　swiftly→すばやく　steadily→着々と　inevitable→不可避の

※ なんか、主語が長いので後ろに送って it 形式主語なんでしょう。

I perceived it coming towards me by the flashing bushes〔it touched〕, and was too astounded* and stupefied* to stir*.

- astounded (astound)→びっくりさせる　stupefied (stupefy)→呆然とさせる　stir→動く

※ 最初の and は perceived と was をつないでいます。次の and は astounded と stupefied です。
※ perceive（気づく）も知覚動詞ですね。
※ too～to 構文があります。

I heard the crackle* of fire in the sand-pits and the sudden squeal* of a horse〔that was as suddenly stilled*〕.

- crackle→パチパチという音　squeal→悲鳴　stilled→静かな

※後ろの as ですけど、本来は a horse that was as suddenly stilled as the sudden squeal みたいになってて、どっちも「突然」なので、後ろの as が省略されているんでしょう。

Then it was 【as if an invisible yet intensely* heated* finger* were drawn* through the heather between me and the Martians, and (all along a curving* line (beyond the sand-pits)) the dark ground smoked and crackled】.

[目次へ戻る]

・ intensely→強烈な　heated (heat)→熱する　finger→指の形をしたもの　drawn (draw)→引き寄せる　curving (curve)→カーブする

Something fell with a crash* far away to the left 〔where the road (from Woking station) opens out on the common〕.

・ crash→すさまじい音

Forth-with the hissing and humming ceased*, and the black, dome-like* object sank slowly out of sight into the pit.

・ ceased (cease)→終わる　dome-like→ドームのような

＜第 14 段落＞
この炎の死、この不可視で不可避の熱の剣はあちこちにすばやく、着実に人々を一掃した。
私はそれが、触れた燃える茂みのわきを通り私に向かってやってきているのに気づき、私はあまりにもびっくりし呆然として動けなかった。
私は砂採取場の炎のパチパチという音と、突然に静かになった馬の、同じく突然の悲鳴を聞いた。
そしてそれはあたかも見えないが強烈に熱せられた指の形をしたものがヘザーの丘を通って私と火星人の間に引き寄せられ、そして砂採取場の向こうの曲がった線のすべてに沿って、暗い地面が煙を出しパチパチという音を立てているようであった。
何かが、ウォーキング駅からの道が共有地に出るところの、左側の遠くで、すさまじい音を立てて落ちた。
すぐにシューという音とブンブンいう音が消え、そして黒く、ドームのようなものがゆっくりと穴の中へ視界の外へ沈んでいった。

＜第 15 段落＞
All this had happened with such swiftness* that I had stood motionless*, dumbfounded* and dazzled* by the flashes of light.

・ swiftness→迅速さ　motionless→動かない　dumbfounded (dumbfound)→ものが言えないほど驚かせる　dazzled (dazzle)→(目を)くらませる

※ 「such A that SV」で「SV するほどの A」です。that 節はピリオドまでです。

※ and は motionless, dumbfounded, dazzled をつないでます。

Had that death swept through* a full circle, it must inevitably* have slain* me in my surprise.

・ swept through (sweep through)→通過する　inevitably→不可避的に　slain (slay-slew-slain)→殺す

※ もう 5 回目くらいの登場でしょうか、if 省略の仮定法過去完了！

（省略前の文章：If that death had swept through* a full circle, it must inevitably* have slain* me in my surprise. ）

But it passed and spared* me, and left the night (about me) suddenly dark and unfamiliar*.

・ spared (spare)→危害を与えない　unfamiliar→よく知らない

＜第 15 段落　訳＞
私が動けず、驚いて、閃光に目がくらんでままで立っていたほどの迅速さでこのすべてのことは起こった。
もし死があたりのすべてを通過していたら、私が驚く間に不可避的に私を殺していただろう。
でもそれは過ぎ去って私に危害を与えず、私のまわりに突然、よく知らず暗い夜を残した。

＜第 16 段落＞
The undulating* common seemed now dark almost to blackness, except where its roadways* lay* grey and pale under

[目次へ戻る]

the deep blue sky of the early night.

- undulating (undulate)→起伏に富む　roadways (roadway)→道路　lay (lie)→状態にある

It was dark, and suddenly void* of men.

- void→欠いている

Overhead the stars were mustering*, and (in the west) the sky was still a pale, bright, almost greenish blue.

- mustering (muster)→集まる

The tops of the pine trees and the roofs of Horsell came out sharp and black against the western afterglow*.

- afterglow→夕焼け

The Martians and their appliances* were altogether* invisible, save for* that thin mast* 〔upon which their restless* mirror wobbled*〕.

- appliances (appliance)→器具　altogether→まったく　save for→～を除いて　mast→アンテナ塔　restless→絶えず動く　wobbled (wobble)→ぐらつく

Patches of bush and isolated* trees here and there smoked and glowed* still, and the houses towards Woking station were sending* up spires* of flame into the stillness of the evening air.

- isolated (isolate)→孤立した　glowed (glow)→燃える　sending (send)→噴き出す　spires (spire)→渦巻

＜第 16 段落　訳＞
その起伏に富んだ共有地は、早朝の深い青の空の下で道路が灰色で薄い色であったのを除いて、既に暗く、ほとんど暗黒であった。
暗くて、突然人々はいなくなったのだ。
頭上の星は集まっていて、そして西の空はまだ薄い、明るい、ほとんど緑がかった青であった。
松の木の上の方とホーセルの屋根は西の夕焼けを背景に鮮明で黒かった。
火星人と彼らの器具は、絶えず動く鏡の上でぐらつくその薄いアンテナ塔を除いてまったく見えなかった。
ここにもそこにもある茂みの破片と孤立した木々は煙を出し、まだ燃えていて、そしてウォーキング駅の方への家々は炎の渦巻を夕方の空気の静寂に放出していた。

＜第 17 段落＞
Nothing was changed save for that and a terrible astonishment*.

- astonishment→驚き

The little group of black specks* (with the flag of white) had been swept out of existence*, and the stillness of the evening, 《so it seemed to me》, had scarcely been broken.

- specks (speck)→小さな点　existence→存在

＜第 17 段落　訳＞
それと、ひどい驚き以外はなにも変わらなかった。
白い旗を持った黒い点の小さな集団は、存在を一掃され、そして私には、夕方の静寂はほとんど壊されていなかったように思えた。

[目次へ戻る]

＜第 18 段落＞
It came to me 【that I was upon this dark common, helpless*, unprotected*, and alone】.

- helpless→助けがない　unprotected→無防備

※ この come は、that 以下の考えが（思い浮かんで）来たということを言っているのでしょうか。ジーニアス英和辞典に載っていないので不安ですけど。

＜第 18 段落　訳＞
私がこの暗い共有地に、助けがなく、無防備で、孤独でいるという考えが浮かんだ。

＜第 19 段落＞
Suddenly, like a thing 〈falling upon me〉 from without*, came—fear*.

- from without→外から　fear→恐怖

＜第 19 段落　訳＞
突然、外側から、私に、恐怖のようなものが襲ってきた。

＜第 20 段落＞
(With an effort) I turned and began a stumbling* run through the heather.

- stumbling→つまずく

＜第 20 段落　訳＞
がんばって、私は振り返ってつまずきながらヘザーの丘を走り出した。

＜第 21 段落＞
The fear 〔I felt〕 was no rational* fear, but a panic terror not only of the Martians, but of the dusk* and stillness all about me.

- rational→合理的な　dusk→暗がり

Such an extraordinary* effect in unmanning* me it had that I ran weeping* silently 【as a child might do】.

- extraordinary→異常な　unmanning (unman)→取り乱させる　weeping (weep)→泣く

※ such が文頭に出てる倒置かなぁと思ったんですけど SV 逆転しないといけないので、it had と普通の形になってるのは矛盾します。どうなんでしょう。

Once I had turned, I did not dare to* look back.

- dare to→あえて～する

＜第 21 段落　訳＞
私が感じた恐怖は合理的な恐怖ではなかったが、火星人だけでなく、私のまわりのすべての暗がりと静寂に対するパニックを呼ぶ恐怖であった。
それはとても私を取り乱させる特別な効果があったので、私は子供がするように静かに泣いて走った。
一度私は振り返ったが、（再び）あえて振り返ることはしなかった。

＜第 22 段落＞

[目次へ戻る]

I remember I felt an extraordinary persuasion* 【that I was being played with, that presently, 【when I was upon the very verge of* safety, this mysterious death—as swift as the passage* of light—would leap after me from the pit about the cylinder, and strike me down*】.

- persuasion→確信　be (up)on the verge of →～の寸前で（≒be on the point of）　passage→通ること　strike O down→O を苦しめる

※ safety と this の間の「,」は、I was being～safety と this mysterious death～down をつないでいるのかなぁと思います。

＜第 22 段落　訳＞
私は、安全な状態になる寸前で遊ばれていて、光が走るのと同じくらい素早い、この不思議な死が円筒のまわりの穴から私の後に飛んできて私を苦しめるという異常な確信を抱いたのを覚えている。

# VI.　THE HEAT-RAY IN THE CHOBHAM ROAD.

＜第 1 段落＞
It is still a matter of wonder 〔how the Martians* are able to slay men so swiftly and so silently〕.

- Martians (Martian)→火星人　slay→殺す

※ 某 DM とかというカードゲームにスレイヤー（slayer）ってあった気がします。今あるんですかね？
※ it—how 形式主語ですね。

Many think 【that (in some way*) they are able to generate an intense heat in a chamber* of practically* absolute non-conductivity*】.

- in some way→どうにかして　chamber→室　practically→ほとんど　non-conductivity→非伝導性

This intense heat 〔they project* in a parallel beam against any object 〔they choose〕〕, 《by means of* a polished* parabolic* mirror of unknown composition*》, much as* the parabolic mirror of a lighthouse* projects a beam of light.

- project→発射する　by means of→～という手段で　polished (polish)→磨く　parabolic→放物線状の　composition→構成物質　lighthouse→灯台　much as→同じくらいに

※ parabolic ですが、パラボラアンテナの形ですね。
※ 動詞は projects で良いでしょう。

But no one has absolutely proved these details.

However it is done, it is certain 【that a beam of heat is the essence* of the matter】.

- essence→本質

※ it—that 形式主語です。

Heat, and invisible, instead of* visible, light.

- instead of→～ではなくて

〔Whatever is combustible*〕 flashes into flame at its touch, lead* runs like water, it softens* iron, cracks* and melts glass, and when it falls upon water, incontinently* that explodes into steam.

- combustible→燃えやすい　lead→Pb　softens (soften)→軟らかくする　cracks (crack)→ヒビを入れる

[目次へ戻る]

incontinently→抑えきれずに

＜第１段落　訳＞
どうやって火星人が人々をとても素早く静かに殺せたのかは未だ不思議な問題だ。
多くの人々は、ほとんど完全に非伝導性の円筒の室の中で彼らは強烈な熱をどうにか作り出せたのだと考えている。
知られていない構成物質でできている磨かれたパラボラの鏡で、彼らが選んだどんな物に対しても平行なビームとなって、彼らが発射したこの強烈な熱は、灯台のパラボラの鏡と同じように、光のビームを放った。
でも、誰も完全にはこれらの詳細を証明できなかった。
しかしながら、それが証明されても、熱のビームが問題の本質であるということは確かだった。
見えない熱、見える領域にはない見えない光。
燃えやすいものは何でも、それに接触すると光って炎に変わり、鉛は水のように流れ、熱線は鉄を柔らかくし、ガラスにヒビを入れて溶かし、そして熱線が水の上に落ちたときには、抑えきれずに爆発して蒸気となった（※水蒸気爆発）。

＜第２段落＞
(That night) nearly forty people lay under the starlight about the pit, charred* and distorted* beyond recognition*, and (all night long) the common from Horsell to Maybury was deserted* and brightly ablaze*.

- charred (char)→黒焦げにする　distorted (distort)→ゆがめる　recognition→見分けること　deserted→荒廃した　ablaze→燃え立って

＜第２段落　訳＞
その夜、だいたい 40 人くらいの人々が穴のまわりで、星明りの下、横たわっていて、黒焦げにされて人の姿が認識できないほどゆがめられていた。一晩中、ホーセルからメイベリーにかけての共有地は荒廃していて、あかあかと燃え立っていた。

＜第３段落＞
The news of the massacre* probably reached Chobham, Woking, and Ottershaw about the same time.

- massacre→大虐殺

(In Woking) the shops had closed 【when the tragedy* happened】, and a number of people, 《shop people and so forth》, 《attracted by the stories 〔they had heard〕》, were walking over the Horsell Bridge and along the road between the hedges* 〔that runs out at last upon the common〕.

- tragedy→悲劇　hedges (hedge)→生垣

You may imagine 【the young people brushed* up after the labours* of the day, and making this novelty*, 《as they would make any novelty》, the excuse* for walking together and enjoying a trivial* flirtation*】.

- brushed (brush)→かすって通る　labours=labors (labor)→労働者　novelty→目新しい物　excuse→口実　trivial→ささいな　flirtation→一時的な興味

You may figure to yourself* the hum* of voices along the road in the gloaming*. . . .

- figure to yourself (figure to oneself)→心に描く　hum→ハミング　gloaming→黄昏時

[目次へ戻る]

＜第３段落　訳＞
大虐殺の知らせはチョブハム、ウォーキング、そしてオターショウに同じ時間に届いただろう。
ウォーキングでは、その悲劇が起きたときには店は閉まっていて、聞いた話にひき付けられた店員などのたくさんの人々はホーセル橋を渡り、最後の方は共有地に出る生垣の間の道を歩いていた。
想像しているかもしれないが、若い人たちがその日の労働者の後をかすって通り、彼らが興味を示す目新しい物と同じように、この目新しさを、一緒に歩いて些細な一時的な興味を楽しむ口実としていた。
黄昏時に道に沿って聞こえる鼻歌を心に描くかもしれない。

＜第４段落＞
As yet, 《of course》, few people in Woking even knew 【that the cylinder had opened】, though poor Henderson had sent a messenger on a bicycle to the post office with a special wire to an evening paper.

＜第４段落　訳＞
かわいそうなヘンダーソンが、夕刊に載せる特別な電報を持たせてチャリに乗せ郵便局へ使者を送ったのに、もちろんまだ、ほとんどのウォーキングの人は円筒が開いたことを知ってすらいなかった。

＜第５段落＞
【As these folks came out by twos and threes* upon the open】, they found little knots of people talking excitedly and peering at* the spinning mirror over the sand-pits, and the newcomers were, 《no doubt*》, soon infected* by the excitement* of the occasion.

- by tows and threes→ちらほら　peering at (peer at)→じっと見る(≒stare at≒gaze at)　no doubt→間違いなく　infected (infect)→影響を及ぼす　excitement→興奮

＜第５段落　訳＞
これらの人々がちらほら円筒の開くところに出てくるとき、彼らは、人々の小さな集団が、興奮して話し、穴の上で回転する鏡をじっと見ているのに気づき、新たな来訪者はすぐに間違いなくこの場の興奮に影響されていた。

＜第６段落＞
By half past eight, 《when the Deputation* was destroyed》, there may have been a crowd of three hundred people or more at this place, besides those 〔who* had left the road to approach the Martians nearer〕.

- deputation→代表団　those who=people who

There were three policemen too, 〔one of whom was mounted*, 《doing their best》, 《under instructions* from Stent》, to keep the people back and deter* them from approaching the cylinder〕.

- mounted (mount)→（馬に）乗る　instructions (instruction)→指示　deter→阻止する

※ one of whom 以下、非制限用法の関係代名詞です。
※ deter A from B で「A が B することを（怖気づかせて）妨げる」です。prevent とか keep と似てるのかな。

There was some booing* from those more thoughtless* and excitable* souls 〔to whom a crowd is always an occasion for noise and horse-play*〕.

- booing→ブーイング　thoughtless→思慮のない　excitable→興奮しやすい　horse-play→バカ騒ぎ

[目次へ戻る]

＜第 6 段落　訳＞
代表団が壊滅したときの、8 時半までに、300 人以上の群衆がこの場所にいたかもしれず、その上、道路を離れて火星人の近くに接近しようとした人々もいた。
3 人の警官もいて、そのうちの 1 人は馬に乗っていて、最善を尽くしながら、ステントからの指示に従い、人々を戻して円筒に接近するのを妨げようとした。
群衆はいつもバカ騒ぎと騒音を求め、もっと思慮がなく興奮しやすい人々からブーイングが上がった。

＜第 7 段落＞
Stent and Ogilvy, 《anticipating* some possibilities of a collision*》, had telegraphed from Horsell to the barracks* 【as soon as the Martians emerged*】, for the help of a company* of soldiers 〈to protect these strange creatures from violence*〉.

- anticipating (anticipate)→予想する　collision→衝突　barracks (barrack)→兵営　emerged (emerge)→現れる　company→一隊　violence→暴力

(After that) they returned to lead that ill-fated* advance.

- ill-fated→不運な

The description* of their death, 《as it was seen by the crowd》, tallies* very closely with my own impressions*: the three puffs of green smoke, the deep humming note*, and the flashes of flame.

- description→記述　tallies (tally)→一致する　impression→印象　note→音

※ describe の名詞が description になります。

＜第 7 段落　訳＞
地球人と火星人の衝突の可能性を予想していたステントとオギルビーは、火星人が現れるとすぐに、奇妙な生物を暴力から守るために兵士の一隊の助けを求めてホーセルから兵営に電報を打っていた。
その後、彼らは不運な出来事の進行に至るために戻った。
群衆によって見られたので、彼らの死の記述は私自身の印象ととても近く一致している。3 本の緑の煙が出て、ブーンというはっきりしない音があり、そして炎の閃光が走った。

＜第 8 段落＞
But that crowd of people had a far narrower* escape than mine.

- narrower (narrow)→狭い、制限された

※ far が narrower 比較級の強調です。

Only the fact 【that a hummock* of heathery* sand intercepted* the lower part of the Heat-Ray】 saved them.

- hummock→小山　heathery→ヒースの茂った　intercepted (intercept)→さえぎる

Had the elevation* of the parabolic mirror been a few yards higher, none could have lived to tell the tale*.

- elevation→高さ　tale→話

※ もうおなじみ、if 省略仮定法過去完了の倒置です。

They saw the flashes and the men falling and an invisible hand, 《as it were*》, lit* the bushes 【as it hurried towards them through the twilight】.

[目次へ戻る]

・ as it were→いわば（≒so to speak）　lit (light)→燃やす　bushes (bush)→茂み

Then, (with a whistling note* 〔that rose above the droning* of the pit〕), the beam swung* close over their heads, 〈lighting the tops of the beech* trees 〔that line* the road〕〉, and 〈splitting* the bricks*〉, 〈smashing* the windows〉, 〈firing the window frames〉, and 〈bringing down* (in crumbling* ruin*) a portion* of the gable* of the house nearest the corner〉.

・ whistling note→ピーピーという音　droning (drone)→ブンブンうなる　swung (swing)→弧を描くように動く　beech→ブナ（≠beach）　line→並ぶ　splitting (split)→割る　bricks (brick)→レンガ　smashing (smash)→粉砕する　bringing down (bring down)→倒す　crumbling (crumble)→滅びる　ruin→荒れ跡　portion→部分　gable→切妻

※ whistle→ホイッスルね。

＜第８段落　訳＞

でもその人々の群衆は私よりはるかに狭い逃げ道しかなかった。
ヒースの茂った砂の小山は熱線の低い部分を遮ったという事実だけが彼らを救った。
もしパラボラの鏡の高さが数ヤード高かったら、誰も生きてその話を語ることはできなかっただろう。
彼らは炎と、ステントとオギルビーが落ちていくのを見た。いわば、薄暮のなか彼らに向かって熱線が急ぐように、見えない手が茂みを燃やした。
そして、穴のブンブンうなる音の上に上がってきたピーピーという音とともに、道に並ぶブナの木のてっぺんを照らし、レンガを割り、窓を粉砕し、窓枠を燃やし、滅びた荒れ跡で最も角に近い家の切妻の部分を倒しながら、ビームは彼らの頭の上の近くを、弧を描くように走った。

＜第９段落＞

In the sudden thud*, hiss*, and glare* of the igniting* trees, the panic-stricken* crowd seems to have swayed* hesitatingly* for some moments.

・ thud→チュドーンという音　hiss→シューという音　glare→まばゆい光　igniting (ignite)→燃える　panic-stricken→狼狽した　swayed (sway)→動揺する　hesitatingly→躊躇して

Sparks and burning twigs* began to fall into the road, and single leaves like puffs of flame.

・ twigs (twig)→小枝

Hats and dresses caught* fire.

・ caught (catch)→燃えつく

Then came a crying from the common.

There were shrieks* and shouts, and suddenly a mounted policeman came galloping* through the confusion* with his hands clasped* over his head, screaming.

・ shrieks (shriek)→金切り声　galloping (gallop)→ギャロップで走る　confusion→混乱　clasped (clasp)→握りしめる

※ ギャロップってポケモンのことじゃなくて、馬の乗り方のことです。最も効率よく速く長く走れるらしい。

＜第９段落　訳＞

突然のチュドーン、シューという音と燃える木々のまばゆい光の中、狼狽した群衆はしばらく逃げることに躊躇し

[目次へ戻る]

て動揺していたように見えた。
閃光と燃える小枝が道路に落ち始め、1 枚ずつの葉っぱが炎のひと吹きのようであった。
帽子と服に火が付いた。
そして共有地から泣き声が聞こえてきた。
金切声と叫びが上がり、突然、馬にまたがった警官が頭の上で手を握り締めて叫びながら混乱の中をギャロップで走ってやってきた。

＜第 10 段落＞
“They're coming!” a woman shrieked, and incontinently everyone was turning and pushing at those behind, in order to clear their way to Woking again.

They must have bolted* as blindly as a flock of *sheep.

- bolted (bolt)→逃げ出す　a flock of→～の群れ

〔Where the road grows* narrow and black between the high banks*〕 the crowd jammed*, and a desperate struggle* occurred.

- grows→～になる　banks (bank)→土手　jammed (jam)→詰めかける　struggle→あがく

All that crowd did not escape; three persons at least,《two women and a little boy》, were crushed* and trampled* there, and left to die amid* the terror and the darkness.

- crushed (crush)→押しつぶす　trampled (trample)→踏みつける　amid→真ん中で(≒among)

※ all that があるからといって必ず関係詞になるわけじゃないです。「すべてのあの群衆」ですね。
※ all―not で部分否定。

＜第 10 段落　訳＞
「彼らが来てるのよ！」女性が金切り声を上げ、抑えきれずにみんながきびすを返して背中を押して、再びウォーキングへの道を開けようとしていた。
彼らは羊の群れと同じくらい盲目の状態で逃げ出したに違いない。
道が狭く黒くなった高い土手の間に群衆はつめかけ、必死のあがきが起こった。
あの群衆のすべてが逃れられたわけではなく、少なくとも 2 人の女性と小さな少年の 3 人はそこで押しつぶされ、踏みつけられて、恐怖と暗闇の中でほったらかしにされ死ぬこととなった。

# Ⅶ.　HOW I REACHED HOME.

＜第 1 段落＞
For my own part*, I remember nothing of my flight* (except the stress of blundering* against trees and stumbling* through the heather).

- for my own part (for one's own part)→～自身としては　flight→脱走　blundering (blunder)→つまずく　stumbling (stumble)→つまずく

※ and は blundering と stumbling をつないでます。というか「つまずく」か「つまずく」か仮名づかい結構迷いません？「おこづかい」＝「お+小+遣い」みたいに複合語を形成しているものは「づ」で、つまづくも「妻+突く」じゃないの？って思ったんですけど、どうやら現代の意味とかけ離れているときは「ず」にな

るらしいです。「稲妻（いなずま）」も元々は稲の妻だったから「いなづま」だったんですけど、今では「ず」が正式だとされています。

(All about me) gathered the invisible terrors of the Martians; that pitiless* sword of heat seemed whirling* to and fro*, flourishing* overhead 【before it descended* and smote* me out of life】.

- pitiless→無慈悲な　whirling (whirl)→ぐるぐる回る　to and fro→行ったり来たり　flourishing (flourish)→盛大である　descended (descend)→襲撃する　smote (smite)→打ち倒す

※ 「;」の前の部分、久しぶりの倒置です。

I came into the road between the crossroads* and Horsell, and ran along this to the crossroads.

- crossroads (crossroad)→十字路

＜第 1 段落　訳＞
私自身としては、木につまずいてヘザーの丘でもつまずいたことのストレスを除いては脱走のことは何も覚えていない。
私のまわりには火星人の見えない恐怖が集まっていて、あの無慈悲な熱の剣はあちこちへぐるぐる回り、襲撃して私を炎の外に打ち倒す前には強力であったように思えた。
十字路とホーセルの間の道に出て、この道を十字路の方に走った。

＜第 2 段落＞
At last I could go no further; I was exhausted with the violence of my emotion and of my flight, and I staggered* and fell by the wayside.

- staggered (stagger)→よろめく

That was near the bridge 〔that crosses the canal by the gasworks〕.

- gasworks →ガス工場

I fell and lay still.

＜第 2 段落　訳＞
とうとうこれ以上進めなくなった。私は脱走と感情の暴力に疲労困憊し、よろめいて道のそばに倒れた。
そこはガス工場の運河にかかる橋の近くであった。
倒れて、そのまま横たわっていた。

＜第 3 段落＞
I must have remained there some time.

※ sometime→いつか　some time→しばらく　sometimes→ときどき

＜第 3 段落　訳＞
私はしばらくそこにいたままだったに違いない。

＜第 4 段落＞
I sat up*, strangely perplexed*.

- sat up (sit up)→体を起こす　perplexed (perplex)→混乱させる

[目次へ戻る]

For a moment, 《perhaps》, I could not clearly understand 〔how I came there〕.

My terror had fallen from* me like a garment*.

- fallen from (fall from)→はがれ落ちる（≒fall off）　garment→衣服

My hat had gone, and my collar had burst away from its fastener*.

- collar→首飾り　fastener→留め具

A few minutes before, there had only been three real things before me—the immensity* of the night and space and nature, my own feebleness* and anguish*, and the near approach of death.

- immensity→広大さ　feebleness→疲労感　anguish→苦痛

Now it was as if something turned over*, and the point of view altered* abruptly*.

- turned over (turn over)→ひっくり返る　altered (alter)→変わる　abruptly→不意に

There was no sensible* transition* from one state* of mind to the other.

- sensible→感じられる　transition→変化　state→状態

I was immediately* the self* of every day again—a decent*, ordinary* citizen.

- immediately→すぐに　self→自分自身　decent→ちゃんとした　ordinary→一般の

The silent common, the impulse of my flight, the starting flames, were as if they had been in a dream.

※ 一瞬カンマで挟まれた挿入句かとも思いましたが、the から始まる３つのがすべて主語です（本来は the starting の前に and があるはずだけど）。そうじゃないと「were」にはなりませんし。

I asked myself had these latter* things indeed happened?

- latter→夜遅くの

※ こんなことあるのかわかりませんけど、仮定法過去完了 if 省略倒置と同じく、本来の文は I asked myself if these latter things had indeed happened.で、if 省略＆had が頭に、ということなのかなぁと思います。

I could not credit* it.

- credit→信じる

＜第４段落　訳＞

私は奇妙に混乱しながら体を起こした。
少しの間、どうやってそこに来たのかはっきりと理解できなかったのだろう。
私の恐怖は衣服のようにはがれ落ちた。
帽子はどっかに行ってしまい、首飾りは留め具が外れて壊れてしまった。
数分前、たった３つの物しか私の前にはなかった―夜と宇宙と自然の広大さ、私自身の疲労感と苦痛、そして死の近い接近である。
そして、それはあたかもひっくり返された何かのようで、不意に視野が変わった。
精神状態が別のものに変わったという感じられる変化はなかった。
私はすぐに再び毎日の自分に戻ったーちゃんとした、一般の市民だ。

[目次へ戻る]

静かな共有地、脱走の衝動、広がり始めた炎、これらはあたかも夢の中にあるようだった。
これらの夜遅くのことが実際に起こったのかどうか自問自答した。
信じられなかった。

＜第５段落＞
I rose and walked unsteadily* up the steep* incline* of the bridge.
- unsteadily→不安定に　steep→急勾配の　incline→傾斜

My mind was blank* wonder.
- blank→虚ろな

My muscles and nerves* seemed drained* of their strength.
- nerves (nerve)→神経　drained (drain)→消耗させる

※ A drain B of C で「A が C の B を消耗させる」です。

I dare say I staggered drunkenly.
- drunkenly→酔っぱらって

A head rose over the arch*, and the figure of a workman 〈carrying a basket〉 appeared.
- arch→アーチ形の道路（橋は多分アーチ状だからその上の道路）

Beside him ran a little boy.
※ 倒置ね。

He passed me, wishing me good night.
※ wish O1 O2 で「O1 に O2 を願う」。

I was minded* to speak to him, but did not.
- minded→～する気がある

※ 「～する気がある」は be minded to V なんですね。mind to V はダメなのに。

I answered his greeting with a meaningless* mumble* and went on over the bridge.
- meaningless→無意味な　mumble→はっきりしない声

＜第５段落　訳＞
私は起き上がり、不安定に橋の急勾配の傾斜を歩いた。
思考には虚ろな驚きがあった。
筋肉と神経はそれらの力で消耗していたように思えた。
あえて言うが、私は酔っぱらってよろめいていた。
頭が橋のアーチ形の道路から上がってきて、バスケットを抱えた労働者の外見が現れてきた。
彼の横には小さな少年がいた。
彼はおやすみと私に言って通り過ぎていった。
私は彼に話しかける気があったが、そうしなかった。
彼の挨拶に無意味なはっきりしない声で返事し、橋を渡り続けた。

[目次へ戻る]

＜第６段落＞
(Over the Maybury arch) a train*, 《a billowing* tumult* of white*, firelit* smoke, and a long caterpillar* of lighted windows》, went flying south—clatter*, clatter, clap*, rap*, and it had gone.

- train→行列　billowing (billow)→うねる、渦巻く　tumult→騒動　white→青白い　firelit→炎で照らされた　caterpillar→イモムシ　clatter→カタカタいう音　　clap→パリパリという音　rap→コツコツたたく音

A dim* group of people talked in the gate of one of the houses in the pretty little row* of gables* 〔that was called Oriental* Terrace*〕.

- dim→よく見えない　row→通り　gables (gable)→切妻壁　Oriental→東方　Terrace→テラス（地名の一部によく用いられる）

It was all so real and so familiar*.

- familiar→よく知っている

And that behind me!

※ 前の文と比較して、よく見知った光景に対して、自分の後ろにあるもの、つまり怖さとかを表しているんだと思います。

It was frantic*, fantastic*!

- frantic→気が狂ったような　fantastic→空想的な

Such things, I told myself, could not be.

※ can't に「はずがない」なので、could not be はさしあたり「ありえなかった」でしょうか。

＜第６段落　訳＞
メイベリーのアーチの上で、渦巻く青白い人々の騒動、炎で照らされた煙、そして明かりで照らされた窓の長い毛虫、これらの行列が南へ逃れて向かっていたーパリパリ、パリパリ、コツコツという音がして、もういなくなった。
良く見えない人々のグループがオリエンタルテラスと呼ばれる切妻壁のかわいく小さい通りの家の１つの門のところで話していた。
とても現実的で、とても見知った光景だった。
そして私の背後にあるのは恐怖、恐ろしさだ。
なんと気が狂って、空想的なことだったのだろう！
私は自分自身に、そんなものはあり得ないと言った。

＜第７段落＞
Perhaps I am a man of exceptional* moods*.

- exceptional→特別な　moods (mood)→気分

I do not know 〔how far my experience is common〕.

※ far はキョリだけじゃなくて、程度に関してでも使えます。

(At times*) I suffer from* the strangest sense of detachment* from myself and the world about me; I seem to watch it all from the outside, from somewhere inconceivably* remote, out of time, out of space, out of the stress and tragedy of

[目次へ戻る]

it all.

- at times→時には　suffer from→～に苦しむ　detachment→乖離　inconceivably→理解できないほど

※ S seems to V = it seems that S V

This feeling was very strong upon me that night.

Here was another side to my dream.

※ here is と there is ってよく出てくる割にはあんまり倒置って教えませんよね…

＜第７段落　訳＞
私は特別な気分の男なのだろう。
どのくらい私の経験が一般的かはわからない。
時には奇妙な自分自身と私を取り巻く世界との乖離の感覚に苦しむ。私は世界をまったく外側から、時間、空間、圧力と悲劇を超えた、理解できないほど離れたどこかから見ているようだ。
ここはもう１つの夢の側なのだろうか。

＜第８段落＞
But the trouble was the blank* incongruity* of this serenity* and the swift* death 〈flying yonder*〉, not two miles away.

- blank→うつろな　incongruity→不調和　serenity→落ち着き　swift→素早い　yonder→向こうに

There was a noise of business from the gasworks, and the electric lamps were all alight*.

- alight→ともっている

I stopped at the group of people.

＜第８段落　訳＞
でも、問題は、落ち着きと向こうに飛んでいった２マイルも離れていない素早い死の、虚ろな不調和であった。
ガス工場からの仕事の騒音が聞こえ、電灯はすべてともっていた。
私は人々のグループのところで立ち止まった。

＜第９段落＞
“What news from the common?” said I.

There were two men and a woman at the gate.

“Eh?” said one of the men, turning.

“What news from the common?” I said.

“Ain’t yer just been there?” asked the men.

※ ain’t は、am not とか are not とか have not とか結構汎用性が広い短縮形らしいです。今回は後ろに been があるので have not の略でしょう。yer はまあ you かなぁ。

[目次へ戻る]

“People seem fair* silly* about the common,” said the woman over the gate. “What’s it all abart?”

- fair→ちょうど、まともに　silly→バカな

※ …英語の「バカ」（名詞 or 形容詞）は silly, stupid, fool, idiot とかありますね。まだあるかな。日本語も「バカ」「アホ」とか結構あるけど。

※ 最後の abart は「about」でしょうか。

“Haven’t you heard of the men from Mars?” said I; “the creatures from Mars?”

“Quite enough,” said the woman over the gate. “Thenks”; and all three of them laughed.

※ thenks=thanks

I felt foolish and angry.

I tried and found 【I could not tell them what I had seen】.

They laughed again at my broken sentences.

“You’ll hear more yet*,” I said, and went on to my home.

- yet→いつか

＜第 9 段落　訳＞
「共有地から何か知らせを聞きました？」と私は言った。
2 人の男と 1 人の女性が門のところにいた。
「え？」と男の一人が振り向いて言った。
「共有地から何か知らせを聞きました？」と私は言った。
「そこにいってきたのかい？」と男たちは聞いてきた。
「共有地のまわりの人々はまったくバカだよ」と門の向こうの女は言った。「どんな風だったのかい？」
「火星からの人々のことを聞かなかったんですか？」と言った。「火星からの生き物ですよ？」
「もう十分」と門の向こうの女が言った。「ありがと」そして三人はみんな笑った。
私はばかばかしさと怒りを感じた。
私は頑張って、でも、見たものを彼らに伝えるのは無理だとわかった。
彼らはまた、支離滅裂な文を笑った。
「いつかもっと聞くよ」と言って、家へと歩き始めた。

＜第 10 段落＞
I startled* my wife at the doorway, so haggard* was I.

- startled (startle)→びっくりさせる　doorway→玄関　haggard→げっそりした

※ ま、倒置です。あれ、でも SVC 倒置って S 代名詞の際 CSV になるはずじゃ…　まあ前にも似たようなことあったので、1900 年ごろは使われていたんでしょうか？わかりません。

I went into the dining room, sat down, drank some wine, and 【so soon as I could collect myself* sufficiently*】I told her the things 〔I had seen〕.

- collect myself (collect oneself)→心を落ち着かせる　sufficiently→十分に

※ so soon as I could って as soon as could のことです。

[目次へ戻る]

The dinner, 《which was a cold one》, had already been served*, and remained neglected* on the table 【while I told my story】.

・ served (serve)→提供する　neglected (neglect)→放置する

※ ignore→人や助言、規則などを意図的に無視すること　overlook→不注意で気が付かない or 意図的に気が付かないふり　neglect→仕事や義務を故意または不注意でおろそかにすること　という感じ（ジーニアス英和辞典より）

＜第 10 段落　訳＞
私は玄関で奥さんをびっくりさせたので、げっそりしてしまった。
ダイニングルームに入り、座り、ワインを飲んで、十分に心を落ち着かせるとすぐに、妻に見たものを話した。
夕食は、冷たいものだったが、すでに出されていて、そして私が話している間、テーブルに放置されたままだった。

＜第 11 段落＞
“There is one thing,” I said, (to allay* the fears 〔I had aroused*〕); “they are the most sluggish* things 〔I ever saw crawl*〕.

・ allay→和らげる　aroused (arouse)→呼び起こす　sluggish→のろまな　crawl→這う

※ I ever saw crawl のとこですけど、先行詞を入れてあげると「I ever saw the most sluggish things crawl」という感じの第 5 文型になってるわけです。

They may keep the pit and kill people 〔who come near them〕, but they cannot get out of it. . . .

But the horror of them!”

・ them の後に、get out of it が省略されてますね。火星人は出てこないけど、恐怖は出てきますからね。

“Don’t, dear!” said my wife, knitting her brows* and putting her hand on mine.

・ knitting her brows (knit one’s brows)→眉をひそめる

“Poor Ogilvy!” I said. “To think he may be lying dead there!”
My wife at least did not find my experience incredible.

※ find 第 5 文型

When I saw 〔how deadly white her face was〕, I ceased abruptly.

“They may come here,” she said again and again.

I pressed her to take wine, and tried to reassure* her.

・ pressed her to take (press 人 to V)→人に V するよう迫る　reassure→安心させる

“They can scarcely move,” I said.

＜第 11 段落　訳＞
私が呼び起こした恐怖を和らげるため、「１つ言いたいことがある」と言った。「私が這ってるのを見た中では、火星人は最ものろまなやつらだぞ」

[目次へ戻る]

「彼らは穴の中にいたまんまで、近くに来た人を殺しているかもしれないけど、穴から出られないさ」
「でも彼らの恐怖は出てくるのさ！」
「やめてよ、あなたっ！」妻が、眉をひそめて私に手を置きながら言った。
「かわいそうなオギルビー！」と私は言った。「考えるに、彼はそこに死んで横たわってるんだろう！」
奥さんはぜんぜん、私の経験が信じられないものだということがわからなかったみたいだ。
彼女の顔が死んだように白くなっているのがわかったとき、唐突に話を終えた。
「彼らがここに来るかもしれないのよ」彼女は何度も言った。
私は彼女にワインを勧め、安心させようとした。
「彼らはほとんど動けないんだ」と言った。

＜第 12 段落＞
I began to comfort her and myself by repeating all 〔that Ogilvy had told me of the impossibility of the Martians establishing* themselves on the earth.

- establishing (establish)→定着する

※ all 〔that Ogilvy had told me of…ですけど、先行詞 all を戻してあげると Ogilvy had told me all of…ですね。
※ of the Martians establishing ですけど、establish の前に前置詞ついて of establishing で、主語は Ving の前に来ますから of the Martians establishing となるわけです。

In particular* I laid* stress on the gravitational* difficulty.

- in particular→特に　laid (lay)→しずめる　gravitational→重力の

(On the surface of the earth) the force of gravity is three times what it is on the surface of Mars.

A Martian, 《therefore》, would weigh* three times more than on Mars, albeit* his muscular* strength would be the same.

- weigh→重さがある　albeit→～にもかかわらず（≒though≒although）　muscular→筋肉の

His own body would be a cope* of lead to him, therefore.

- cope→覆うもの（マントとか）

That, 《indeed》, was the general opinion.

Both The Times* and the Daily Telegraph*, for instance*, insisted on* it the next morning, and both overlooked, 《just as I did》, two obvious* modifying* influences*.

- The Times、Daily Telegraph→２つとも、イギリスの**現実の**新聞。for instance=for example　insisted on (insist on)→主張する　obvious→明らかな　modifying (modify)→変える　influences (influence)→影響

＜第 12 段落　訳＞
オギルビーが私に語ってくれた、火星人が地球に定着することの不可能さを繰り返し言うことで、彼女と自分自身を安心させ始めた。
特に、重力についての難しさについてを強調した。
地球の表面において、重力の力は、火星のそれの 3 倍ある。
それゆえに、筋肉の力は同じにもかかわらず、火星人は火星上より 3 倍の重さがかかるのだ。
だから、彼ら自身の体は彼らにとって鉛のマントであったのだろう。

[目次へ戻る]

それが実に通常の意見であった。
例えばタイムズ紙とデイリーテレグラフ紙は両方、その説を翌日の朝刊で主張したし、私が見落としたようにどちらも、２つの明らかな、条件を変える影響を見落としていた。

＜第 13 段落＞
The atmosphere* of the earth, 《we now know》, contains* far more oxygen* or far less argon* (whichever* way〔one likes to put it*〕) than does Mars'.

- atmosphere→大気　contains (contain)→含む　oxygen→$O_2$　argon→Ar　whichever→どちらにせよ　put it→言う

※ whichever の前のカッコはもとからついてました。
※ 前にも言いましたけど、「as … as V S」とか「as … than V S」というような倒置がたまにあります。

The invigorating* influences of this excess* of oxygen upon the Martians indisputably* did much to counterbalance* the increased weight of their bodies.

- invigorating (invigorate)→元気を出させる　excess→過剰さ　indisputably→明白に　counterbalance→相殺する

And, in the second place, we all overlooked the fact 【that such mechanical* intelligence 【as the Martian possessed*】 was quite able to dispense with muscular exertion* at a pinch*】.

- mechanical→機械の　possessed (possess)→所持する　dispense with→なしで済ます　exertion→努力　pinch→ピンチ

※ 「努力」の英語は effort、endeavor、exertion とかですかね。ちなみにイギリス英語だと endeavour となります。

＜第 13 段落　訳＞
今我々は知っているが、地球の大気は火星よりはるかに多い酸素とはるかに少ないアルゴンを含む（人々が言うことを好むどちらの点にせよ）。
この酸素の超過という火星人にとって元気を出させる影響は、明白に、彼らの増加した体重を相殺するのに大いに役立った。
そして、2 番目に、私たちはみんな、火星人が持っているようなすごい機械の知性は実に、ピンチのときに、筋肉の努力なしで済ませられたという真実を見落としていた。

＜第 14 段落＞
But I did not consider these points at the time, and so my reasoning* was dead* against the chances of the invaders*.

- reasoning (reason)→推論する　invaders (invader)→侵入者　dead→絶対

(With wine and food, the confidence* of my own table, and the necessity* of reassuring my wife), I grew by* insensible* degrees courageous* and secure*.

- confidence→信用　necessity→必要性　grew by (grow by)→増える　insensible→意識しないで　courageous→勇敢な　secure→安全な

＜第 14 段落　訳＞
でも、これらの点はそのとき全く考えなかったので、私の推論は、侵入者に機会（があるという意見）には絶対反対だった。

[目次へ戻る]

ワインと食事と、テーブルの信用、そして奥さんを安心させる必要性があり、意識しない勇敢で安全な度合いが増していった。

＜第 15 段落＞
“They have done a foolish thing,” said I, fingering* my wineglass.

- fingering (finger)→指で触れる

“They are dangerous because, 《no doubt》, they are mad with terror.

Perhaps they expected to find no living things—certainly no intelligent living things.”

“A shell* in the pit,” said I, “if the worst comes to the worst*, will kill them all.”

- shell→砲弾　if the worst comes to the worst→最悪の場合には

※ will の前の主語ですけど、a shell in the pit ですね。

＜第 15 段落　訳＞
「彼らは愚かなことをしたもんだ」と、ワイングラスに指で触れながら言った。
「彼らはとっても恐ろしいわ。間違いなく、恐怖に気が狂っているわ」
「たぶん彼らは何も生きているものを発見しないことを予期していたー『確実に知性のある生きているものはいない』ってね。」
「穴の中に砲弾を」と言った。「最悪の場合には、それで彼らをみんな殺すんだよ」

＜第 16 段落＞
The intense excitement of the events had (no doubt) left my perceptive* powers in a state of erethism*.

- perceptive→知覚の　erethism→異常な興奮

I remember that dinner table with extraordinary vividness* even now.

- vividness→鮮やかさ

My dear wife’s sweet anxious face 〈peering at me from under the pink lamp shade〉, the white cloth* with its silver and glass table furniture—【for (in those days) even philosophical* writers had many little luxuries*】—the crimson-purple wine in my glass, are photographically* distinct*.

- cloth→テーブルクロス　philosophical→哲学の　luxuries (luxury)→高級品　photographically→写真のように　distinct→はっきりした

※ 哲学のことについて書くような人（たいてい儲からない）でさえ持ってたので、語り手の奥さんも当然、持ってたのよ、ということでしょう。この小説が書かれたときは 1898 年。1920 年には全世界の 4 分の 1 を支配することになる大英帝国が、どんどん勢力を伸ばしていっている時期です。だからイギリスの人たちは結構もうかってたんでしょうね（注：この小説はフィクションですが、先述の通り実在の新聞が出てきたり、火星の科学について当時の最新知識を使用していたり、設定はかなりリアルです）。

(At the end of it) I sat, 《tempering nuts with a cigarette*》, 《regretting Ogilvy’s rashness*》, and 《denouncing* the short-sighted* timidity* of the Martians》.

- tempering nuts with a cigarette (temper A with B)→B で A を調節する　rashness→軽率さ　denouncing (denounce)→非難する　short-sighted→先見の明がない　timidity→臆病さ

[目次へ戻る]

＜第 16 段落　訳＞
その出来事の強烈な興奮は間違いなく、異常な興奮の状態の中に知覚の力を残していった。
私は、あの食卓に今でも超越した鮮やかさがあることを覚えている。
ピンクのランプシェードの下から私を見つめる、私の愛する妻のかわいい心配した表情、銀食器が置かれた白いテーブルクロス、グラスが置かれたテーブル―当時、哲学のライターでさえたくさんの小さな高級品を持っていたー、グラスの中の深紅で紫のワイン、これらは写真のように今でもはっきりしている。
最後に、私は煙草をふかしてナッツの食べる量を調節しオギルビーの軽率さを後悔し、火星人の先見の明がない臆病さを批判しながら座った。

＜第 17 段落＞
So some respectable* dodo in the Mauritius* might have lorded* it in his nest, and discussed the arrival of that shipful* of pitiless sailors in want of* animal food.

- respectable→立派な　Mauritius→モーリシャス諸島（マダガスカル島の東の沖合）　lord→いばる　shipful→船いっぱいの　in want of→～を必要として

“We will peck* them to death tomorrow, my dear.”

- peck→つつく

※この 2 文恐ろしい皮肉です。

＜第 17 段落　訳＞
モーリシャス諸島の何匹かの立派なドードーは巣で威張って、そして動物の食べ物を必要としている、船いっぱいの冷酷な船員の到着について討論していたかもしれない。
「明日あいつらを突き殺してやるよ。妻よ。」

＜第 18 段落＞
I did not know it, but that was the last civilised* dinner 〔I was to eat for very many strange and terrible days〕.

- civilised (civilize)→文明化する

※ was to eat は be to V の「運命」用法ですね。

＜第 18 段落　訳＞
私は知らなかったが、奇妙で酷いとても長い日々の間に食べることになる食事では最後の文明的な食事だった。

# Ⅷ.　FRIDAY NIGHT.

＜第 1 段落＞
The most extraordinary thing to my mind, 《of all the strange and wonderful things 〔that happened upon that Friday〕》, was the dovetailing* of the commonplace* habits of our social order* with the first beginnings of the series of events 〔that was to topple* that social order headlong*〕.

- dovetailing（dovetail）→適合する　commonplace→平凡な　social order→社会秩序　topple→倒す　headlong→まっさかさまに

※ dovetail with で「～に適合する」

[目次へ戻る]

If (on Friday night) you had taken a pair of compasses and drawn a circle with a radius of five miles round the Woking sand-pits, I doubt* if you would have had one human being outside it, 【unless* it were some relation* of Stent or of the three or four cyclists or London people lying dead on the common】, 〔whose emotions or habits were at all affected by the new-comers〕.

- doubt→疑う　unless→～ない限り　relation→関係

Many people had heard of the cylinder, of course, and talked about it in their leisure*, but it certainly did not make the sensation* 〔that an ultimatum* to Germany would have done〕.

- leisure→暇な時間　make the (a) sensation→世間を騒がす　ultimatum→最後通牒

※ it—that 形式主語に見えますが、実際は、it=the cylinder のことで、that は sensation にかかる関係詞ですね。

＜第 1 段落　訳＞
その金曜日に起こったすべての奇妙で驚くべきことの中で、私の精神にとって最も異常なことは、社会秩序を真っ逆さまにひっくり返す一連の出来事の最初のはじまりと、私たちの社会秩序の平凡な習慣が繋がることであった。
もし金曜の夜にコンパスで円筒が落ちたウォーキングの砂採取場のまわり 5 マイルの円を描いたならば、ステントか 3，4 人のサイクリストか死んで共有地に横たわっているロンドンの人との関係がない限り、感情と習慣が新たな来訪者にすべて影響された人がその円の外にいるかどうか私は疑うだろう（※若干意訳）。
もちろん、多くの人々が円筒のことを聞いて、そして暇な時間にそのことを話していたが、確実にそれは、ドイツへの最後通牒と同じほど世間を騒がせはしなかった。

＜第 2 段落＞
(In London) (that night) poor Henderson's telegram* 〈describing the gradual* unscrewing* of the shot〉 was judged to be a canard*, and his evening paper, 《after wiring for authentication* from him and receiving no reply—the man was killed—》decided not to print a special edition.

- telegram→電報　gradual→ゆるやかな　unscrewing→回転（して抜く）　canard→虚報　authentication→証明

＜第 2 段落　訳＞
ロンドンではその夜、かわいそうなヘンダーソンの、射撃の緩やかな回転を述べた電報は虚報であると判断され、そして彼からの証明を求める電報を打ち返事が返ってこなかった後にーヘンダーソンは殺されていたー、夕刊では、号外を印刷しないことを決定した。

＜第 3 段落＞
Even (within the five-mile circle) the great majority of people were inert*.

- inert→緩慢な

I have already described the behaviour* of the men and women 〔to whom I spoke〕.

- behaviour→ふるまい

All over the district* people were dining and supping*; working men were gardening after the labours* of the day, children were being put to bed, young people were wandering* through the lanes* love-making*, students sat over their books.

- district→地区　supping (sup)→夕食を食べる　labours (labour)→労働　wandering (wander)→ぶらつく(≠

[目次へ戻る]

wondering)　lanes (lane)→小道　love-making→愛を語りあう（いや、love-making はあっちの危ない意味もあるんですけど、~~森の中ならともかく~~小道でやるとは思えないので…）

※　were being put は現在進行形+受動態ですね(^_-)-☆

＜第３段落　訳＞

その円筒から５マイル以内のところでさえ、非常に多くの人々は緩慢だった。
私はすでに話しかけた男と女のふるまいについては先ほど書いた。
その地区のすべての人々は夕食をとっていた。労働者はその日の労働の後にガーデニングにいそしみ、子供たちはベッドに寝かしつけられていて、若者たちは小道をぶらついて愛を語り合い、生徒たちは本の上に座っていた。

＜第４段落＞

Maybe there was a murmur* in the village streets, a novel* and dominant* topic in the public-houses*, and here and there a messenger, or even an eye-witness* of the later occurrences*, 〈caused a whirl of excitement, a shouting, and a running to and fro〉; but (for the most part) the daily routine of working, eating, drinking, sleeping, went on 【as it had done for countless years—as though* no planet Mars existed* in the sky】.

- murmur→（小さな）人声　novel→斬新な　dominant→優勢な　public-houses→パブ　eye-witness→目撃者　occurrences (occurrence)→出来事　as though≒as if　existed (exist)→存在する

(Even at Woking station and Horsell and Chobham) that was the case*.

※　case→実情

＜第４段落　訳＞

おそらく、村の道から人声と、パブで斬新で持ちきりだった話題が聞こえてきて、そしてあちこちに話を伝える人とか、遅くの出来事の目撃者さえもいて、興奮の渦、叫び、あちこちへ走っていくことを生じさせただろう。でも多くの部分では、幾千の歳月そうであったようにーあたかも火星という惑星が空に存在していないかのようにー労働、飲食、睡眠という日々の習慣は続いていた。
ウォーキング駅とホーセルとチョブハムでさえ、それが実情であった。

＜第５段落＞

In Woking junction*, 《until a late hour*》, trains were stopping and going on, others were shunting* on the sidings, passengers were alighting* and waiting, and everything was proceeding* in the most ordinary way.

- junction→乗換駅　a late hour→夜遅く　shunting (shunt)→（列車を別の線に）入れ替える　sidings (siding)→側線　alighting (alight)→下りる　proceeding (proceed)→進行する

A boy from the town, 《trenching* on Smith's monopoly*》, was selling papers with the afternoon's news.

- trenching (trench)→近い　monopoly→独占会社

The ringing impact of trucks, the sharp whistle of the engines from the junction, mingled* with their shouts of "Men from Mars!"

- mingled (mingle)→混ぜる

Excited men came into the station about nine o'clock with incredible tidings*, and caused no more disturbance* than drunkards* might have done.

- tidings (tiding)→知らせ　disturbance→騒ぎ　drunkards (drunkard)→大酒呑み

[目次へ戻る]

※ no more A than B で「B と同様 A でない」（≒not A any more than B）

People 〈rattling* Londonwards〉 peered into the darkness outside the carriage* windows, and saw only a rare*, flickering*, vanishing* spark dance* up from the direction of Horsell, a red glow and a thin veil* of smoke 〈driving across the stars〉, and thought 〔that nothing more serious than a heath fire was happening〕.

- rattling (rattle)→疾走する　carriage→車両　rare→珍しい　flickering (flicker)→チカチカする　vanishing (vanish)→消滅する　dance→揺れる　veil→ベール（おおい）

※ wards 付けば「～の方へ」になるんですけどまさか Londonwards が作れるとは思ってなかったです。
※ 可算名詞の fire は「火事」って意味が 1 つあります。

It was only round the edge of the common 【that any disturbance was perceptible*】.

- perceptible→認知できる

※ it―that 形式主語。

There were half a dozen villas* burning on the Woking border*.

- villas (villa)→住宅　border→へり

There were lights in all the houses on the common side of the three villages, and the people there kept awake* till dawn.

- awake→目が覚めて

＜第 5 段落　訳＞
乗換駅のウォーキングでは、夜遅くまで、電車は止まったり出発したりしていて、他の電車は側線に入っていって、乗客たちは降りて待っていて、そしてすべてのことは最も普通に進んでいた。
スミス社の近くのその町からの少年は、午後のニュースを載せた新聞を売っていた。
トラックの衝撃の音、乗換駅からのエンジンの鋭いビューという音は、「火星からの人々！」という叫び声に混ざっていた。
興奮した人々は 9 時ごろに信じられない知らせとともに駅に入ってきたが、大酒呑みと同様に騒ぎを引き起こさなかった。
ロンドンへ電車で移動する人々は客車の窓の外の暗闇を見つめていた。そして彼らは、珍しく、チカチカして、消滅する閃光がホーセルの方向から揺れているのと、星を横切る赤い輝きと細い煙のベールだけを見ていて、ヒースの火災より深刻なことは起こっていないと思った。
どんな騒動も認知できたのは共有地の端のまわりに過ぎなかった。
6 軒ほどの住宅がウォーキングのへりで燃えていた。
３つの村の共有地の側ではすべての家の光がともっていて、そこの人々は夜明けまで目が覚めたまんまだった。

＜第 6 段落＞
A curious crowd lingered* restlessly*, people coming and going but the crowd remaining, both on the Chobham and Horsell bridges.

- lingered (linger)→いつまでもいる　restlessly→落ち着きなく

One or two adventurous* souls, 《it was afterwards found》, went into the darkness and crawled* quite near the Martians; but they never returned, (for now and again) a light-ray, (like the beam of a warship's searchlight) swept the common, and the Heat-Ray was ready to follow*.

- adventurous→冒険好きな　crawl→のろのろ進む　follow→引き続き起こる

[目次へ戻る]

Save for* such, that big area of common was silent and desolate*, and the charred bodies lay about* on it all night under the stars, and all the next day.

- save for→～を除いて（文語表現）（≒except for）　desolate→荒れ果てた　lay about (lie about)→散らかっている

A noise of hammering* from the pit was heard by many people.

- hammering (hammer)→ハンマーで打つ

＜第６段落　訳＞
好奇心旺盛な群衆は落ち着きなくいつまでもそこにいて、人々は来たり行ったりしていたが、その群衆はチョブハムとホーセル橋の両方にとどまったままだった。
あとで見つかったが、１、２人の冒険好きな人は、暗闇に入っていき火星人の実に近くまでのろのろ進んでいった。
でも彼らは二度と戻らず、今、また、戦艦のサーチライトのビームのような光線が共有地を一掃し、そして熱線は引き続き放たれる用意をしていた。
そんなものを除いては、あの大きな共有地の地域は静かで荒れ果てていて、そして黒焦げにされた体が一晩中星々の下で、そして次の日も一日中、共有地のあちこちに横たわっていた。
穴からのハンマーで打つノイズは多くの人々に聞かれた。

＜第７段落＞
So you have the state of things* on Friday night.

- state of things→状態

In the centre, 《sticking into the skin of our old planet Earth like a poisoned dart*》, was this cylinder.

- poisoned dart→毒矢

※　見にくいですが倒置です。

But the poison was scarcely working yet.

(Around it) was a patch* of silent common, smouldering* in places*, and with a few dark, dimly* seen objects lying in contorted* attitudes* here and there.

- patch→土地　smouldering（smoulder)→くすぶる　in places→ところどころ　dimly→ぼんやりと　contorted (contort)→ねじ曲がった　attitude→姿勢

(Here and there) was a burning bush or tree.

※　なんか here is 構文と there is 構文の合体したような感じ。いや、結局倒置だけど。

(Beyond) was a fringe* of excitement, and (farther* than that fringe) the inflammation* had not crept* as yet.

- fringe→周辺部　farther→far（遠い）比較級　inflammation→燃焼　crept (creep)→近づく

(In the rest of the world*) the stream of life still flowed* 【as it had flowed for immemorial* years】.

- in the rest of the world→世界のその他の地域では　flowed (flow)→（流れるように）過ぎる　immemorial→太古からの

※　im+memorial→immemorial ですね。im は否定の意味です。「覚えていられないほど」ということで「太古

[目次へ戻る]

からの」という意味になります。

The fever of war 〔that would presently* clog* vein* and artery*, deaden* nerve and destroy brain〕, had still to develop.

- presently→まもなく　clog→ふさぐ　vein→静脈　artery→動脈　deaden→無感覚にする

※ and は clog, deaden, destroy をつないでます。

＜第 7 段落　訳＞
ということで、金曜の夜はそういう状態だった。
真ん中では、この円筒が、年老いた地球という惑星の肌に毒矢のように刺さっていた。
でもその毒はまだほとんど役に立っていなかった。
その周りには、ところどころで煙がくすぶっていて、そして少し暗く、ぼんやりと見られる物体がねじ曲がった姿勢で横たわりながらあちこちにある、静かな共有地の土地があった。
あちこちに、燃えている茂みや木があった。
それを超えたところに、興奮の境界があり、そしてその周辺部からさらに遠く離れたところでは、その燃焼はまだ近づいていなかった。
世界のその他の地域では、太古からずっと流れていたように、命の流れはまだ脈々と続いていた。
まもなく静脈と動脈をふさぎ、神経を無感覚にし、脳を破壊する戦争の熱が出てくるには、まだ発展しなければならなかった。

＜第 8 段落＞
(All night long) the Martians were hammering and stirring*, sleepless, indefatigable*, at work upon the machines 〔they were making ready〕, and ever and again* a puff of greenish-white smoke whirled up to the starlit sky.

- stirring (stir)→起きる　indefatigable→疲れない　ever and again→ときどき

＜第 8 段落　訳＞
夜の間ずっと、火星人はハンマーで打つ音を出し、起きていて、寝ずに、疲れずに、彼らが準備していた機械を組み立てる仕事をしていて、そしてときどき、一筋の緑がかった白い煙が星で照らされた空に巻き上がっていった。

＜第 9 段落＞
(About eleven) a company of soldiers came through Horsell, and deployed* along the edge of the common to form a cordon*.

- deployed (deploy)→展開する　cordon→非常線

Later a second company marched* through Chobham to deploy on the north side of the common.

- marched (march)→進軍する

Several officers* from the Inkerman barracks had been on the common earlier in the day, and one, 《Major* Eden》, was reported to be* missing.

- officers (officer)→将校　Major→少佐　was reported to be (be reported to V)→V したと伝えられている

The colonel* of the regiment* came to the Chobham bridge and was busy questioning the crowd at midnight.

- colonel→大佐　regiment→連隊

※ busy Ving「V することに忙しい」

[目次へ戻る]

The military authorities* were certainly alive to* the seriousness of the business*.

- authorities (authority)→当局　alive to→敏感で　business→事柄

About eleven, the next morning's papers were able to say, 【a squadron* of hussars*, two Maxims*, and about four hundred men of the Cardigan regiment started from Aldershot】.

- squadron→騎兵大隊　hussars (hussar)→軽騎兵　Maxims (Maxim)→マキシム機関銃（この小説が書かれた1900年ごろ、アフリカなどの植民地戦争でとてつもない火力を出していた最新最強の機関銃）

※ Cardigan は「カーディガン」ですけど、イギリスの地名です。いま火星人がいる Woking との位置関係を示しておきます（Google Map）。徒歩で約 3 日。ガチって 2 日。結構遠いですね。~~移動してる間にロンドン荒らされそう~~

＜第 9 段落　訳＞

11 時ごろ、兵士の一隊がホーセルを通ってやってきて、共有地の端に沿って展開し、非常線を張った。
その後、第二の隊がチョブハムを通って進軍してきて、共有地の北側に展開した。
インケルマンの兵営からの何人かの将校がその日の早くに共有地にいて、そしてエデン少佐はいなくなったと伝えられている。
連隊の大佐がチョブハム橋に来て、深夜でも群衆に質問するのに忙しそうにしていた。
軍隊当局は確かにこの事柄の深刻さに敏感であった。
11 時ごろでは、軽騎兵大隊、マキシム機関銃 2 挺、そして約 400 人のカーディガンの連隊がオールダーショットから出発していたということが、翌日の朝刊に書けたことだった。

＜第 10 段落＞

(A few seconds after midnight) the crowd in the Chertsey road, Woking, saw a star fall from heaven into the pine woods to the northwest.

It had a greenish colour, and caused a silent brightness like summer lightning.

This was the second cylinder.

＜第 10 段落　訳＞

夜 12 時を過ぎて数秒で、チャーツィー道とウォーキングの群衆は、星が天から北西の松の木の中に落ちてくるのを見た。
緑がかった色をしていて、夏の稲光のように静かな輝きを放っていた。
これが、2 番目の円筒であった。

[目次へ戻る]

# IX.　THE FIGHTING BEGINS.

＜第１段落＞

Saturday lives in my memory as a day of suspense*.

- suspense→サスペンス

※　Saturday が主語の無生物主語です。

It was a day of lassitude* too, hot and close*, with, 《I am told》, a rapidly* fluctuating* barometer*.

- lassitude→倦怠　close→重苦しい　rapidly→速く　fluctuating（fluctuate）→上下する　barometer→バロメーター

I had slept but little, though my wife had succeeded in sleeping, and I rose early.

I went into my garden before breakfast and stood listening, but (towards the common) there was nothing stirring* but a lark*.

- stirring（stir）→動く　lark→ヒバリ

＜第１段落　訳＞

土曜日は、はらはらした日として私の記憶に残る。
暑くて重苦しく、倦怠感があった日でもあった。激しくバロメーターが上下していたと言われる。
妻は寝ることができたが、私は少ししか寝られず、早く起きた。
朝食前に庭に出て、立って耳を傾けていたが、共有地の方へはヒバリ以外何も動くものはない。

＜第２段落＞

The milkman* came as usual*.

- milkman→牛乳配達員　as usual→ いつも通りに

I heard the rattle* of his chariot* and I went round to the side gate to ask the latest news.

- rattle→おしゃべり　chariot→四輪軽馬車

He told me 【that (during the night) the Martians had been surrounded by troops*】, and 【that guns were expected】.

- troops→軍隊

※　and がつなぐものは that と that ですね。

Then《—a familiar*, reassuring* note*—》I heard a train 〈running towards Woking〉.

- familiar→よく知っている　reassuring（reassure）→安心させる　note→音

“They aren’t to be killed,” said the milkman, “if that can possibly* be avoided.”

- possibly→できる限り

＜第２段落　訳＞

牛乳配達員はいつも通り来た。
彼の四輪軽馬車のことについてのおしゃべりを聞き、最新のニュースを尋ねるために横の門に回って行った。
彼は、夜の間に火星人が軍隊に囲まれ、銃も用意されたと私に言った。

[目次へ戻る]

そして―よく知っていて、安心させる音―ウォーキングへ走る電車の音を聞いた。
「火星人は殺されないだろうね」と牛乳配達員は言った。「殺すのはできる限り避けられるだろうよ」

＜第３段落＞
I saw my neighbour* gardening, 〈chatted with him for a time〉, and then strolled* in to breakfast.

- neighbour（英）=neighbor（米）→近所の人　strolled（stroll）→ぶらつく

It was a most unexceptional* morning.

- unexceptional=un+except+ion+al（ない+除く+こと+の）→普通の

※ おいテメーなんで最上級なのに a がついてるんだよとおっしゃる方もいらっしゃると存じますが、most が very の意味で用いられるときは a がつきます。絶対最上級という強そうな名前がついてます。
なお、ふつうなら hot-hotter-hottest のように 1 音節の単語は最上級にするとき most ではなく est をつけますが、この絶対最上級の場合、very と同じ意味になりますので、Today is a most hot day.のように est はつけません。

※ ついでに最上級で the がつかないもう一つのパターンにも触れておきます。the というのはそもそも冠詞であり、the book みたいに名詞を修飾するものです。したがって、叙述用法（＝主語とイコールになる用法で、直後に名詞が来ない）など、形容詞の直後に名詞が来ない場合の最上級には the は普通つきません。
例えば、「This book is interesting」を最上級にしたいときは「This book is most interesting」とするということです。

My neighbour was of opinion 【that the troops would be able to capture* or to destroy the Martians during the day】.

- capture→とらえる

※ be of という表現はセンター試験なんかでもちょっと見たことありますが、「be of～」で「～の状態にある」「～となる」みたいな感じです。
例えば「This information is of importance」＝「This information is important」＝「この情報は大事だ」です。
ということで「be of opinion that～」は「～という意見の状態にある」即ち「～という意見を持っている」という意味になります。たぶん熟語で覚えろとかって言われるかも。

※ ついでに言っておくなら、この opinion that の that は同格の that といって、opinion の内容を that 以下が説明する形になっています。なお同格の that を取れる名詞は、news とか opinion とか idea とか、なんか内容が知りたいよーみたいな名詞に限られますから濫用は危ないです。

“It’s a pity 【they make themselves so unapproachable*】,” he said.

- unapproachable＝un+approach+able（ない+到達する+できる）→無敵な

※ that が抜けてるので分かりにくいですが、they 以下が that 節になって、it―that 形式主語になってます。

“It would be curious* to know 〔how they live on another planet〕; we might learn a thing or two.”

- curious→好奇心をそそられる

※ it―to 形式主語はおなじみ。

＜第３段落　訳＞
私は近所の人が園芸をしているのを見て、しばらくおしゃべりをして、そして朝食を食べにぶらついて帰った。
とても普通の朝だった。
私の近所の人は、軍隊が一日の間に火星人を捕らえるか殺戮するかできるだろうという意見を持っていた。

[目次へ戻る]

「彼らがまったく無敵なのは哀れなことだ」彼は言った。
「他の惑星で火星人がどのように生きているのかは好奇心をそそられるし、１つや２つは学べるかもしれない。」

＜第４段落＞
He came up to the fence and extended* a handful of* strawberries, 【for his gardening was as generous* as it was enthusiastic*】.

- extended（extend）→広げる　a handful of→手いっぱいに　generous→惜しまず　enthusiastic→熱狂的な
- ※ extend とかの ex ですけど、「外に」っていう意味があります。ex+it=exit（出口）とかがわかりやすいかもです。

(At the same time) he told me of* the burning of the pine woods 〈about* the Byfleet Golf Links〉.

- tell 人 of～→人に～を伝える　about→周りの
- ※ tell 人 about はよく見ますけど of は初めて見ました。違いとしては、think of と think about の違いとほぼ同じです。of は「～の」で、about はこの文にある通り「周りに」です。したがって、about の方が of より漠然とした感じや周辺状況も含めて、と言った感じです。
- ※ 参考までに、speak ill/well of→～の悪口を言う/ほめる

“They say,” said he, “【that there’s another of those blessed* things fallen there—number two】. But one’s enough, surely. This lot’ll cost the insurance* people a pretty* penny* 【before everything’s settled*】.”

- blessed →いまいましい　lot’ll=lot(やつ）will　insurance→保険　pretty→たくさんの　penny→金銭　settled（settle）→決定する
- ※ bless って本来は「God Bless You」（くしゃみをした人に言うセリフ。「神の加護があらんことを」）みたいにめでたい表現なんですけど、なんか逆張り厨によって反対の意味もできちゃったみたいです。

He laughed with an air of the greatest good humour* 【as he said this】.

- humour→気分

The woods, 《he said》, were still burning, and pointed out a haze* of smoke to me.

- haze→もや

“They will be hot under foot for days, on account of the thick* soil* of pine needles* and turf*,” he said, and then grew serious over “poor Ogilvy.”

- thick→厚い　soil→土　needles（needle）→マツなどの、針のような葉　turf→芝
- ※ 絶対に見ることないと思ってた on account of 出てきてちょっと感動した（due to, because of はよく見るじゃないですか。あと owing to だけですね）
- ※ grow C で「C になる」です。over は覆う状態を表す（She proposed to him over dinner.「彼女は夕食中に彼にプロポーズした」）ので、「かわいそうなオギルビー」との声とともに「真剣になった」ということでしょう。

＜第４段落　訳＞
彼はフェンスのところに来て、イチゴを手いっぱいに広げた、というのも、彼は園芸を熱狂的なほど惜しみなくやっていたからだ。
同じとき、彼は私に、バイフリートゴルフ場のまわりの松の木が燃えていることを伝えた。
「彼らは言ってるぜ」彼は言った。「もう一つのいまいましい物体がそこに落ちたって。—2 番目だ。でも一つで

[目次へ戻る]

十分だよ、絶対。このやつはすべてが決められる前に保険屋にたくさんの金銭を払わせるんだからな。」
彼はこれを言いながらたいへん上機嫌で笑った。
彼が言った木々はまだ燃えていた。そして煙のもやが私に向けられた。
「マツの葉と芝の厚い土のせいで、彼らは足元が数日間暑いはずだ」と彼は言って、そして「かわいそうなオギルビー」との声とともに真剣になった。

＜第 5 段落＞
After breakfast, 《instead of working》, I decided to walk down towards the common.

(Under the railway bridge) I found a group of soldiers—sappers*, 《I think》, men in small round caps, dirty red jackets unbuttoned*, and showing their blue shirts, dark trousers, and boots 〈coming to the calf*〉.

- sappers（sapper）→工作隊員　unbuttoned＝un+buttoned→ボタンが外れた　calf→ふくらはぎ

※ 「I like people 〈good at English〉.」みたいに、形容詞句・副詞句が 2 語以上になると「後置修飾」（＝修飾される語の後ろにおく）の形をとりますが、1 語なら普通は「前置修飾」なんですよ。でもこの unbuttoned って後置修飾です。この場合の後置修飾の理由は「一時的だから」です。1 語後置修飾の場合、一時的な状態を示します。もし「unbuttoned jackets」だったら、いつもボタンがない（なくした）ジャケットを着ているということになりますが、この場合は暑くて一時的にボタンをはずしているだけなので後置修飾となります。
まあ、「This is the worst scenario imaginable」みたいに 1 語の後置修飾パターンは他にもあるようですが。（これを先生に聞いたら「which is imaginable」の which is が省略されたためだそうです）

They told me 【no one was allowed over the canal】, and, 《looking along the road towards the bridge》, I saw one of the Cardigan men standing sentinel* there.

- sentinel→歩兵

※ Cardigan men って書いてますけど、べつにカーディガンを着てる人じゃなくて、8 章で出てきたカーディガン（地名）からやって来た兵隊さんです。

I talked with these soldiers for a time; I told them of my sight* of the Martians on the previous evening.

- sight→光景

None of them had seen the Martians, and they had but the vaguest* ideas of them, so that they plied* me with questions.

- vaguest（vague）→あいまいな　plied（ply）→浴びせる

※ but は副詞で使うときに only みたいな意味もあるので、they had but＝they had only みたいな意味です。

They said 【that they did not know who had authorised* the movements of the troops】; their idea was 【that a dispute* had arisen at the Horse Guards】.

- authorised（authorise）→権限がある　dispute→論争

※ Horse Guards っていうのはここにやってきてる近衛連隊のことです。

The ordinary sapper is a great deal* better educated* than the common soldier, and they discussed the peculiar conditions of the possible fight with some acuteness*.

- a great deal→とても（強意の働き）　educated（educate）→教育する　acuteness＝acute+ness→鋭さ

[目次へ戻る]

I described the Heat-Ray to them, and they began to argue among themselves.

＜第５段落　訳＞
朝食後、仕事の代わりに、共有地へ歩いてみることを決めた。
鉄道橋の下で、私は兵士の集団を見つけた―私が思うに、工作隊員の男たちだった。小さな丸い帽子をかぶっていて、ボタンが外れた汚れた赤いジャケットを着ていて、青いシャツ、黒いズボン、ふくらはぎまで達するブーツが見えた。
彼らは私に、誰も運河を渡ることは許されないと言った。橋への道に沿って眺めると、そこで歩兵を立たせているカーディガンからの一人の男が見えた。
私はこれらの兵士としばらく話した。私は彼らに、前夜の火星人の光景を話した。
彼らの誰も火星人を見たことがなく、曖昧な考え以外持っていなかったので、私に質問を浴びせた。
彼らは、軍を誰が権限を持って動かすのか知らないことを言った。彼らの考えは、論争が近衛連隊で発生しているというものだった。
通常の工作隊員はふつうの兵士よりもとても良い教育を施されていて、彼らは鋭さを持って、ありうる戦いの独特の状況を議論した。
私は彼らに熱線のことを述べ、彼らは自分たちで議論を始めた。

＜第６段落＞
“Crawl* up under cover and rush* ’em, say I,” said one.

- crawl→はう　rush→突撃する

“Get aht!” said another. “What’s cover against this ’ere ’eat? Sticks to cook yer*!〔What we got to do〕 is to go as near as the ground’ll let us, and then drive* a trench*.”

- drive→掘る　trench→溝
- ※ 省略語多すぎてわけわかめ。aht→out　’eat→heat　yer=yeah　ground’ll→ground will かな。’ere は候補が多すぎてわからないのよね…。
- ※ get out は「出ていけ！」だけど「馬鹿な」という意味もあるようです。
- ※ get to V には「V するようになる」の意味のほかに「V できる」という意味もあります。

“Blow yer trenches! You always want trenches; you ought to ha’ been born a rabbit Snippy.”

- ※ should have PP≒ought to have PP
- Snippy ってなんで大文字になってるんですかね。「ぶっきらぼうな」っていう意味らしいんですが、意味が通らないし大文字になってるので、Man?みたいな間投詞としてとらえておきます。

“Ain’t they got any necks, then?” said a third, abruptly*—a little, contemplative*, dark man, smoking a pipe.

- abruptly→不意に　contemplative→瞑想にふける
- ※ ain’t っていう表現がありますが、am not、are not、is not、have not、has not の短縮形です。ここでは Have not の短縮形でしょうか（直後に got があるため。have got≒have）

I repeated my description.

“Octopuses*,” said he, “that’s what I calls ’em. Talk about fishers of men—fighters of fish it is this time!”

- octopuses（octopus）→タコ
- ※ ’em＝them。これはわかりやすい

[目次へ戻る]

“It ain’t no murder* killing beasts like that,” said the first speaker.

- murder→殺人

※ この ain’t は is not でしょうね。

※ it―Ving 形式主語！

“Why not shell* the darned* things strite off and finish ’em?” said the little dark man. “You carn tell what they might do.”

- shell→砲撃する　darned＝damned→地獄行きの

※ why not V =why don’t S V ですね。

※ carn＝cannot

※ これセリフだから、strite とかって 1900 年頃のイギリスの方言のようなものだと思うけど、調べても全然わからないみょん…

“Where’s your shells*?” said the first speaker. “There ain’t no time. Do it in a rush, that’s my tip*, and do it at once.”

- shells（shell）→砲弾　tip→助言

So they discussed it.

(After a while) I left them, and went on to the railway station to get as many morning papers as I could.

＜第 6 段落　訳＞

「覆いの下を這って行って突撃すると良いと思う」と誰かが言った。

「馬鹿な」と他の人が言った。「この熱に耐えられる覆いは何だ？　あるはずない。くっついて焼かれてしまうだろ！　私たちができることは地面が私たちに行かせるくらいに近くに行くことで、そして溝を掘ることだよ。」

「溝は吹き飛ぶだろうよ！テメーはいつも溝を掘ろうとする、お前はぶっきらぼうなウサギの子に生まれるべきだったな、え？」

「ところで彼らに首はあるのかい？」と 3 人目がふいに聞いたー小さく、瞑想にふける黒い男でパイプをふかしていた。

私は説明を繰り返した。

「タコ」と彼は言った、「そう私は彼らを呼ぶ。釣り人については話すが― 人と戦う魚、今回はそれだ」

「そんな獣を殺しても殺人ではないな」と最初に話した人が言った。

「なんであの地獄行きのやつらを砲撃しておしまいにしないんだね？」と小さな黒い男が言った。「あいつらが何をするかわからないだろ」

「砲弾はどこだ？」と最初の男が言った。「時間がない。急いで、今すぐにやれ、それが俺の助言だ」

そして彼らは話し合いはじめた。

しばらくして私は彼らのもとを去り、できる限りの朝刊を手に入れるために鉄道の駅の方に向かった。

＜第 7 段落＞

But I will not weary* the reader* with a description of that long morning and of the longer afternoon.

- weary→退屈させる　reader→読者

※ and は of that long morning と of the longer afternoon を繋いでるわけです。

I did not succeed in getting a glimpse* of the common, 【for even Horsell and Chobham church towers were in the

[目次へ戻る]

hands of the military authorities】.

・ glimpse→一見

※ glance と glimpse はほとんど一緒です。用いられる前置詞と動詞が若干異なるようですけど。

The soldiers 〔I addressed*〕 didn't know anything; the officers were mysterious as well as busy.

・ addressed（address）→話しかける

I found people (in the town quite secure* again in the presence* of the military), and I heard (for the first time) (from Marshall), 《the tobacconist*》, 【that his son was among the dead on the common】.

・ secure→安全な　presence→駐留　tobacconist→タバコ屋

※ the dead＝dead people

The soldiers had made the people (on the outskirts* of Horsell) lock up and leave their houses.

・ outskirts（outskirt）→郊外

※ make O V です。V が lock up と leave。

＜第 7 段落　訳＞

でも私は、あの長い朝と長い午後の記述で読者を退屈させるつもりはない。

私は共有地を見ることには失敗した、というのも、ホーセルやチョブハムの教会の塔でさえ軍の指揮に入っていたからだ。

私が話しかけた兵隊は何も知らなかった。警官は忙しさと同じくらい不思議だった。

私は軍の駐留で再びまったく安全になった町の中で人々を見つけた。そして最初にマーシェルからのタバコ屋から、彼の息子が共有地の死体の中にいるということを聞いた。

兵士は人々をホーセルの郊外に締め出し彼らの家から追いやった。

＜第 8 段落＞

I got back to lunch about two, very tired 【for, 《as I have said》, the day was extremely hot and dull*】; and (in order to refresh myself) I took a cold bath in the afternoon.

・ dull→どんよりした

(About half past four) I went up to the railway station to get an evening paper, 【for the morning papers had contained* only a very inaccurate* description of the killing of Stent, Henderson, Ogilvy, and the others】.

・ contained（contain）→含む　inaccurate＝in+accurate→不正確な

※ for（等位接続詞）（というのは～だからだ）ってテストとかでは全然見ないですけどこの「宇宙戦争」ではよく見ますね。2 文連続で出てきてます。

※ ここでも、Stent（王立天文台の人）、Henderson（ジャーナリスト）、Ogilvy（語り手の友人、天文学者）という序盤の主要登場人物が既に亡くなってることが示されてるわけです。というか名前が出てる登場人物はみんな死んでます。

But there was little 【I didn't know】.

※ little→ほとんどない　a little→少し

The Martians did not show an inch of themselves.

※ not show an inch of themselves って 「俺は本当の実力を一ミリも出してないぜ」って僕たちが普段言うの

[目次へ戻る]

と同じですね。

They seemed busy in their pit, and there was a sound of hammering* and an almost continuous* streamer* of smoke.

- hammering（hammer）→ハンマーでたたく　continuous→途切れない　streamer→流れ

Apparently* they were busy getting ready for a struggle*.

- apparently→どうも　struggle→戦闘

※ apparently=appear+rent+ly（現れる+形容詞+副詞）という成り立ちですが、appear と apparently では app の後の綴りが ear か are かで異なりますので、ご注意をば。

“Fresh* attempts* have been made to signal, but without success,” was the stereotyped* formula* of the papers.

- fresh→新しい　attempts（attempt）→試み　stereotyped→ステレオタイプの　formula→決まり文句

※ ダブルクオーテーション内を能動態に戻すと「They have made fresh attempts to signal」で、make は使役動詞なので make O to V は取れません。従って to signal っていうのは C に当たる部分ではなくて、ただ単に不定詞の目的用法として使われてるんだなぁとわかります。

A sapper told me 【it was done by a man in a ditch* with a flag on a long pole】.

- ditch→溝

The Martians took as much notice* of such advances as we should of the lowing of a cow*.

- take notice→注目する　the lowing of a cow→牛の鳴き声

※ should of ってなんじゃらほいと思うかもしれませんが、単に should と of の間に take notice があって繰り返しを避けるために省略されてるだけです。

＜第８段落　訳＞

2 時ごろに私は昼食からとても疲れて戻ってきた。というのは、すでに言ったように、その日は極端に暑くてどんよりしていたからだ。そして私はリフレッシュするために午後に水風呂に入った。

4 時半ごろ、鉄道の駅に夕刊を手に入れに行った。朝刊はステント、ヘンダーソン、オギルビーやその他の人が殺されたことについてとても不正確な記述しかなかったからだ。

でも、私が知らなかったことはほとんどなかった。

火星人はその力を１インチも出していない。

彼らは穴の中でとても忙しそうに見えた。そしてハンマーの音とほとんど途切れない煙の流れが出ていた。

どうも、彼らは戦闘の用意に忙しいようだった。

「信号を送るための新しい試みは行われ続けていますが、成功はありません」というのが新聞のステレオタイプの決まり文句だった。

工作隊員は私に、溝から長い棒の旗を揚げて、男によって試みが行われたと言った。

火星人は我々が牛の鳴き声に注目するのと同じくらい交渉の進捗に注目していた（ほとんど注目してなかった）。

＜第９段落＞

I must confess* 【the sight of all this armament*, all this preparation, greatly excited me】.

- confess→告白する　armament＝army+ment→軍隊

My imagination became belligerent*, and defeated the invaders in a dozen striking* ways; something of my schoolboy*

[目次へ戻る]

dreams of battle and heroism* came back.

- belligerent→交戦中の　striking（strike）→攻撃する　schoolboy→生徒　heroism=hero+ism→英雄的行為

※ ほら、学校にテロリストが入ってきてそれを撃退したりとか、学校で戦争が起こる妄想って昔しましたよね（僕はやってた）？これって 19 世紀末から変わんないんですね。

It hardly seemed a fair fight to me at that time.

They seemed very helpless in that pit of theirs.

＜第 9 段落＞
私はこのすべての軍隊の光景、準備がとても自分を興奮させたことを告白せねばならない。
私の想像は交戦中を思い描いて、そして侵略者を 1 ダースもの攻撃方法で打ち負かした。生徒のころ夢見た、戦いと英雄行為の夢のような何かが戻ってきた。
それはそのとき、私にとってほとんど公平な戦いには見えなかった。
彼らはあの穴の中でとても助けがないように思えた。

＜第 10 段落＞
(About three o'clock) there began the thud* of a gun at measured* intervals* from Chertsey or Addlestone.

- thud→チュドーンっていう音　measured（measure）→測定する　intervals（interval）→間隔

I learned 【that the smouldering* pine wood 〔into which the second cylinder had fallen〕 was being shelled, (in the hope of destroying that object 【before it opened】)】.

- smoulder（英）＝smolder（米）→くすぶる

It was only about five, 《however》, that a field gun* reached Chobham for use against the first body of Martians.

- filed gun→野砲

＜第 10 段落　訳＞
3 時ごろ、銃のチュドーンという音が決まった間隔でチャーツィーやアドレストンの方から始まっていた。
私は、2 番目の円筒が中に落ちたくすぶる松の木が、それが開く前にその物体を破壊できるという望みの中で、砲撃されているのを知った。
まだ 5 時近くだったが、野砲は火星人の最初の体を攻撃するためにチョブハムに着いた。

＜第 11 段落＞
(About six in the evening), 【as I sat at tea with my wife in the summerhouse* 〈talking vigorously* about the battle 〔that was lowering* upon us〕〉】, I heard a muffled* detonation* from the common, and immediately after a gust* of firing.

- summerhouse→東屋　vigorously→元気よく　lowering→今にも降りそうな　muffled（muffle）→鈍くする　detonation→爆発音　gust→どっと燃え上がる炎

※ and は from the common と after a gust of firing をつないでます。

(Close on* the heels* of that) came a violent rattling* crash, 《quite close to us》, 〔that shook the ground〕; and, 《starting out upon the lawn*》, I saw the tops of the trees (about the Oriental College) burst into smoky red flame*, and the tower of the little church beside it slide down into ruin*.

[目次へ戻る]

- close on→～に続いて　heels（heel）→末端　rattling（rattle）→ガタガタいう　lawn→芝生　flame→炎（参考：frame＝骨組み）
  ruin→壊滅

※ 倒置久しぶりですね。

※ into が 2 回使われてますが、into の基本イメージ「変化」を押さえておけばいいと思います。

※ Oriental College は 1884～1899 年に実在した大学らしいです。まさに Oriental＝東方＝東洋のことを研究していたようです。ちなみにこの大学の隣にモスクがありましたが（下の文章）、このモスクは現存してます。

The pinnacle* of the mosque* had vanished, and the roof line of the college itself looked 【as if a hundred-ton gun had been at work upon it】.

- pinnacle→尖塔（ミナレット）　mosque→モスク

One of our chimneys* cracked* 【as if a shot had hit it】, flew, and a piece of it came clattering* down the tiles and made a heap of broken red fragments upon the flower bed by my study window.

- chimneys（chimney）→煙突　cracked（crack）→ひびが入る　clattering（clatter）→騒々しく鳴って

＜第 11 段落　訳＞
夕方 6 時頃、東屋で妻とお茶の席について、今にも自分たちに降りかかりそうな戦いについて元気よく話していたときに、共有地の方から鈍い爆発音が聞こえ、すぐ後に炎がどっと燃え上がるのが聞こえた。
その終わりかけに続いて、私たちのとても近くで起こった、乱暴にガタガタ鳴って地面を揺らす轟音が来た。そして芝生の上に飛び出すと、私は東方大学のまわりの木のてっぺんが燃えて煙と炎に包まれていて、その隣の小さな教会の塔が壊滅して崩れるのを見た。
モスクのミナレットも消えて、大学の屋根の輪郭線自体も、あたかも 100 トンの大砲が乗った働きが起こったように見えた。
煙突の一つは、あたかも銃撃が当たったかのようにヒビが入り、飛んで、そして破片が騒々しく地面のタイルに落ちていき、私の書斎の窓のそばの花壇の上に壊れた赤い破片の山を作った。

＜第 12 段落＞
I and my wife stood amazed*.

- amazed→ びっくりして

Then I realised 【that the crest* of Maybury Hill must be within range* of the Martians' Heat-Ray now that the college was cleared out* of the way】.

- crest→山頂　range→範囲　clear out→除去する

＜第 12 段落　訳＞
私と妻はびっくりして立ちすくんだ。
そして私は、メイベリー丘の頂上は火星人の熱線の射程内にあるに違いなく、大学は火星人の進軍のじゃまにならないように除去されたに違いないということに気づいた（＝私がいる家も攻撃される）。

＜第 13 段落＞
(At that) I gripped my wife's arm, and (without ceremony*) ran her out into the road.

- ceremony→仰々しさ

[目次へ戻る]

Then I fetched* out the servant*, (telling her 【I would go upstairs myself for the box 〔she was clamouring* for〕】).

- fetched（fetch）→連れてくる　servant→従者　clamouring（clamour）→騒ぐ

※ servant って「英霊」じゃないですからね。

＜第 13 段落　訳＞
そのとき私は妻の腕をつかんで、仰々しさなしに彼女を道に走り出させた。
そして従者を連れてきて、彼女に、僕は 2 回に行って君が騒いでた箱をとってきてあげる、と言った。

＜第 14 段落＞
“We can’t possibly stay here,” I said; and 【as I spoke the firing】 reopened* for a moment upon the common.

- reopened（reopen）＝re+open→再開する

“But where are we to go?” said my wife in terror*.

- terror→恐怖

※ be to V の義務用法ですかな。「should V」みたいな感じ。暗唱例文「You are to be here by 7 a.m.」（命令）とは若干違いますが、まあ似たような感じです。他にも be to V には運命、可能、予定（The President is to visit Japan next week）、意志（If you are to get to the show on time…）とかありますけど、結局はどれも to 不定詞の未来傾向という属性と関係してます。

I thought perplexed*.

- perplexed→途方に暮れる

Then I remembered her cousins at Leatherhead.

“Leatherhead!” I shouted above the sudden noise.

She looked away from me downhill*.

- downhill→麓の方へ

The people were coming out of their houses, astonished*.

- astonished→驚いて

“How are we to get to Leatherhead?” she said.

＜第 14 段落＞
「ここにいるのはどうあっても無理だ」と私は言った。そして火事について話したとき、共有地で一瞬再開された。
「でもどこに行けばいいのかしら？」と妻が恐怖を感じて言った。
私は考えて途方に暮れた。
そして私はレザーヘッドにいる彼女のいとこを思い出した。
「レザーヘッド！」私は突然の騒音に重ねて叫んだ。
彼女は私から麓の方へ目をやった。
人々は家から出てきて、驚いていた。
「どうやってレザーヘッドに着けるのかしら？」と彼女は言った。

[目次へ戻る]

＜第 15 段落＞
(Down the hill) I saw a bevy* of hussars ride* under the railway bridge; three galloped* through the open gates of the Oriental College; two others dismounted*, and began running from house to house.

- bevy→群れ　hussars ride（hussar ride）→軽騎兵　galloped（gallop）→ギャロップの乗馬をする
  dismounted（dismount＝dis+mount）→乗馬してない

The sun, 《shining through the smoke 〔that drove up from the tops of the trees〕》, seemed blood red, and threw an unfamiliar lurid* light upon everything.

- lurid→不気味な

＜第 15 段落　訳＞
丘の下で私は鉄道橋の下の軽騎兵の集団を見た。3 人がギャロップ乗馬をして東方大学の開いた門を通り抜け、他の 2 人は乗馬しておらず、家から家へと走り始めた。
木のてっぺんから立ち昇る煙を通り抜けて輝いている太陽は血の赤色に見え、あらゆるものの上に見慣れず不気味な光を投げかけていた。

＜第 16 段落＞
“Stop here,” said I; “you are safe here”; and I started off* at once for the Spotted Dog, 【for I knew the landlord* had a horse and dog cart*】.

- start off→動き始める　landlord→主人　dog cart→軽装二輪馬車

I ran, 【for I perceived 【that (in a moment) everyone upon this side of the hill would be moving】】.

I found him in his bar, quite unaware* of 〔what was going on behind his house〕.

- unaware→un+aware→気づいていない

※ him ってさっきの landlord ですね。

A man stood with his back to me, talking to him.

＜第 16 段落　訳＞
「ここで止まれ」と私は言った。「ここは安全だ」。そして私はすぐにスポッティド・ドッグの方へ動きはじめた、というのも、私はその宿屋の主人が馬と軽装二輪馬車を持っているのを知っていたからだ。
私はすぐに丘の手前側にいるみんなが動いているのに気づき、走り始めた。
私は主人をバーで見つけた。彼は家の背後で何が起こっているのか全く気付いていなかった。
男が私に背を向けて立って、彼と話していた。

＜第 17 段落＞
“I must have a pound,” said the landlord, “and I’ve no one to drive it.”

※ a pond＝1 ポンドで、今となっては 1 ポンド＝150 円くらいですが、この小説が書かれた 19 世紀末はだいたい 1 ポンド＝5 万円くらいらしいです。運転に 5 万円出すって結構ですね。

“I’ll give you two,” said I, over the stranger’s shoulder.

[目次へ戻る]

“What for?”

“And I’ll bring it back by midnight,” I said.

“Lord!” said the landlord; “what’s the hurry? I’m selling my bit of a pig. Two pounds, and you bring it back? What’s going on now?”

＜第 17 段落　訳＞
「一ポンドもらわねばなりません」と主人は言った。「そして私は誰にも運転させられません」
「二ポンドやろう」と見知らぬ人の肩の上で私は言った。
「何のためです？」
「深夜までには返す」と私は言った。
「お客様！」主人が言った。「急ぎは何です？今、この男に少しの豚を売ってるんですよ。２ポンド、そして返してくれるですって？いったい今何が起きてるんです？」

＜第 18 段落＞
I explained hastily* 【that I had to leave my home】, and so secured* the dog cart.

- hastily=haste+ly→急いで　secured（secure）→獲得する

(At the time) it did not seem (to me) (nearly so urgent*) 【that the landlord should leave his】.

- urgent→火急を要する
- ※　his＝his house

I took care to have the cart there and then, drove it off down the road, and, (leaving it in charge of* my wife and servant), rushed into my house and packed a few valuables*, such plate as we had, and so forth*.

- in charge of→～の管理をして　valuables(valuable)=value+able→価値のあるもの　and so forth→～など
- ※　take care to V→V するように気を付ける（Genius 英和辞典）。ネットでは make sure の同意表現と書かれていましたが真偽のほどはわかりません。

The beech* trees (below the house) were burning 【while I did this】, and the palings* (up the road) glowed red.

- beech→ブナ≠beach　palings(paling)→柵

【While I was occupied in* this way】, one of the dismounted hussars came running up.

- be occupied in→～に忙しい

He was going from house to house, warning people to leave.

He was going on 【as I came out of my front door, 《lugging* my treasures, 〈done up in a tablecloth〉》】.

- lugging（lug）→持ち出す
- ※　do up＝包む

I shouted after him: “What news?”

＜第 18 段落　訳＞

[目次へ戻る]

急いで家を離れなければならなかったことを説明して、軽装二輪馬車を獲得した。
そのときはほとんど、とても火急を要して主人が家を離れるべきだったようには私には思えなかった（フラグ）。
私はそこでそのとき馬車をしっかり持っているように気を付け、道を下って運転していき、妻と従者にその管理を任せておいて、家に駆けこんで、持っていた皿など価値のあるものを詰め込んだ。
家の下のブナの木は私がそうしている間に燃えていて、道の上の柵は赤く光っていた。
私がこんなふうに忙しい間、乗馬していない軽騎兵の一人が走ってきた。
彼は家から家へ行っていて、人々に離れるよう警告していた。
彼は私が玄関から出ていき、テーブルクロスで包まれた宝物を持ち出しているとやってきた。
私は彼の後ろから叫んだ。「なんの知らせだ」

＜第 19 段落＞
He turned, stared, (bawled* something about “crawling out in a thing like a dish cover),” and ran on to the gate of the house at the crest.

- bawled（bawl）→怒鳴る
- ※ dish cover（皿の覆い）と火星人の乗り物の頭部がそっくり。

A sudden whirl* of black smoke 〈driving across the road〉 hid him for a moment.

- whirl→渦巻き

I ran to my neighbour’s door and rapped* to satisfy myself of 【what I already knew, 【that his wife had gone to London with him and had locked up their house】】.

- rapped（rap）→たたく
- ※ that 以下は what I already knew のことを言っています。同格の that です。
- ※ 「satisfy 人 of ～」→「人に～を納得させる」

I went in again, 《according to my promise》, to get my servant’s box, lugged it out, clapped* it beside her on the tail* of the dog cart, and then caught the reins* and jumped up into the driver’s seat beside my wife.

- clapped（clap）→放り込む　tail→後部　reins（rein）→手綱
- ※ clapped it beside her の her って、明らかに servant なんですよ。従者って女だったのかw

(In another moment) we were clear of* the smoke and noise, and spanking* down the opposite slope of Maybury Hill towards Old Woking.

- clear of→～から解放される　spanking（spank）→疾走する
- ※ clear of smoke and noise ですけど、馬車に乗ったので、外の煙と雑音から解放されたということでしょう。

＜第 19 段落　訳＞
彼は振り向き、じっと見て、「皿の覆いのようなものの中で火星人が這っている」というようなことを怒鳴って、頂上の家の門に走り出した。
道を横切って走る黒い煙の突然の渦巻きがしばらく彼を隠した。
私は近所のドアに走り、ドアを叩いて、彼の妻がロンドンに一緒に行って家にカギがかかっているという既に自分が知っていることを自分自身に納得させようとした。
約束によって、従者の箱を取るために再び私は中に入り、それを持ち出して、二輪馬車の後部の彼女の横に放り込んで、そして手綱を持って妻の隣の運転席に飛び込んだ。
次の瞬間、私たちは煙と雑音から解放され、メイベリー丘の反対の坂をオールドウォーキング目指して疾走し下っ

[目次へ戻る]

た。

＜第 20 段落＞
(In front) was a quiet sunny landscape*, a wheat* field ahead* on either side of the road, and the Maybury Inn* with its swinging* sign.

- landscape→景色　wheat→小麦　ahead→先に　inn→ホテル　swinging（swing）→揺れる

※ landscape ってなんか響きが好きです。
※ 東横インとかのインは in ではなくもちろん inn です。

I saw the doctor's cart ahead of me.

(At the bottom of the hill) I turned my head to look at the hillside* 〔I was leaving〕.

- hillside→山腹

Thick streamers of black smoke 〈shot with threads* of red fire〉 were driving up into the still air, and throwing dark shadows upon the green treetops eastward.

- threads （thread）→糸のように細いもの

The smoke already extended far away to the east and west—to the Byfleet pine woods eastward, and to Woking on the west.

※ 煙…extend……~~ash?~~
※ 真面目な話をすると、extend=ex（外に）+tend（のばす）→のばす・引きのばす・広げる　という成り立ちです。他にも tend 系だと、intend=in+tend（その状態へ+のばす）→意図する　pretend=pre+tend（前に+のばす）→装う
みたいなのがあります。若干苦しいですけど。

The road was dotted with people running towards us.

※ be dotted with～で「～が点在する」

And very faint* now, but very distinct* through the hot, quiet air, one heard the whirr* of a machine-gun 〔that was presently* stilled*〕, and an intermittent* cracking* of rifles.

- faint→かすかな　distinct→はっきりした　whirr→うなる（≠whirl 回転）　presently→目下　stilled（still）→止める　intermittent→断続する　cracking→銃のバーンという音　rifles（rifle）→ライフル

Apparently the Martians were setting fire to everything within range of their Heat-Ray.

＜第 20 段落　訳＞
前方には、道の一方の側の先に小麦畑があり、全く晴れ渡った景色であった。そして看板が揺れているメイベリー宿も見えた。
私は医者の馬車を前方に見た。
丘の下側で、私は振り向いて、私が去った山腹に目をやった。
糸のように細い赤い炎とともに放たれた太い黒煙の流れは静かな大気へと立ち上っていて、東方の緑の木のてっぺんに暗い影を落としていた。
煙は既に東方にも西方にも遠くのびていたーバイフリートの松の木の東方へ、そして西方のウォーキングへ。

[目次へ戻る]

私たちに向かって走ってくる人々が道に点在していた。
そしてとてもかすかだがとてもはっきりした、目下動きを止めていたマシンガンがうなる音と断続するライフル銃の音が熱く静かな空気を通って聞こえた。
どうも火星人は熱線の範囲内にあるすべてに炎を放っているようだった。

＜第 21 段落＞
I am not an expert driver, and I had immediately to turn my attention to the horse.
※ さっきから driver って出てきてますけど、この「宇宙戦争」が書かれた 1898 年には一般大衆向けの自動車はない（初の量産自動車である T 型フォードが出てくるのはもう少し後）です。だから馬車です。

【When I looked back again】 the second hill had hidden the black smoke.

I slashed* the horse with the whip*, and gave him a loose rein 【until Woking and Send lay between us and that quivering* tumult*】.
・ slashed（slash）→むち打つ　whip→むち　quivering（quiver）→揺れる　tumult→騒動

I overtook* and passed the doctor between Woking and Send.
・ overtook（overtake）→追いつく

＜第 21 段落　訳＞
私はプロの運転手ではないし、即座に注意を馬に向けなければならなかった。
再び振り返ると、2 番目の丘が黒煙で隠されていた。
私は馬にムチ打ち、私たちとあの揺れる騒動の場所の間にウォーキングとセンドがくるまで、馬にゆるい手綱を預けた。
私はウォーキングとセンドの間で医者に追いつき、追い越した。

# X.　IN THE STORM.

＜第 1 段落＞

Leatherhead is about twelve miles from Maybury Hill.

The scent* of hay* was in the air through the lush* meadows* beyond Pyrford, and the hedges* on either side were sweet and gay* with multitudes of* dog-roses*.
・ scent→におい　hay→干し草　lush→青々とした　meadows（meadow）→牧草地
hedges（hedge）→生垣　gay→派手な　multitudes of（a multitude of）→多数の　dog-roses（dog-rose）→野ばら

The heavy firing〔that had broken out* 【while we were driving down Maybury Hill】〕 ceased as abruptly as it began, (leaving the evening very peaceful and still).
・ broken out（break out）→起こる

We got to Leatherhead without misadventure* about nine o’clock, and the horse had an hour’s rest 【while I took

[目次へ戻る]

supper with my cousins and commended* my wife to their care】.

- misadventure＝mis+adventure（悪い+冒険）→災難　commended（commend）→委ねる

＜第 1 段落　訳＞
レザーヘッドはメイベリー丘から約 12 マイル（≒20km）にあった。
干し草の匂いがパーフォードの向こうの青々とした牧草地の空気に充満し、片方の生垣には甘く派手な多数の野ばらがあった。
私たちがメイベリー丘を下っている間に起こった重大な火事は始まったのと同じくらい不意に終わり、夕方に平和さと静けさを残した。
我々はレザーヘッドに災難に遭うことなく 9 時ごろに到着し、私がいとこと朝食をとって妻に彼らの世話を委ねる間、馬は 1 時間の休息をとった。

＜第 2 段落＞
My wife was curiously* silent throughout* the drive, and seemed oppressed* with forebodings* of evil*.

- curiously→もの珍しそうに　throughout→終始　oppressed→憂鬱な　foreboding=fore+bode+ing（前に+前兆となる+こと）→予感　evil→悪い

I talked to her reassuringly*, (pointing out*【that the Martians were tied to the pit by sheer* heaviness, and (at the utmost*) could but crawl a little out of it】); but she answered only in monosyllables*.

- reassuringly=re+assure+ing+ly（繰り返し+安心させる+こと+ように）→安心させるように　pointing out（point out）→指摘する　sheer→とてつもない　at the utmost≒at (the) most→せいぜい　in monosyllables→そっけなく

※ could but はさっきも出てきましたが、could only と同じです。この but は「～だけ」という意味です。
※ but の他の意味として、「以外」というのもあります（cf. Anything but seafood paella）。
「cannot help Ving=cannot help but V=cannot but V→V せざるを得ない」も挙げておきます。help が「避ける」という意味で、この but も「以外」という意味ですね。

Had it not been for my promise to the innkeeper*, she would, 《I think》, have urged* me to stay in Leatherhead that night.

- innkeeper→宿の主人　urged（urge）→主張する

※ If 省略仮定法過去完了で、元の文章は「If it had not been for my promise to the innkeeper, she would have urged me to stay Leatherhead that night. 」となりますが、この「If it had not been for」が熟語で「もし～がなかったなら」という意味です。
※ promise to the innkeeper（宿屋の主人）っていうのは、馬車を返すっていう約束ですね。だから語り手はわざわざ戻らなければならないわけです。~~借りパクすれば？~~

Would that I had!

※ まじでわけわかめだったんですが（that のせいで何が省略されてるか推測できない）、幸いにも海外のサイトで意味が載ってました。「If only I had」という意味らしいです。

Her face, 《I remember》, was very white as we parted*.

- parted(part)→別れる

＜第 2 段落　訳＞

[目次へ戻る]

妻は運転中終始もの珍しそうに静かで、悪い予感で憂鬱そうに見えた。
私は安心させるように彼女に話しかけ、火星人はとてつもない重力で穴に束縛されていて、せいぜい少しはい出ることくらいしかできないと指摘したが、彼女はそっけなく返事しただけだった。
もし宿の主人との約束がなかったら、私が思うに、彼女は私がレザーヘッドにその夜とどまるべきだと主張していただろう。
私はとどまっていればよかったのに。
私は覚えているが、彼女の顔は別れたときのようにとても青ざめていた。

＜第３段落＞
(For my own part), I had been feverishly* excited all day.

- feverishly=fever+ish+ly（熱+を帯びた+ように）→熱狂して

Something 〈very like the war fever〉 〔that occasionally* runs through a civilised* community〕 had got into my blood, and (in my heart) I was not so very sorry that I had to return to Maybury that night.

- occasionally=occasion+al+ly（機会+形容詞+副詞）→時折　civilised(英)=civilized(米)（civilise）＝文明化する

~~※ マジか so very sorry って言えるのかよ。…って思ったんですけど、so 形 that SV 構文を使いたくて、形容詞をさらに修飾したいから very がついてるってだけですかね。~~

訂正： so very は可能です。めったに見ませんが。また、so that とかじゃなくて、sorry that SV で「SV して気の毒だ」でしょう。so―that を使うと、「メイベリーに戻らねばならないほど悲しいわけではなかった」という謎の意味になります（※not so―that や not such―that など、否定のときは「SV するほどの～」と訳すのが定番です）

I was even afraid 【that that last fusillade* 〔I had heard〕 might mean the extermination* of our invaders from Mars】.

- fusillade→一斉射撃　extermination→皆殺し

※ that that ってほんとにあるんですね（文法上は当然許される行為だけど）。
※ be afraid that≒think that で、that 以下がよくない意味を持つときに使われます。

I can best express my state of mind by saying 【that I wanted to be in at the death】.

＜第３段落　訳＞
私自身は、一日中熱狂して興奮していた。
戦争の熱にとても似て、ときおり文明化された社会をかけ抜ける何かが、血の中で駆け巡った、そして心の中では、メイベリーにその夜戻らなければならないことがあまり悲しくはなかった。
私はあの聞いた最後の一斉射撃が火星からの侵略者の皆殺しを意味するかもしれないと思った。
私の思考の状態を表現するできる限りの表現は、火星人の死の瞬間に立ち会いたかったということだ。

＜第４段落＞
It was nearly eleven 【when I started to return】.

The night was unexpectedly* dark; (to me), (walking out of the lighted passage of my cousins' house), it seemed indeed black, and it was as hot and close as the day.

- unexpectedly=un+expected+ly（ない+予期する+ように）→意外なことに

[目次へ戻る]

(Overhead) the clouds were driving fast, albeit* not a breath stirred* the shrubs* about us.

- albeit→にもかかわらず（接続詞）　stirred（stir）→動かす　shrubs（shrub）→低木

My cousins' man lit both lamps.

Happily, I knew the road intimately*.

- intimately→深く

My wife stood in the light of the doorway, and watched me 【until I jumped up into the dog cart】.

Then abruptly she turned and went in, (leaving my cousins side by side* wishing me good hap*).

- side by side→並んでいる　hap→運

＜第 4 段落　訳＞
私が戻り始めたときには 11 時ごろだった。
その夜は私には意外なほど暗く、いとこの家の明るい通路から外に出て歩くと、実に暗く見えた。そして日中のように暑く重苦しかった。
風が我々のまわりの低木を動かしていないのにもかかわらず、頭上では雲が速く流れていた。
いとこの使用人が両方の明かりを点けた。
幸せなことに、私は道をよく知っていた。
妻は玄関口の明かりのところに立っていて、私が二輪馬車に乗り込むまで私を見ていた。
そして不意に彼女は向きを変え中に入って、並んで幸運を願ってくれたいとこのもとを去った。

＜第 5 段落＞
I was a little depressed* (at first) with the contagion* of my wife's fears, but very soon my thoughts reverted* to the Martians.

- depressed→憂鬱な　contagion→悪影響　reverted（revert）→逆戻りする

(At that time) I was absolutely* in the dark (as to* the course* of the evening's fighting).

- absolutely→完全に　as to≒about→～に関して　course→成り行き

※ in the dark は「闇の中」つまり「よくわからない」ということでしょうね。

※ as to 単体で前置詞的に用いられる場合は「～に関して」とかなのですが、as to が含まれる熟語は他にも「so as to (≒in order to≒in order that S can/may V≒so that S can/may V≒with a view to Ving≒with the view of Ving≒with the intention of Ving)→S が V するために」とか、
「so 形容詞 as to V (≒形容詞 enough to V≒so 形容詞 that S V)→とても 形容詞 なので V する/S が V するほどの 形容詞」とか、
「such 名詞 as to V(≒enough 名詞 to V)→とても 名詞 なので V する/S が V するほどの名詞」とか
は覚えておくと役に立つ可能性があります。

I did not know even the circumstances* 〔that had precipitated* the conflict〕.

- circumstances（circumstance）→事情　precipitated（precipitate）→早める

【As I came through Ockham】 (for that was the way 〔I returned〕, and not through Send and Old Woking) I saw 【(along the western horizon) a blood-red glow, 《which as I drew nearer》, crept* slowly up the sky】.

[目次へ戻る]

・ crept（creep）→近づく
※ for 以下のカッコは原文からついてました。
※ saw that S V「SV することがわかる」かなぁ。
※ which as っていう謎の物体が存在しますが、as I drew nearer the glow の the glow が which になったっていうだけでしょうね。

The driving clouds 〈of the gathering thunderstorm〉 mingled* there with masses of black and red smoke.
・ mingled（mingle）→混ぜる

＜第 5 段落　訳＞
私は最初、妻の恐怖の悪影響で少し憂鬱だったが、たちまちに私の考えは火星人に逆戻りした。
そのとき私は夕方の戦いの成り行きに関してはまったくわからなかった。
私は戦闘を早めた事情についてすら知らなかった。
私がオッカムを通り抜けて来ると、それが私の帰り道で、セントとオールドウォーキングを通り抜けていなかったので、私が近づいたとき、私は西方の地平線に沿って血の赤色の輝きがゆっくりと空に忍び寄っているのがわかった。
集まっている雷の嵐の素早く動く雲は、黒く赤い煙のかたまりとそこで混ざった。

＜第 6 段落＞
Ripley Street was deserted, and (except for a lighted window or so) the village showed not a sign of life; but I narrowly escaped an accident at the corner of the road to Pyrford, 〔where a knot of* people stood with their backs to me〕.
・ a knot of→～の群れ
※ expect（予期する）と except（除いて）ってどっちも e,x,p,e,c,t を並び替えた語ですよね。面白くない？

They said nothing to me 【as I passed】.

I do not know 【what they knew of the things 〈happening beyond the hill〉】, nor do I know 【if the silent houses 〔I passed on my way〕 were sleeping securely*, or deserted and empty, or harassed* and watching against the terror of the night】.
・ securely→安全に　harassed→疲れ果てた
※ あやややや、nor do I は文法上強制倒置が発動するパターンですね（任意的に倒置が発動するのは if 省略仮定法過去完了とか）。
ちょっと深夜テンションなので適当に倒置を挙げときます。倒置っていうのは疑問文の語順になるものです。大学受験なら出てきます。

＜ぼくの相棒（）＞
・if 省略仮定法過去完了（if 消して疑問文の語順）—Had I studied hard, I could have passed the test.

＜nor, so, neither＞
・nor 助動詞 S <V>— I don’t like him, nor does she.
・so 助動詞 S <V>— I like him, so does she.
・neither 助動詞 S <V>— I don’t like him, <u>**and**</u> neither does she.（neither は副詞なので、and などが必要です）
追記：nor 使うときは and いらないんだぜって書こうと思ったんですけど、改めて Genius 英和辞典見たら

[目次へ戻る]

「nor の前に but, 時に and を用いることもある」って書いてました。ま、今のところは語順さえ注意しておけばいいのかなぁ。

＜否定系列（以下の英文は Genius 英和辞典より）＞
・Little 助動詞 S V—Little did she dream that she would marry him.
・Never 助動詞 S V—Never have I been so angry.
・Only 助動詞 S V—Only(ようやく) then did we begin to fear(恐れる) the worst.
備考：Only then みたいに 2 語以上がまとめて文頭に出てきちゃうこともあるみたい。

＜Here, There（これらは副詞）＞
Here is the charge（代金）.
There is a man at the door.

＜as, than（比較）＞
The atmosphere of the earth contains far more oxygen or far less argon than does Mars'.　（宇宙戦争 7 章）
We must be as alien and lowly as are the monkeys and lemurs to us.　（宇宙戦争 1 章）

＜so (形容詞) that, such(名詞) that＞
So heavy was the stress of the storm just at this place that I had the hardest task to win my way up the hill.（もうすぐ出てきます。宇宙戦争第 10 章）
Such was her excitement that she lost control of herself.　（Genius 英和辞典）
こいつらは初見殺し（確信）

注意すべき倒置はこれくらいかな。他にも「"He must be a lunatic" said John.」みたいなのはあるけどね。

＜第 6 段落　訳＞
リプリー通りは荒廃していて、そして明かりのついた窓かそこらを除いては、村には人のしるしが見えなかった。
でも、私は辛うじて、私に背を向けている人の集団が立っていたパーフォードへの道の角での災難から逃れた。
彼らは私が通り過ぎたときに何も言わなかった。
私は丘の向こう側で起きたことの何を彼らが知っているのか知らなかったし、道の途中で通り過ぎた静かな馬が安全に眠っているか、見捨てられて空虚なのか、疲れ果てて夜の恐怖を見ているのかどうかも知らなかった。

＜第 7 段落＞
(From Ripley)【until I came through Pyrford】 I was in the valley of the Wey, and the red glare* was hidden from me.
・ glare→ぎらぎらする光

【As I ascended* the little hill beyond Pyrford Church】 the glare came into view again〕, and the trees about me shivered* with the first intimation* of the storm 〔that was upon me〕.
・ ascended（ascend）→上る　shivered（shiver）→震える　intimation→暗示
※ upon≒on なのぜ（一部例外あり）。

Then I heard midnight pealing out* from Pyrford Church behind me, and then came* the silhouette* of Maybury Hill, with its tree-tops and roofs 〈black and sharp〉 against the red.
・ pealing out（peal out）→（鐘が）鳴り響く　came（come）→〜ぶる　silhouette→シルエット

[目次へ戻る]

※　and then 以下倒置。

※　シルエットの綴りがsilhouetteっていう意味不明なスペリングになっているのは、（結構有名な話ですが）フランスの大臣であったケチで有名なシルエットという人が絵具の代金がもったいないからと言って白黒で絵を描かせたというのがシルエットの語源となった（諸説あり）からです。確かにフランス語っぽい綴りです。

＜第７段落　訳＞

リプリーから私がパーフォードを通ってくるまで、私はウェイの谷にいて、赤いギラギラした光は私から隠されていた。

私がパーフォード教会の小さな丘を登ったとき、その光は再び視界に入ってきて、私のまわりの木は私に襲いかかる最初の嵐の暗示で震えた。

私は背後のパーフォード教会からの鐘が深夜に鳴り響く音を聞き、そして木のてっぺんと黒く鋭い屋根とともに赤色を背景としてメイベリー丘のシルエットが出てきた。

＜第８段落＞

【Even as I beheld* this】 a lurid* green glare lit the road about me and showed the distant woods towards Addlestone.

・　beheld（behold）→見る　lurid→紅く輝く

I felt a tug* at the reins.

・　tug→急に引くこと

I saw 【that the driving clouds had been pierced* 【as it were* by a thread* of green fire】, (suddenly lighting their confusion and falling into the field to my left)】.

・　pierced(pierce)→貫通する　as it were≒so to speak→いわば　thread→糸（≠threat）

It was the third falling star!

＜第８段落　訳＞

これを見たときでさえ、紅く輝く緑の光は私のまわりの道を照らし、アドレストンの方の遠い木々を示していた。

私は手綱が強く引かれるのを感じた。

いわば緑の炎の糸によって速い雲が貫通され、突然雲の乱雑さを照らして私の左側の地面に落ちるのを見た。

３番目の流れ星だった！

＜第９段落＞

(Close on its apparition*, and blindingly* violet* by contrast*), danced out the first lightning of the gathering storm, and the thunder burst like a rocket overhead.

・　apparition→出現　blindingly=blind+ing+ly→目をくらますように　violet→スミレ色　contrast→コントラスト

※　close on→～に続いて　close to→～の近くで

The horse took the bit between his teeth and bolted.

＜第９段落　訳＞

それの出現と、目をくらますようなコントラストによるすみれ色に続き、集まってくる嵐の最初の稲妻が踊り、雷

[目次へ戻る]

鳴が頭上のロケットのように轟いた。

＜第 10 段落＞
A moderate* incline* runs towards the foot of Maybury Hill, and down this 〔we clattered*〕.
- moderate→並の　incline→傾斜　clattered（clatter）→ガチャガチャ音を立てる

Once the lightning had begun, it went on in as rapid a succession* of flashes as I have ever seen.
- succession→連続

The thunderclaps, 《treading* one on the heels* of another and with a strange crackling* accompaniment*》, sounded more like the working of a gigantic* electric machine than the usual detonating* reverberations*.
- thunderclaps（thunderclap）→雷鳴　treading（tread）→踏む　heels（heel）→末尾　crackling（crackle）→パチパチ音を立てる　accompaniment→伴奏　gigantic→巨大な　detonating（detonate）→爆発する　reverberations（reverberation）→残響音

The flickering* light was blinding and confusing, and a thin hail smote* gustily* at my face 【as I drove down the slope*】.
- flickering（flicker）→点滅する　smote（smite）→襲う　gustily→突発的に　slope→坂
- ※ smite-smote-smitten で write の不規則活用と同様です。

＜第 10 段落　訳＞
ふつうの傾斜がメイベリー丘のふもとの方に走っていて、我々はガチャガチャ動いて下った。
一度稲妻が始まり、私が今までに見たのと同じくらい素早い閃光の連続が続いた。
奇妙なパチパチと音を立てる伴奏のようなものとともに、片方がもう片方の末尾の上に走る雷鳴は、巨大な電気の機械の稼働よりもよくある爆発の残響音に似て聞こえた。
点滅する光は目をくらませて混乱させていた。そして坂を下っている途中に細いひょうが突発的に私の顔を襲った。

＜第 11 段落＞
(At first) I regarded little but the road before me, and then abruptly my attention was arrested by something 〔that was moving rapidly down the opposite slope of Maybury Hill〕.
- regarded（regard）→見る
- ※ この but も「～を除いて」でしょうねー。

(At first) I took it for the wet roof of a house, but one flash 〈following another〉 showed it to be in swift rolling movement.
- ※ take A for B「A が B だとみなす」。第 2 章冒頭にも出てきました。
- ※ さっきも出てきたんですけど、雷のところで one とか another ってなんで使われるんですかね。

It was an elusive* vision—a moment of bewildering* darkness, and then, 《in a flash like daylight》, the red masses of the Orphanage* 〈near the crest of the hill〉, the green tops of the pine trees, and this problematical* object came out clear and sharp and bright.
- elusive→つかみどころのない　bewildering=be+wilder+ing（する+荒れた+の）→当惑させる　Orphanage→孤児院　problematical=problem+ate+cal→不確かな

[目次へ戻る]

＜第 11 段落　訳＞
最初、私は前方の道路以外ほとんど見えなかった。そして素早くメイベリー丘の反対の坂を下りていく何かに不意に注意がとらわれた。
最初はそれを家のぬれた屋根だと思ったが、別の閃光を追いかけるある光が、それが素早く回る動きをしていると示した。
それはつかみどころのない景色だったー当惑させる暗闇の瞬間で。そして日中のような閃光の中で、丘の頂上付近の孤児院の赤いかたまり、松の木の緑の先端、そしてこの不確かな物体が明確にはっきりと明るくなった。

＜第 12 段落＞
And this Thing〔I saw〕!

How can I describe it?

A monstrous* tripod*, higher than many houses, striding* over the young pine trees, and smashing* them aside* in its career*; a walking engine of glittering metal, striding now across the heather; articulate* ropes of steel* dangling* from it, and the clattering* tumult* of its passage* mingling* with the riot* of the thunder.

- monstrous→奇怪な　tripod→三脚（みたいな物体）　striding（stride）→またぐ　smashing（smash）→粉々にする　aside→わきに　career→疾走　articulate→関節のある　steel→鋼　dangling（dangle）→ぶらぶら揺れる　clattering（clatter）→ガチャガチャいう　tumult→騒ぎ　passage→通行　mingling（mingle）→混じる　riot→騒々しさ

※　「;」って接続詞みたいな働きです。

A flash, and it came out vividly*, (heeling* over one way with two feet in the air), to vanish* and reappear* almost instantly* 【as it seemed, 《with the next flash》, a hundred yards nearer】.

- vividly→ありありと　heeling（heel）→追う　vanish→消滅する　reappear=re+appear→再出現する　instantly→直ちに

Can you imagine a milking stool* 〈tilted* and bowled* violently* along the ground〉?

- milking stool→背のない三本足の椅子　tilted（tilt）→傾く　bowled（bowl）→ころがす　violently→手荒に

※　violet→スミレ　violent→暴力的な　…1 文字違いで結構意味違います。

That was the impression〔those instant flashes gave〕.

But (instead of a milking stool) imagine it a great body of machinery* on a tripod stand*.

- machinery→機械　stand→台

※　imagine ってこの形での第四文型とれるんですかね。Genius 英和辞典には「C は in, with, without などの前置詞句」って書いてるんですけど。

＜第 12 段落　訳＞
そして私が見たものは！
どうやって説明すればいいのか？
奇怪な三脚のような物体で、多くの家よりも高く、若い松の木をまたいでいて、疾走のかたわら木々を粉々にして

[目次へ戻る]

いた。ピカピカ光るエンジンが歩いていて、ちょうどヘザーを横切ってまたがっている。ぶらぶら揺れる関節のある鋼のロープ、雷の騒音に交じった通行のガチャガチャ騒ぎたてる音。
空気の中それは 2 本の足で一本道を追っていて、閃光が走り、ありありと消滅したり再出現するようになり、ほとんど直ちに次の閃光とともに 100 ヤードも近くにいるように見えた。
地面に沿って傾いて転がっている三本足の椅子をイメージできるかい？
それはあれらの瞬時の閃光がもたらした印象だった。
まあ、三本足の椅子の代わりに、三脚の台に乗った機械の巨大な体を想像してくれ。

＜第 13 段落＞
Then suddenly the trees in the pine wood (ahead of me) were parted, 【as brittle* reeds* are parted by a man 〈thrusting* through them〉】; they were snapped* off and driven headlong*, and a second huge tripod appeared, 《rushing, 《as it seemed》, headlong towards me》.

- brittle→もろい　reeds（reed）→アシ　thrusting（thrust）→押し分ける　snapped（snap）→ぽっきり折る　headlong→真っ逆さまに

And I was galloping hard to meet it!

(At the sight of the second monster) my nerve went altogether*.

- altogether（all+together）→まったく

※ at the sight of A→A を見て
※ went（go）は「衰える」とか「なくなっちゃう」とかっていう意味です。go bald みたいにマイナスの意味っていうのは変わらないのね。

(Not stopping to look again), I wrenched* the horse's head hard round to the right and (in another moment) the dog cart had heeled* over upon the horse; the shafts* smashed noisily, and I was flung* sideways* and fell heavily into a shallow* pool of water.

- wrenched（wrench）→ひねる　heeled（heel）→傾く　shafts（shaft）→轅　flung（fling）→投げる　sideways→横に　shallow→浅い

※ 轅（ながえ）永汪　って馬車の車体と馬を下側で繋いでる棒みたいなのらしいです。僕も初めて聞きました。

＜第 13 段落　訳＞
そして突然、もろいアシがそれらを押し分けて進む男によって分かれるように、頭上の松の森の木が裂けた。それらはぽっきり折れて真っ逆さまに落ちてきて、2 番目の巨大なテトラポッドが現れ、私の方へ真っ逆さまに走ってくるように見えた。
そして私はそれに会うために一生懸命ギャロップで駆けていた。
2 つ目の怪物を見て、神経は全く衰えてしまった。
見返すのを止めないで、馬の頭を一生懸命右に曲げて、そして次の瞬間、二輪馬車は馬の上で傾いた。轅はやかましい音を立てて壊れ、横に投げ出され、浅い水たまりの中にひどく落っこちた。

＜第 14 段落＞
I crawled out almost immediately, and crouched*, 《my feet still in the water》, under a clump* of furze*.

- crouched（crouch）→しゃがむ　clump→やぶ　furze→ハリエニシダ

The horse lay motionless* (his neck was broken, poor brute*!) and (by the lightning flashes) I saw the black bulk* of

[目次へ戻る]

the overturned dog cart and the silhouette of the wheel 〈still spinning slowly〉.

- motionless=motion+less（動き+ない）→動かずに　brute→獣　bulk→大半

※ his neck 以下のカッコは原文からついていたものです。

(In another moment) the colossal mechanism went striding* by me, and passed uphill* towards Pyrford.

- stride（striding）→またぐ　uphill→上り坂

＜第 14 段落　訳＞

私はほとんど即座に這い出し、水の中に足を入れたままハリエニシダのやぶの下にしゃがんだ。
馬は動かずに横たわり（首が折れていた。かわいそうな馬！）、雷の閃光で、私はひっくり返された二輪馬車の黒い大半の部分と、まだゆっくり回っている車輪のシルエットを見た。
次の瞬間、大きな機械が私のとなりをまたいで行って、そしてパーフォードへの上り坂を通り過ぎた。

＜第 15 段落＞

(Seen nearer), the Thing was incredibly strange, 【for it was no mere* insensate* machine driving on its way】.

- mere→ほんの　insensate=in+sense+ate（ない+感覚+の）→理性がない

※ because（なぜなら～だ）と for（というのは～だ）って意味上では、for の方が弱いようです。for を and で代用しても意味が通じるレベルです。あと for は最近の文章ではあまり見ないのかな。

Machine it was, 《with a ringing metallic pace*》, and long, flexible*, glittering tentacles* (one of which gripped a young pine tree) swinging* and rattling* about its strange body.

- pace→歩　flexible=flex+ible（曲げる+できる）→しなやかな　tentacles（tentacle）→触手　swinging（swing）→ぶらさがる　rattling（rattle）→ガタガタ鳴る

※ 最初のころ、久しぶりの倒置です。倒置と仮定法過去完了は親友（）

※ long, flexible, glittering ってありますけど、カンマって形容詞を並べる時にも使います。

※ tentacles は別にスプラだけの用語ではありません。

※ one of which 以下のカッコは原文からついてました。

It picked* its road 【as it went striding along】, and the brazen* hood* 〔that surmounted* it〕 moved to and fro* with the inevitable* suggestion* of a head looking about.

- picked（pick）→注意深く進む　brazen→真鍮の　hood→フード（洋服とかの）状のもの
  surmount=sub+mount（副+登る）→乗せる　to and fro→あちこちに　inevitable=in+evitable（ない+避けられる）→避けられない　suggestion→様子

※ in+evit+able じゃねーのって言う人もいるかもですが、evit っていう単語が存在しないようなので。どーせラテン語系列ってのは想像がつきますけどね。

(Behind the main body) was a huge mass of white metal (like a gigantic fisherman's basket), and puffs of green smoke squirted* out from the joints of the limbs* 【as the monster swept* by me】.

- squirted（squirt）→噴出する　limbs（limb）→肢　swept（sweep）→堂々と進む

※ 倒置

And (in an instant*) it was gone.

- instant→すぐに

※ インスタントコーヒーって言いますよね。

[目次へ戻る]

※ was gone っていう風に be+過去分詞になってるからと言って、これは受動態ではありません。過去分詞の意味は２つあって、「受け身」と「完了」です。be+過去分詞で受動態を形成しているというよりは、過去分詞に「受け身」の意味があって be 動詞は単にイコールの働きをしていると考えるとわかりやすいかもです。
で、問題の was gone ですが、この gone は「完了」の方です。だから「行ってしまった」でいいわけです。なんか Ghone is gone っていうゲーム（カルロス・ゴーンのゲーム）があったとかなかったとか……

※ でも be+過去分詞を完了の意味でとらえるのは be gone とか be done くらいしか僕は見たことないです。

＜第 15 段落　訳＞
近くで見ると、その「モノ」は信じられないほど奇妙だった、それはもはやほんの理性もなく道を走る機械であったからだ。
それは機械で、鳴り響く金属の歩みを続け、長く、しなやかな、奇妙な体のまわりにぶらさがりガチャガチャしていたピカピカ光る触手（その一つは若い松の木を握っていた）があった。
それは道に沿ってまたがって行ったので注意深く進んで、そしてその上に乗せた真鍮のフード状のものは、見回す頭が避けられない気配を持ってあちこち動いていた。
主要な体の背後に、漁師の巨大なカゴのような巨大な白い金属の物体があって、そして怪物が私のそばを堂々と進むとき、緑の煙の一吹きが、肢の接合部分から噴き出していた。
そしてすぐに消えた。

＜第 16 段落＞
So much I saw then, all vaguely* for the flickering* of the lightning, in blinding* highlights and dense* black shadows.

・ vaguely→漠然と　flickering（flicker）→明滅する　blinding（blind）→目をくらます　dense→濃い

＜第 16 段落　訳＞
私はそのとき眼をくらます明るい色と濃く黒い影の中で、雷の明滅の間、すべて漠然と、とても多くを見た。

＜第 17 段落＞
【As it passed】 it set up an exultant* deafening* howl* 〔that drowned* the thunder〕—“Aloo! Aloo!”—and (in another minute) it was with its companion*, 《half a mile away》, stooping* over something in the field.

・ exultant→大喜びの　deafening=deaf+en+ing（耳が聞こえない+する+の）→耳を聞こえなくする　howl→わめき声　drowned（drown）→かき消す　companion→仲間　stooping（stoop）→かがむ

※ drawn（draw 過去分詞）と drown（かき消す、溺れる）はガチで間違えます。

I have no doubt 【this Thing in the field was the third of the ten cylinders 〔they had fired at us from Mars〕】.

※ no doubt that…で「…に違いないという確信」みたいな感じかな。

＜第 17 段落　訳＞
それが過ぎ去ると、雷鳴をかき消す、大喜びの、耳を聞こえなくするほどのわめき声が起こったーアロー！アロー！—そして一分後、それは仲間とともに、半マイル向こうで、野原の何かの上にしゃがんだ。
私は野原のこの「モノ」は火星から発射された 10 の円筒のうち 3 番目のものだという確信を持っている。

＜第 18 段落＞
(For some minutes) I lay there (in the rain and darkness) watching, 《by the intermittent* light》, these monstrous* beings* of metal 〈moving about in the distance* over the hedge tops〉.

[目次へ戻る]

・ intermittent→断続する　monstrous→奇怪な　being→生き物　in the distance→遠方に

A thin* hail was now beginning, and 【as it came and went】 their figures grew misty* and then flashed into clearness again.

・ thin→パラパラ降る　misty→霞んだ

Now and then* came a gap in the lightning, and the night swallowed* them up.

・ now and then→時々　swallowed（swallow）→飲み込む

※ なんかもっと面白い倒置ないんですかねぇ。ここのところずっと第 1 文型倒置じゃないですか。

＜第 18 段落　訳＞

数分間、私は雨と暗闇の中そこに横たわり、断続する明かりを頼りに、縁のてっぺんを超えて遠方で動き回るこれらの奇怪な金属の生き物を眺めていた。

パラパラとひょうがそのころ降り始めていて、そしてそれが来たり行ったりするにつれて、彼らの姿はかすんでいき、その後、閃光が走り、また何もなくなった。

ときどき、雷が鳴らない時間が来て、夜が彼らを飲み込んだ。

＜第 19 段落＞

I was soaked* with hail above and puddle* water below.

・ be soaked→ずぶぬれになる　puddle→水たまり

※ and は hail above（上のひょう）と puddle water below（下の水たまり）をつないでます。

It was some time 【before my blank* astonishment* would let me struggle* up the bank* to a drier* position, or think (at all) of my imminent* peril*】.

・ blank→当惑した　astonishment=astonish+ment→驚き　struggle→苦労して進む　bank→土手　drier→乾燥した　imminent→差し迫った　peril→（大きな）危険

※ or は struggle と think をつないでます。

＜第 19 段落　訳＞

私は、上はひょうで、下は水たまりでずぶぬれになった。

私の当惑した驚きが自分を乾燥した場所に土手の上を苦労して進ませたり、まったく差し迫った危険を考えたりするには少々時間が要った。

＜第 20 段落＞

(Not far from me) was a little one-roomed squatter's* hut* of wood, (surrounded by a patch* of potato garden).

・ squatter→不法定住者　hut→小屋　patch→一区画

I struggled to my feet at last, and, crouching and making use of every chance of cover*, I made a run for this.

・ cover→遮蔽物

※ ネットの辞書で struggle を調べると「He struggled to his feet」という例文が載っていて「彼はやっとのことで立ち上がった」という訳が書いてましたので使わせてもらいます。

※ make use of O→「O を利用する」です。参考までに、make the most of O→「O を最大限に活用する」

I hammered at the door, but I could not make the people hear (if there were any people inside), and (after a time) I

[目次へ戻る]

desisted*, and, 《availing myself of a ditch* for the greater part of the way》, succeeded in crawling, 《unobserved* by these monstrous machines》, into the pine woods towards Maybury.

- desisted（desist）→やめる　availing myself of～（avail oneself of～）→～を利用する　ditch→溝　unobserved=un+observe+ed（ない+目撃する+される）→気づかれない

※ if there 以下のカッコは原文からついてました。

※ availing ってありますけど、avail+able=available（利用できる）っていうよく見る言葉になります。

＜第 20 段落＞

私からそう遠くないところに、ジャガイモの庭の一区画に囲まれている、小さな 1 部屋しかない不法定住者の木の小屋があった。

私はとうとうなんとか立ち上がった、そしてしゃがんで、遮蔽物のすべてを利用しながら、これに向かって走った。私はドアを叩いたが、中の人に聞かせることはできなかった（もし中に誰かいたとしても）。そしてしばらくの後やめて、道の大半の部分は溝を利用しながら、これらの巨大な機械に気づかれずに、メイベリーの方の松の木の中に這って行くことに成功した。

＜第 21 段落＞

(Under cover of this) I pushed on*, 《wet and shivering* now》, towards my own house.

- pushed on（push on）→前進する　shivering（shiver）→震える

I walked among the trees trying to find the footpath*.

- footpath→小道

※ path より footpath の方が田舎の狭い土の一本道みたいな感じらしいです。

It was very dark indeed in the wood, 【for the lightning was now becoming infrequent*】, and the hail, 《which was pouring* down in a torrent*》, fell in columns* through the gaps in the heavy foliage*.

- infrequent=in+frequent（ない+こまめな）→稀に　pouring（pour）→降る　torrent→土砂降り　columns（column）→柱状の物（ここでは木の幹？）　foliage→葉

※ fluently（流ちょうに）と frequently（こまめに）ってなんか似てません？

※ torrent は「土砂降り」です。be caught in a shower→「にわか雨に遭う」もついでにあげておきます。

＜第 21 段落　訳＞

この遮蔽物の下で、私はもうぬれて震えながら、自分自身の家へと前進した。

私は小道を探そうとしながら木の中を歩いた。

木の中は実に真っ暗だった。稲妻はこのとき稀になっていたからだ。そして土砂降りの中で降っているひょうは重い葉の隙間を通り抜けて木の幹に落ちてきた。

＜第 22 段落＞

【If I had fully realised the meaning of all the things 〔I had seen〕】 I should have immediately worked my way* round through Byfleet to Street Cobham, and so gone back to rejoin* my wife at Leatherhead.

- worked my way（work one's way）→苦労して進む　rejoin=re+join→再会する

But (that night) the strangeness of things about me, and my physical wretchedness*, prevented me, 【for I was bruised*, weary*, wet to the skin*, deafened and blinded by the storm】.

- wretchedness=wretch+ed+ness（哀れな人+過去分詞+名詞）→悲惨　be bruised→打撲傷を負う　weary→

[目次へ戻る]

疲れて　wet to the skin→びしょぬれになる

＜第 22 段落　訳＞
もし完全に見たものすべての意味に気づいていたなら、私は即座にバイフリートを通ってチョブハム通りへ苦労して回って進んでいて、レザーヘッドで妻と再会するために戻っていただろう。
でもあの夜、私のまわりの物事の奇妙さと、私の肉体的な悲惨さが私を阻んだ。打撲傷を負っていて、疲れて、びしょぬれになっていて、嵐のせいで聞こえづらく見えにくくなっていたからだ。

＜第 23 段落＞
I had a vague* idea of going on to my own house, and that was as much motive* as I had.

- vague→漠然とした　motive→動機
- ※ idea of の of 同格。

I staggered* through the trees, fell into a ditch and bruised my knees against a plank*, and finally splashed* out into the lane*〔that ran down from the College Arms〕.

- staggered（stagger）→よろよろ歩く　plank→厚板　splashed（splash）→水を飛び散らして進む　lane→小道
- ※ 紋章院という機関が College of Arms と呼ばれてるみたいなんですけどこれかなぁ。ここからある程度距離があるんですけど。
- ※ arm っていうのに「紋章」という意味があるみたいです。

I《say》splashed,【for the storm water was sweeping* the sand down the hill in a muddy* torrent*】.

- sweeping（sweep）→押し流す　muddy=mud+y（泥+の）→濁った　torrent→急流
- ※ say って間投詞的に、「たとえば」、「言ってみれば」という意味もあるみたいです。

There in the darkness a man blundered* into me and sent me reeling* back.

- blundered（blunder）→つまずく　reeling（reel）→よろめく
- ※ send O Ving で「O に V させる」です。

＜第 23 段落　訳＞
私は自分自身の家に行くという漠然とした考えを持っていて、それは同じくらい動機となった。
よろよろ木の間を歩き、溝に落ちて厚板で膝を打撲しながら、とうとう水を飛び散らして進み、カレッジ・アームズから走っている小道に出た。
私はたとえばザブザブ音を立てて進んだ。というのも嵐の水が濁った急流に乗せて砂を丘の下へ押し流したからだ。
そこの暗闇で男が私の方へつまずいて、私をよろめかせ後退させた。

＜第 24 段落＞
He gave a cry of terror, sprang* sideways, and rushed on【before I could gather my wits* sufficiently* to speak to him】.

- sprang（spring）→とびかかる　rushed on（rush on）→襲い掛かる　wits（wit）→正気
  sufficiently=sufficient+ly→十分に

So heavy was the stress* of the storm just at this place〔that I had the hardest task to win my way up the hill〕.

[目次へ戻る]

・ stress→力

※ ここでようやく楽しい倒置が出てきたって感じです。so heavy がまとめて前に出てきてます。the stress of the storm just at this place が主語です。残りは so―that 構文ね。

※ win one's way で「苦労して進む」。前にも出てきた気が。

I went close up to the fence on the left and worked my way along its palings.

＜第 24 段落　訳＞
彼は恐怖で泣き、横にとびかかり、そして私が彼と話せるだけの正気を十分に集める前に襲いかかってきた。
ちょうどこの場所に暴風の力がとても強くかかったので、私は丘の上へと苦労して進むという最難関の仕事をすることになった。
私は左のフェンスに近づいていって、柵に沿って頑張って進んだ。

＜第 25 段落＞
(Near the top) I stumbled* upon something soft, and, 《by a flash of lightning》, saw (between my feet) a heap of black broadcloth* and a pair of boots.

・ stumbled（stumble）→つまずく　broadcloth→やわらかい平織の生地

【Before I could distinguish clearly how the man lay】, the flicker of light had passed.

I stood over him waiting for the next flash.

【When it came】, I saw 【that he was a sturdy* man, cheaply but not shabbily* dressed】; his head was bent under his body, and he lay crumpled* up close to the fence, 【as though he had been flung violently against it】.

・ sturdy→たくましい　shabbily→みすぼらしい　crumpled（crumple）→ぺちゃんこにする

※ この「宇宙戦争」では as if しか出てきてなかったのですけど、とうとう as though が出てきました。まあ、as if≒as though ですが、調べてみたら as though の方は現実性が高いときに使うらしいですね(*^-^)ノ
…となると、as though he had been flung violently against it（フェンスに乱暴に投げ飛ばされたように）というのが本当である可能性が生じるわけです。

＜第 25 段落　訳＞
頂上の近くで私はなにかやわらかいものにつまずき、稲妻の閃光によって、足の間に黒くやわらかい生地と 1 足のブーツが見えた。
その男がどんな風に横たわっているのかはっきり見分ける前に、点滅する光が過ぎていった。
次の閃光を待って私は彼の上に立った。
閃光が来ると、私は彼がたくましい男で、貧しくもみすぼらしくない着こなしをしていたことがわかった。彼の頭は体の下に挟まれていて、あたかもフェンスに乱暴に投げつけられたかのように彼はフェンスの近くでぺちゃんこに挟まれて横たわっていた。

＜第 26 段落＞
(Overcoming* the repugnance* 〈natural to one 〔who had never before touched a dead body〕〉), I stooped and turned him over to feel for his heart.

・ overcoming（overcome）→打ち勝つ　repugnance→嫌悪

[目次へ戻る]

He was quite dead.

Apparently his neck had been broken.

The lightning flashed for a third time, and his face leaped* upon me.

- leaped（leap）→跳び乗る

I sprang to my feet.

It was the landlord of the Spotted Dog,〔whose conveyance* I had taken〕.

- conveyance→乗り物

※　この人は二輪馬車を貸してくれた人です。主要登場人物死にすぎでしょ。

※　というか、二輪馬車貸してやったから逃げられなくなって死んだんじゃないのｗ

＜第 26 段落　訳＞

死体を触ったことのない人には自然な嫌悪感に打ち勝ち、私はかがみ、彼をひっくり返して心臓の鼓動を感じようとした。

彼は全くもって死んでいた。

どうも彼の首は折られているようだった。

稲妻が 3 回目の閃光を走らせ、彼の顔が私に見えた。

私は彼の足の方に（驚いて）跳んだ。

それはスポッティド・ドッグの主人で、彼の乗り物を私はとっていた。

＜第 27 段落＞

I stepped over him gingerly* and pushed on up the hill.

- gingerly→とても慎重に

I made my way by the police station and the College Arms towards my own house.

※　make one's way で「前進する」です。「前進する」系列の言葉ってたくさんありますね。

Nothing was burning on the hillside,【though from the common there still came a red glare and a rolling* tumult of ruddy* smoke〈beating up against the drenching* hail〉】.

- rolling（roll）→轟く　ruddy→赤い　drenching（drench）→びしょぬれにする

So far as I could see by the flashes, the houses about me were mostly uninjured*.

- uninjured→損傷がない

※　as far as SV（SV する限り）（as far as は範囲。as long as は条件で「～SV する限り」）ってありますけど、まあ、後ろに uninjured っていう風に否定があるので so far as っていう風になったんでしょうね。

(By the College Arms) a dark heap lay in the road.

＜第 27 段落＞

私は彼の上をとても慎重に歩み、丘へ前進した。

警察署とカレッジ・アームズを横目に、自分自身の家に向かって前進した。

[目次へ戻る]

何も丘の側面では燃えていなかった。共有地からは赤い光と、びしょぬれにするひょうを背景に鳴る赤い煙の轟く騒ぎがまだ聞こえてきたが。
閃光によって私が見える限り、まわりの家はほとんど損傷がなかった。
カレッジ・アームズのそばで、暗い山が道路に横たわっていた。

＜第 28 段落＞
(Down the road 〈towards Maybury Bridge〉) there were voices and the sound of feet, but I had not the courage to shout or to go to them.

※ I didn't have the courage じゃないのね。I had the courage not to shout でもない。じゃあなんで not がそんなところにあるんだ（困惑）。

I let myself in with my latchkey*, closed, locked and bolted* the door, staggered to the foot of the staircase*, and sat down.

・ latchkey→掛け金のカギ　bolted（bolt）→掛け金をかける　staircase→階段

My imagination was full of those striding metallic monsters, and of the dead body smashed against the fence.

※ of があるのでわかりやすいですが、and は of those striding metallic monsters と of the dead body smashed against the fence をつないでます。

＜第 28 段落　訳＞
メイベリー橋への道路の下で、声と足音が聞こえたが、私は叫んだり彼らのところに行ったりする勇気がなかった。
私はカギをあけて中に入り、閉めてカギをかけ、ドアに掛け金をかけ、階段の下によろめいて行って、座り込んだ。
想像はあれらのまたぐ金属の怪物と、フェンスにたたきつけられた死体でいっぱいだった。

＜第 29 段落＞
I crouched at the foot of the staircase with my back to the wall, shivering violently*.

・ violently→激しく

＜第 29 段落　訳＞
私は壁に背中をつけて階段の下にしゃがみこみ、激しく震えていた。

---

以上が Book 1 の 1 章～10 章となります。お疲れ様です。

[目次へ戻る]